第Ⅴ章　平安時代の遺構と遺物

平安時代の遺構は総数で246基検出された（柱穴を除く）。内訳は、建物跡41軒、掘立柱建物跡11軒、土坑86基、溝跡108条、その他の遺構７基である。

竪穴住居跡には以下に記すような共通点が伺えた。それは、①カマドが付設される壁面の外方に掘立柱建物跡が検出され、②カマドが付設されない三壁面の外側にＵ字形の溝跡が検出され、また、③Ｕ字形の溝跡の末端に土坑が付随し、④その堆積土中に粘土と焼土が検出されるというものである。

これら竪穴住居跡の周囲に検出される溝、土坑、掘立柱建物跡はあくまでも竪穴住居跡とは接しない状態で検出されたものであるため、本来的には個別に記載すべきものであるが、各々の遺構の一定した検出位置より判断して、それらを一体のものとしてとらえ、さらにそれら一体の遺構群を一括して「建物跡」と総称し、またその場合の竪穴住居跡は「竪穴部」、溝跡は「外周溝」、掘立柱建物跡は「掘立柱部」と特別に呼称した。

調査区の南域には環濠が検出され、その内側には建物跡、土坑、溝跡等の遺構が検出された。内側において検出された遺構のどれが環濠に伴うものかといった確実な根拠は得られなかったものの、環濠と建物跡とを全く切り離して記載するのは余りに消極的であると考え、あえて環濠の内側において検出された遺構は独立させ、第６節において記載することとした。

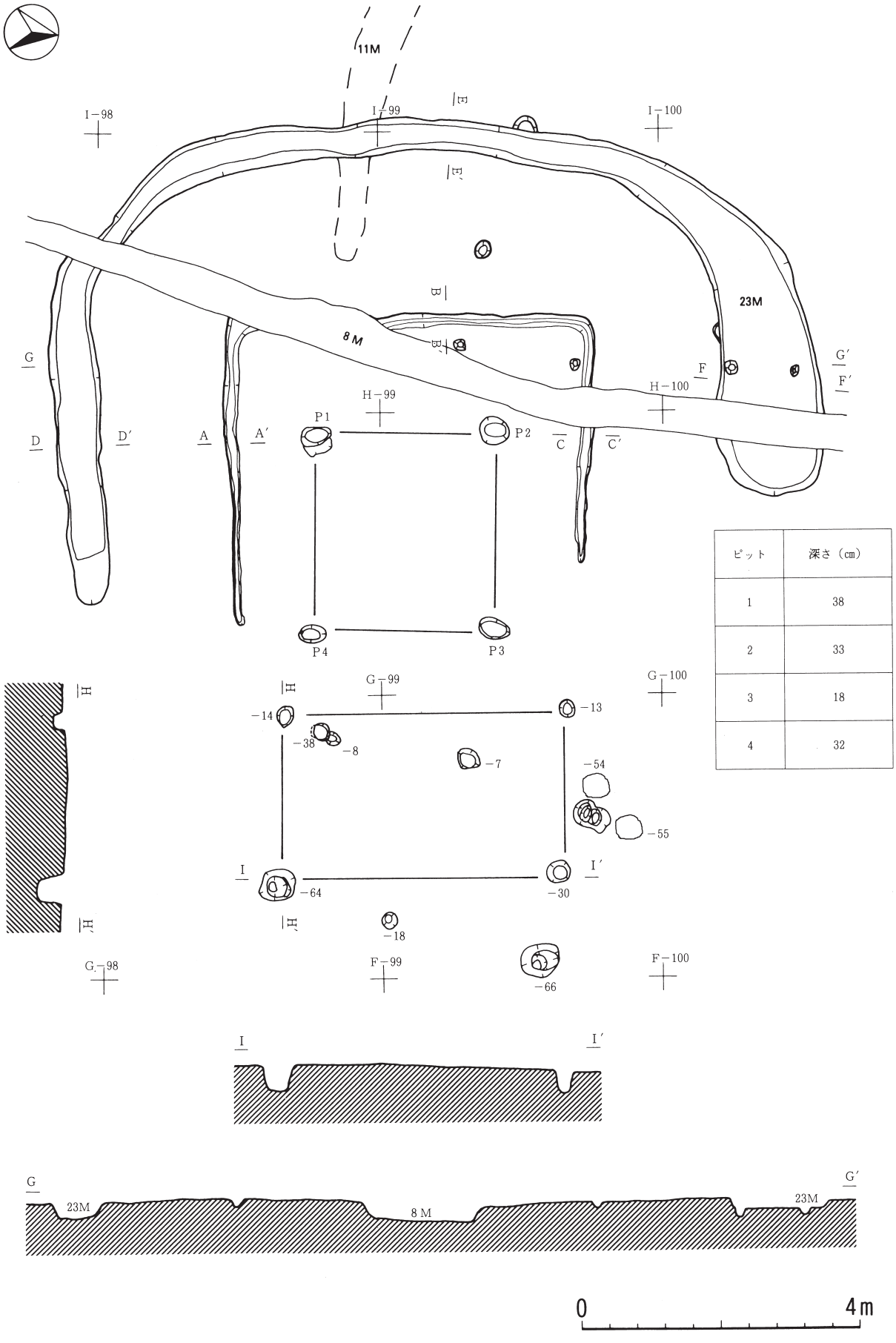
第１節　建物跡

第１号建物跡　観察一覧表

位　置	Ｇ～Ｈ－98～99	図版番号	第Ⅴ－１－１～２図	写真図版番号	５－１、２

重複関係	８Ｍ（現代）＞１Ｈ＞７Ｈ、16Ｈとの新旧関係は不明である。 掘立柱部分の柱穴がＳＢ02の柱穴と共通であるが、新旧関係は不明である。

竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁	
		壁　長（ｍ）	(4.90)	5.24	4.34	3.42	
		壁　高（ｍ）	―――	―――	―――	―――	
		周溝－幅（ｍ）	―――	13	20	16	
		周溝深さ（ｍ）	―――	9	13	14	
	平面形	正方形	床面積	約21.7㎡	主軸方位	Ｎ－83°－Ｅ	
	壁	不明である。			床	ほぼ平坦である。	
	周　壁	東壁を除き一巡するものと思われる。					
	ピット	４個検出された。主柱穴は、P_1～P_4と思われる。					
	かまど	遺存状態	検出されなかった。	位　置	東壁の南寄りであったと思われる。		
		ごくわずかの焼土を検出した。					
	堆積土	内周溝の堆積土のみ検出された。２層に分層され、黒褐色土を主体とし、少量のローム粒を混入する。人為堆積と思われる。					
	出土遺物	なし。					
	附属施設	掘立柱建物跡１、外周溝（23M）、土坑－なし。					
	小　結	上部はかなり削平されていて、内周溝の下端を検出したのみである。 第７号建物跡との重複関係や、外周溝の白頭山火山灰の堆積土状況及び出土遺物から、本建物跡の時期は、世紀～世紀と思われる。					

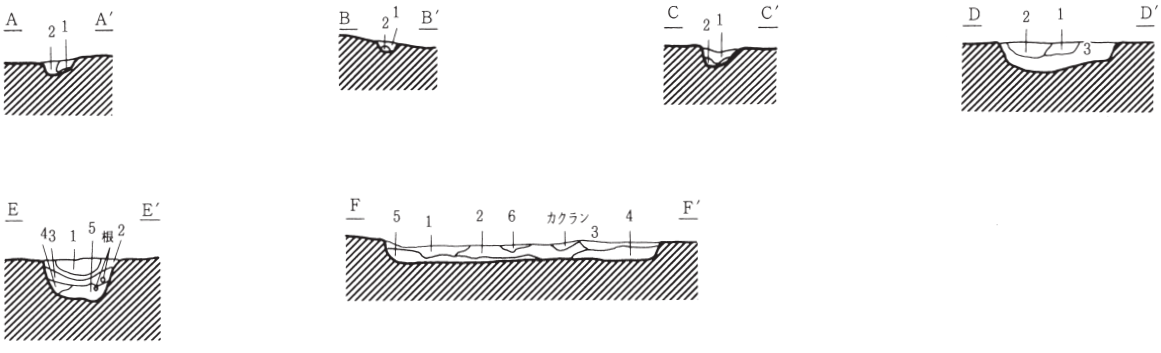


ピット	深さ（cm）
1	38
2	33
3	18
4	32

第Ⅴ－１－１図　第１号建物跡（１）

掘立柱部	規　　模	桁行１間（総長　4.03m－東）×梁行１間（総長　2.32m－南）	
	平面形式	長方形を呈する南北棟建物跡である。	
	柱　　穴	径	21㎝～47㎝の円形の掘り方である。
		深　さ	13㎝～64㎝で、東側が深い。
	柱間寸法	桁行――4.03m（13尺３寸）、梁行――2.40m（７尺９寸）	
	出土遺物	柱穴の堆積土――土師器甕６	
	小　　結	竪穴部の面積（21.7㎡）＋掘立柱部の面積（ 9.4㎡）＝約31.1㎡（約19畳）	

外周溝・23M	規　　模	長　さ	18.6m	幅	40～140㎝	断面形	箱形
		深　さ	10～23㎝	幅	25～130㎝	傾　斜	西→東
	堆 積 土	６層に分層された。黒褐色土を主体とし、白頭山火山灰、ローム粒を混入する。人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土――土師器甕１					
	小　　結	全体的に削平されている。 タイプ－南側から西側にかけてはほぼ同じ幅で、北川がふくらむ。					



竪穴部（A－A′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（小）少量。
第２層　にぶい黄褐色土　10YR5/4　ローム層、黒褐色土微量。

竪穴部（B－B′）

第１層　黒褐色土　10YR3/1　L.B（小）、ローム粒少量。
第２層　にぶい黄橙色土　10YR6/4　ローム層。

竪穴部（C－C′）

第１層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（小）多量。

第23号　溝跡（D－D′）

第１層　黒褐色土　10YR2/3　火山灰微量、L.B（小）、ローム粒少量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（小）、ローム粒微量。
第３層　暗褐色土　10YR3/3　火山灰（小）少量、LB多量。

第23号　溝跡（E－E′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　火山灰（小）少量、ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　火山灰、ローム粒微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒多量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒多量。
第５層　暗褐色土　10YR3/3　L.B（大）、ローム粒多量。

第23号　溝跡（F-F′）

第１層　黒褐色土　10YR3/2　火山灰微量、L.B（小）少量。
第２層　黒褐色土　10YR3/2　火山灰、L.B（小）少量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　火山灰、L.B（小）微量。
第４層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　L.B（大）多量、灰微量。
第５層　にぶい黄褐色土　10YR5/3　ローム層。
第６層　にぶい黄色土　2.5YR6/3　火山灰多量。

0　　2m

第Ⅴ－１－２図　第１号建物跡（２）

第２号建物跡　観察一覧表

位　置	L～M－88～89	図版番号	第Ⅴ－１－３～５図	写真図版番号	5－3～8、6－1、3

重複関係	３H＞10H（２Hを拡張）＞２H

竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
		壁　長（ｍ）	4.80	4.70	4.80	4.76
		壁　高（ｍ）	――	――	――	――
		周溝－幅（ｍ）	38	34	24	26
		周溝深さ（ｍ）	34	30	22	30
	平面形	長方形	床面積	約17.8㎡	主軸方位	N－101°－E
	壁	検出されなかった。			床	ほぼ平坦である。
	周　壁	かまど直下を除き一巡する。				
	ピット	11個検出された。主柱穴は、P_1、P_3、P_4、P_5と思われる。 南東コーナー以外の３コーナーに隅柱穴が見られる。				
	かまど	遺存状態	残存なし。	位　置	東壁の南寄りであったと思われる。	
		10Hの構築時に破壊されたものと思われる。				
	堆積土	内周溝の堆積土のみ検出された。４層に分層され、黒褐色土を主体とし、ローム粒を混入する。人為堆積と思われる。				
	出土遺物	北東隅の貼床下の小土坑―土師器壺 鉄製品１（刀子）				
	附属施設	掘立柱建物跡１棟、外周溝－19M、土坑－10土、32土、柱穴列１基（10Hにも併載） 掘立柱建物跡は10Hと重複する。				
	小　結	上部がかなり削平されている。（10Hの構築に起因）				

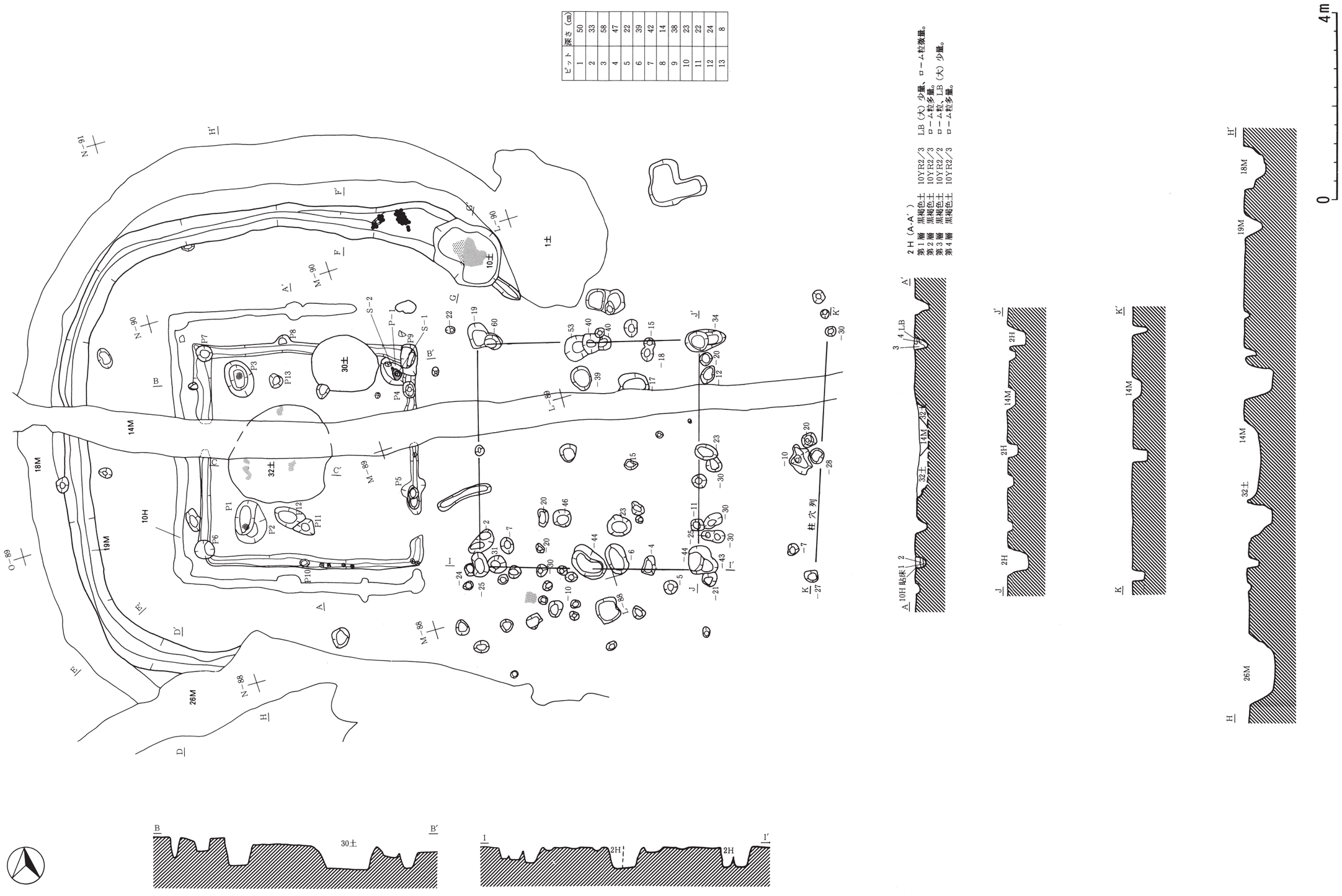
掘立柱部	規　模	桁行２間（総長4.60m－南）×梁間２間（総長4.75m－東）	
	平面形式	ほぼ正方形を呈する東西棟建物跡である。	
	柱　穴	径	45㎝～70㎝の円形ないし楕円形の掘り方である。
		深　さ	19㎝～53㎝
	柱間寸法	桁行――2.35m（７尺８寸）、2.25m（７尺４寸） 梁間――2.40m（７尺９寸）、2.35m（７尺８寸）	
	出土遺物	なし。	
	小　結	竪穴部の面積（17.8㎡）＋掘立柱部の面積（22.3㎡）＝約40.1㎡	

柱穴列	規　模	２間（総長5.25m）	
	平面形式	直線を呈する南北方向建物跡である。	
	柱　穴	径	24㎝～30㎝の円形の掘り方である。
		深　さ	27㎝～30㎝
	柱間寸法	2.60m（８尺５寸）、2.65m（８尺７寸）	
	出土遺物	なし。	
	小　結	掘立柱部１の庇に相当する可能性がある。	

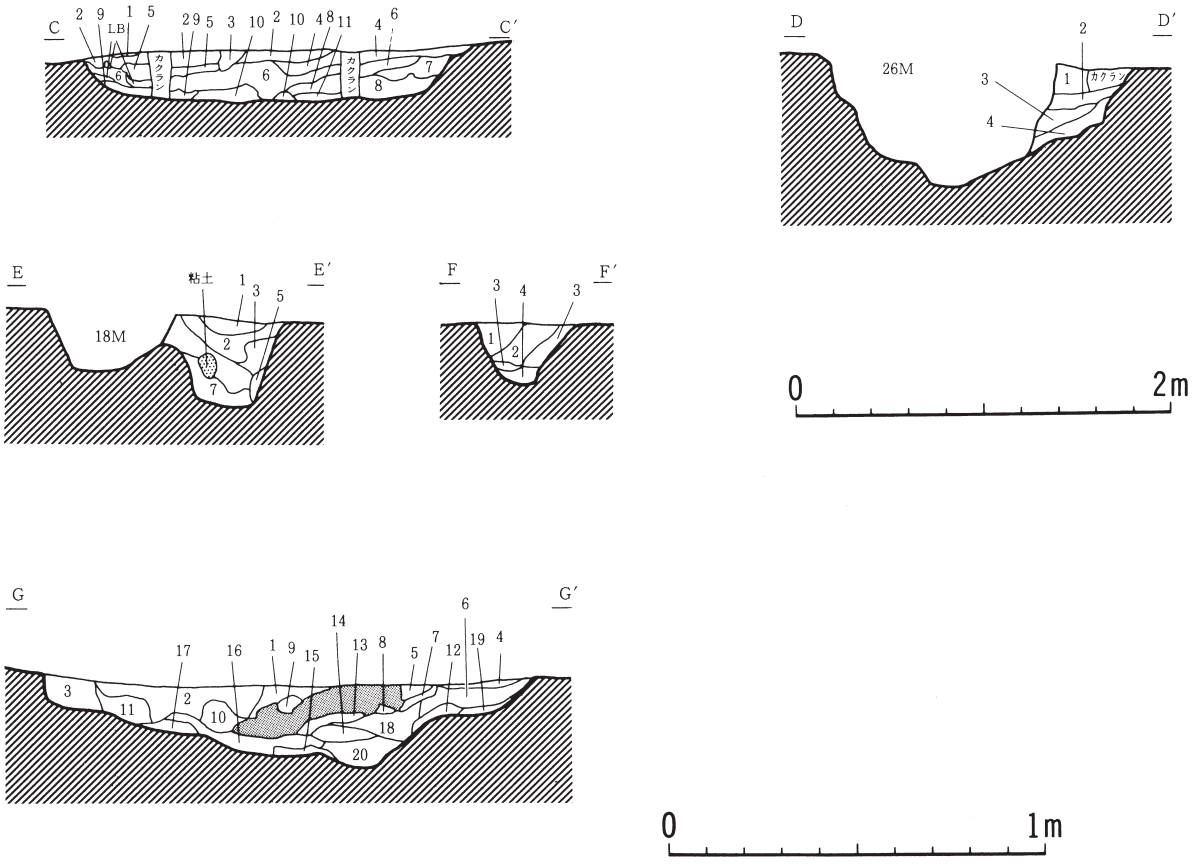
外周溝・19M	規　模	長　さ	20.2m	幅	45～140㎝	断面形	箱形
		深　さ	34～45㎝	幅	10～60㎝	傾　斜	西→東
	堆積土	７層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。人為堆積である。					
	出土遺物	堆積土――土師器坏47、甕61、須恵器坏４ 底面―土師器甕３					
	小　結	粘土・焼土の廃棄がみられる。破壊されたカマドの部材と思われる。 南側は３H外周溝に破壊されるため不明。北側には土坑（10土）が付随する。					

土坑・10土	平面形	楕円形	壁	ゆるやかに立上がる	底面	凹凸がある。	
	規模	長軸 170cm	短軸	127cm	深さ	22cm	
	堆積土	20層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土、炭化材を混入する。					
	出土遺物	なし					
	小結	粘土・焼土の廃棄がみられる。破壊されたカマドの部材であると思われる。					

土坑・32土	平面形	不整円形	壁	ゆるやかに立上がる	底面	平坦である。	
	規模	長軸 216cm	短軸	208cm	深さ	56cm	
	堆積土	11層に分層された。黒褐色土を基調とし、砂、ローム粒を混入する。 10H貼床除去後に検出されたものである。					
	出土遺物	堆積土一土師器2					
	小結						



第Ⅴ－１－３図　第２号建物跡(1)



第32号　土坑（C－C′）

第１層　黒褐色土　10YR3/2　L.B（大）中量、ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（小）少量、焼土粒、炭化粒、ローム粒微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、炭化粒、L.B（小）、ローム粒微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（大）、ローム粒多量、焼土粒微量。
第５層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（大）中量、ローム粒微量。
第６層　黒褐色土　10YR2/3　砂少量、L.B（大）、ローム粒微量。
第７層　黒褐色土　10YR2/2　砂多量、L.B（大）微量。
第８層　黒色土　10YR2/1　砂多量、砂B（大）、L.B少量。
第９層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（大）、ローム粒少量。
第10層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（中）少量、ローム粒微量。
第11層　暗褐色土　7.5YR3/4　砂質土、粘土B（大）微量。

第19号　溝跡（D－D′）

第１層　黒褐色土　10YR2/3　焼土、炭化粒、L.B（小）、ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、ローム粒微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒（大）少量、焼土、粘土（小）微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、粘土（大）、ローム粒微量。

第19号　溝跡（西側セク）（E－E′）

第１層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（小）、ローム粒少量。
第２層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（大）（小）、ローム粒少量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、ローム粒微量。
第４層　黄褐色土　10YR5/6　粘土多量。
第５層　黒褐色土　10YR2/2　L.B、ローム粒微量。
第６層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（大）、ローム粒微量。
第７層　黒色土　10YR1.7/1　L.B（大）、ローム粒微量。

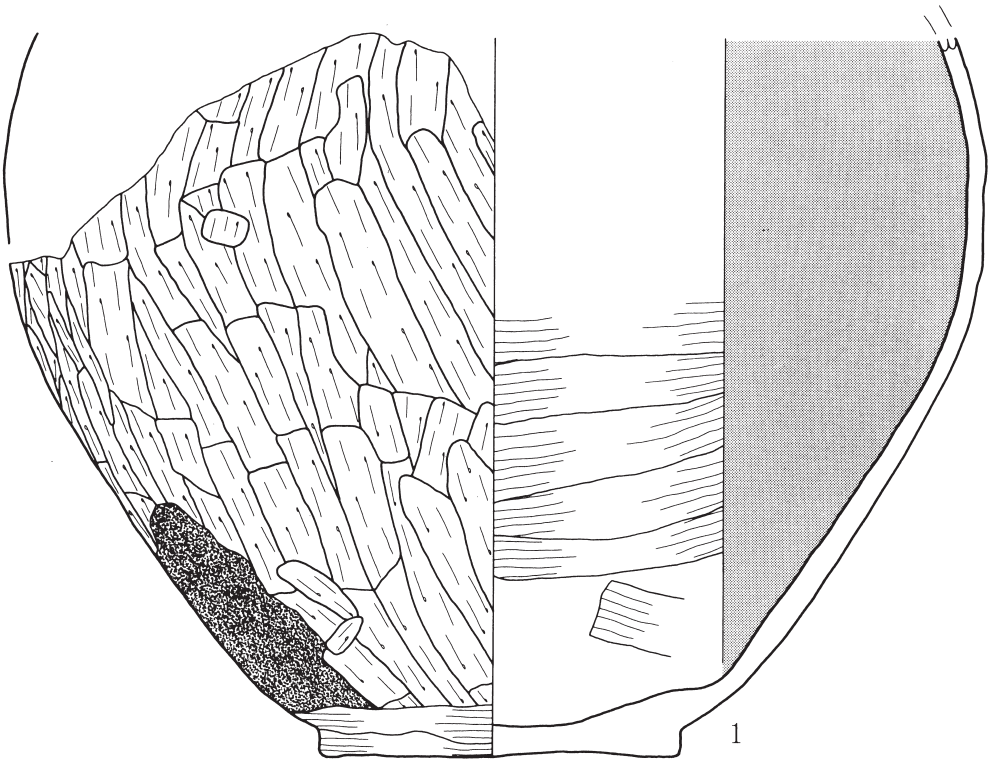
第19号　溝跡南北セク（F－F′）

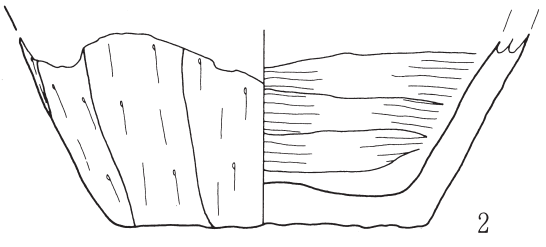
第１層　暗褐色土　10YR3/3　L.B（小）中量、ローム粒少量。
第２層　暗褐色土　10YR3/3　L.B多量、炭化物微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、L.B（大）微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　粘土、ローム粒多量、ローム粒微量。

第10号　土坑（G－G′）

第１層　黒褐色土　10YR3/1　焼土微量。
第２層　黒色土　10YR2/1　ローム粒微量。
第３層　褐色土　10YR4/6　ローム粒多量。
第４層　褐灰色土　10YR4/1　L.B微量。
第５層　黒褐色土　10YR3/1　焼土少量。
第６層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒（小）微量。
第７層　暗褐色土　10YR3/3　L.B多量、焼土、ローム粒微量。
第８層　黒褐色土　7.5YR2/2　焼土中量。
第９層　暗褐色土　10YR3/4　焼土少量。
第10層　暗褐色土　7.5YR3/4　焼土中量。
第11層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、焼土微量。
第12層　褐色土　10YR4/4　粘土多量。
第13層　にぶい黄橙色土　10YR5/4　焼けた粘土、焼土微量。
第14層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（大）少量、焼土、炭化物微量。
第15層　にぶい黄橙色土　10YR5/4　粘土層。
第16層　黒褐色土　10YR2/3　粘土少量、焼土、LB微量。
第17層　黒褐色土　10YR2/3　粘土中量。
第18層　黒褐色土　10YR2/2　粘土少量、炭化物、炭化粒微量。
第19層　にぶい黄橙色土　10YR5/4　ローム層。
第20層　黒色土　10YR1.7/1　焼土、粘土粒、粘土（大）、ローム粒微量。

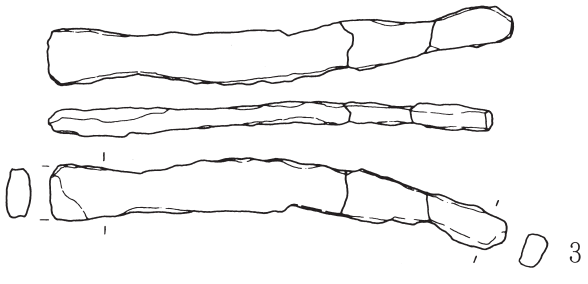
第Ⅴ－１－４図　第２号建物跡（２）





0　10cm

遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	短頸壺	床下		(19.0)	9.5		ヘラケズリ	ヘラケズリ		ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ		内面黒色処理 埋甕、化粧粘土	
2	〃	甕	19M底面		(5.1)	8.4			〃			〃	砂底			



0　5cm

遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	磁石付力	整理No.
3	鉄製品	刀子	2H　覆土	129.0	16.0	8.0	16.4	刃先欠損 背部に関が見られる刃部には見られない	F－2	×	01

第Ⅴ－1－5図　第2号建物跡（3）

第３号建物跡　観察一覧表

位　置	M～O－85～87	図版番号	第Ⅴ－１－６～12図	写真図版番号	5-3、6-2～8、7-1、2

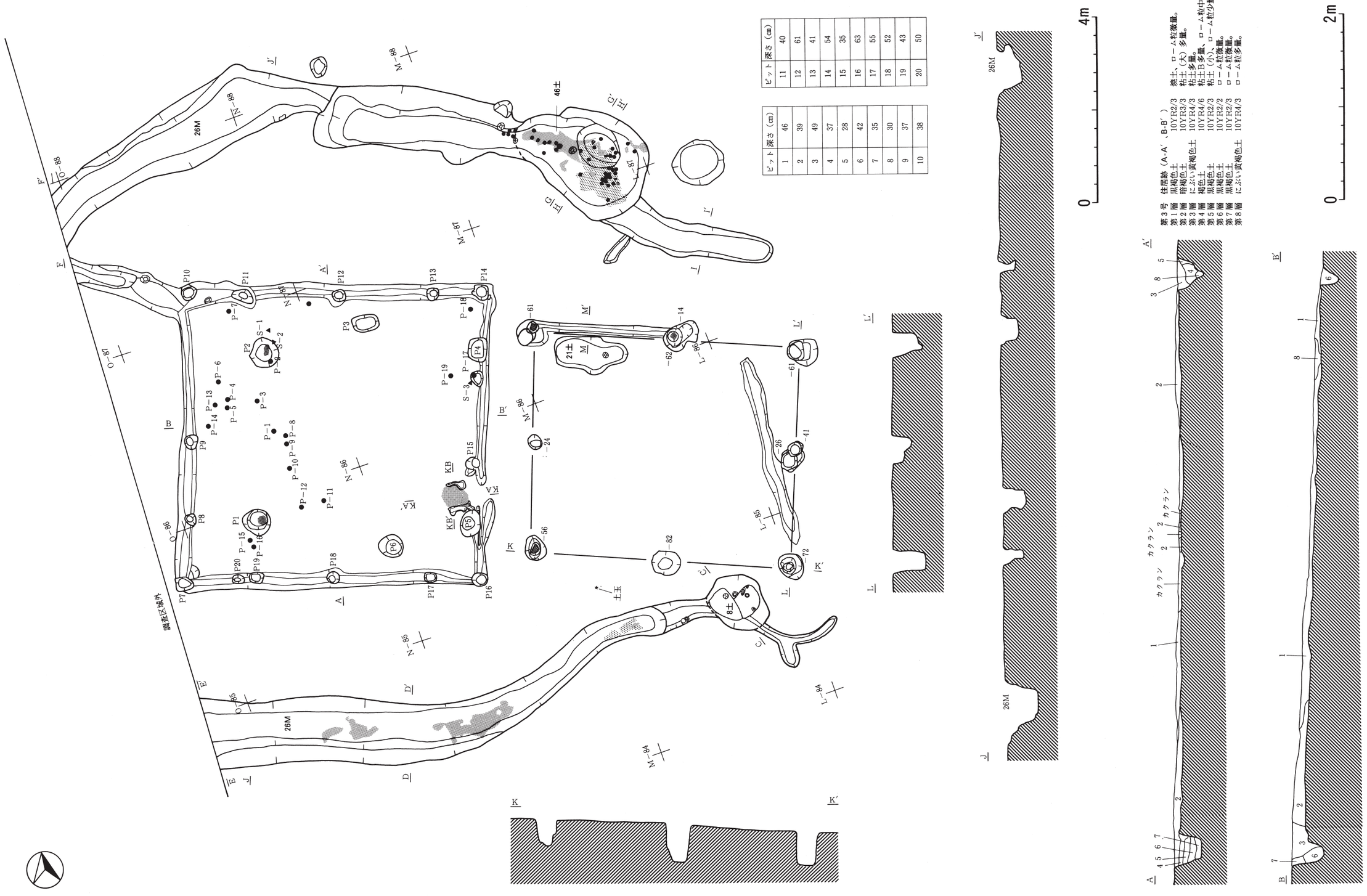
重複関係	３H＞10H（２Hを拡張）＞２H

竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
		壁　長（ｍ）	6.47	6.60	6.68	6.62
		壁　高（ｍ）	―――	27	7	5
		周溝－幅（ｍ）	18	23	35	35
		周溝深さ（ｍ）	20	20	25	26
	平面形	正方形	床面積	約35.1m²	主軸方位	N－97°－E
	壁	直線的に外反する。			床	平坦である。
	周　壁	カマド直下を除き一巡する。カマド煙道部方向には内周溝が２条みられる。				
	ピット	20個検出された。壁柱穴は15基みられる。 主柱穴は、P_1、P_2 P_4、P_5と思われる。P_1、P_2には柱痕がある。				
	かまど	遺存状態	やや良好	位　置	東壁の南寄り	
		ソデ部の大半は削平のため残存していないが、火床面及びその周辺の土器は良好に検出された。煙道部は検出されなかったが、周溝が途切れている点よりみて、浅い煙道部は存在したものと思われる。				
	堆積土	９層に分層された。黒褐色土を主体とし、焼土、粘土、ローム粒を混入する。 人為・自然堆積かは不明である。				
	出土遺物	堆積土－土師器坏３、甕38、須恵器坏４、壺１、大甕１ 床面－土師器坏６、甕35、須恵器壺２、大甕３、鉄製品１（刀子） 内周溝確認面－鉄製品１（？）、内周溝堆積土－須恵器壺１ 貼床中－土師器甕１、須恵器壷１ カマド確認面－鉄製品１（刀子？） カマド堆積土－土師器甕２、カマド床面－鉄製品１（刀子）				
	附属施設	掘立柱建物跡１、外周溝－26M、土坑－８土、46土				
	小　結	北西隅には溝跡が１条付随する（重複関係ではなく一体のものと考えられる）。				

掘立柱部	規　模	桁行２間（総長5.46m－南）×梁間２間（総長4.82m－西）	
	平面形	長方形を呈する東西棟建物跡である。周溝状の溝跡が２条付随し、うち１条は２個の柱穴を連結する。	
	柱　穴	径	24cm～69cmの楕円形の掘り方である。
		深　さ	24cm～82cmで、本遺跡の中で最も深い。
	柱間寸法	桁行――2.84m（９尺３寸）、2.62m（８尺６寸） 梁間――2.32m（７尺６寸）、2.50m（８尺２寸）	
	出土遺物	柱穴堆積土－土師器甕３、須恵器壺１、大甕２	
	小　結	竪穴部の面積（35.1m²）＋掘立柱部の面積（26.3m²）＝約61.4m²	

外周溝26M	規　模	長　さ	31.5m	幅	18～160cm	断面形	箱形
		深　さ	64～69cm	幅	13～64cm	傾　斜	西→東
	堆積土	12層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、粘土、焼土を混入する。上位で白頭山火山灰を検出した。自然堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土――土師器坏２、甕98、須恵器坏２、壺２、大甕１、鉄製品１					
	小　結	粘土、焼土の廃棄がみられる。破壊したカマドの部材と考えられる。 両末端に土坑が付随し、外周溝がさらに細長く延びる。					

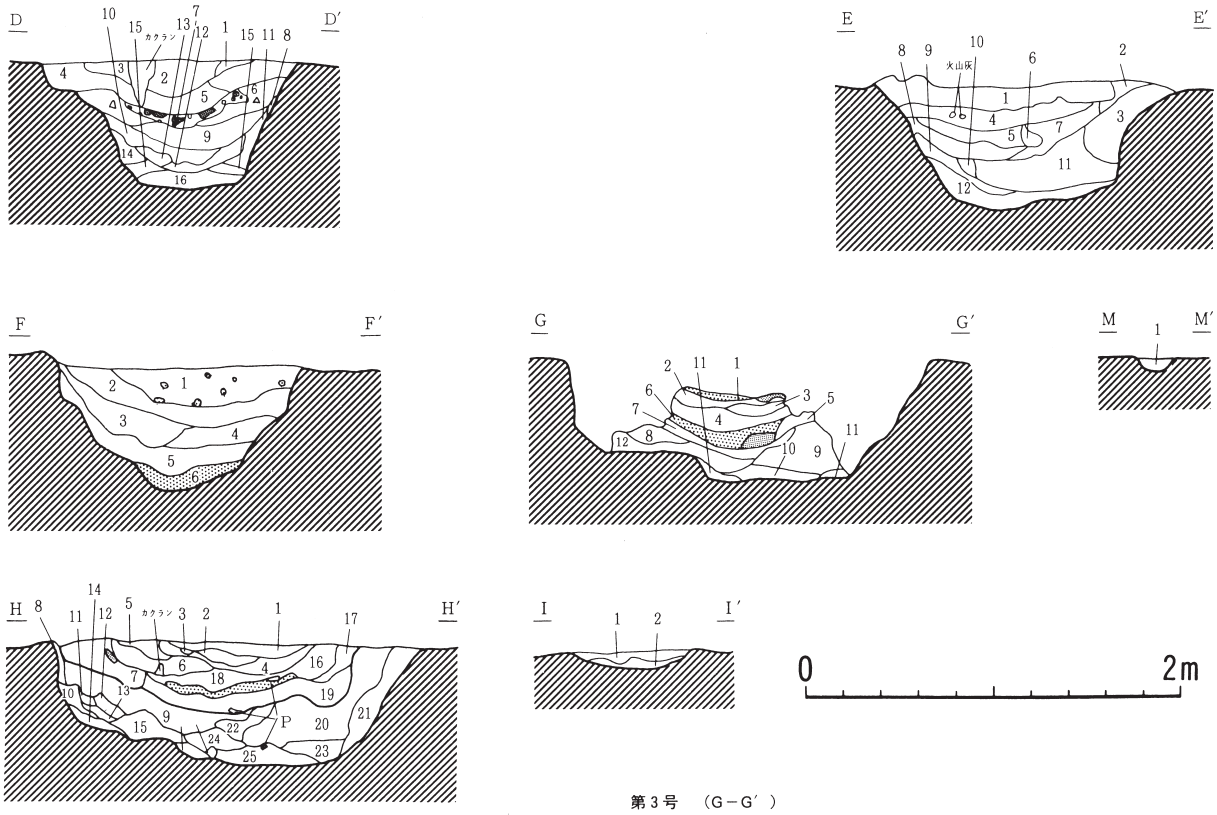
土坑・8土	平面形	楕円形	壁	直線的に外反する。	底　面	平坦である。	
	規　模	長　軸	138cm	短　軸	114cm	深　さ	67cm
	堆積土	セクション図は作成しなかった。					
	出土遺物	堆積土－土師器35					



ピット	深さ（cm）
1	46
2	39
3	49
4	37
5	28
6	42
7	35
8	30
9	37
10	38

ピット	深さ（cm）
11	40
12	61
13	41
14	54
15	35
16	63
17	55
18	52
19	43
20	50

第Ⅴ－１－６図　第３号建物跡(1)



第26号　溝跡（D－D′）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	砂微量。
第２層	黒褐色土	10YR3/1	焼土粒、砂微量。
第３層	黒色土	10YR2/1	砂微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒、炭化粒微量。
第５層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒、炭化粒微量。
第６層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒、炭化粒、砂微量。
第７層	黒褐色土	10YR2/3	火山灰中量、焼土粒、炭化粒微量。
第８層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量。
第９層	黒褐色土	10YR2/3	L.B、ローム粒少量、焼土粒、炭化粒、粘土B、砂微量。
第10層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、炭化粒、砂、ローム粒微量。
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、焼土粒、粘土、L.B微量。
第12層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒、L.B（大）少量。
第13層	暗褐色土	10YR3/3	砂、L.B（大）中量。
第14層	黒褐色土	10YR2/3	砂中量、粘土、ローム粒微量。
第15層	黒褐色土	10YR2/2	砂少量、粘土B、L.B微量。
第16層	褐色土	10YR4/4	粘土層、ローム粒中量。

第26号　溝跡（E－E′）

第１層	黒色土	10YR2/1	焼土、粘土粒微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒、炭化粒、ローム粒微量。
第３層	黒色土	10YR2/1	ローム粒少量、焼土、炭化粒微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/3	火山灰少量、焼土、ローム粒少量、炭化物微量。
第５層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒多量、焼土少量、炭化物微量。
第６層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒多量、焼土少量、炭化物微量。
第７層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒多量、L.B中量、炭化粒微量。
第８層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土、粘土少量、炭化粒微量。
第９層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒多量、焼土、粘土、砂少量。
第10層	灰黄褐色土	10YR5/2	ローム粒多量、焼土微量。
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土少量、炭化粒微量。
第12層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒中量、焼土、炭化粒、L.B微量。

第26号　溝跡（F－F′）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒（大）中量、焼土、炭化物、粒土B（大）微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	焼土、炭化粒、ローム粒（大）微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒、炭化粒、ローム粒微量。
第４層	黒褐色土	7.5YR2/2	焼土、炭化粒、ローム粒微量。
第５層	黒色土	10YR2/1	粘土B多量、明黄褐色多量に含む。
第６層	明黄褐色土	10YR6/6	粘土層。

第３号　（G－G′）

第１層	褐色土	10YR4/4	粘土層。
第２層	黒褐色土	10YR2/3	焼土、炭化物少量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、炭化物少量。
第４層	黒褐色土	10YR2/3	ローム少量。
第５層	黒褐色土	10YR3/2	炭化粒微量。
第６層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	粘土層。
第７層	黒褐色土	10YR2/2	ローム中量、焼土微量。
第８層	黒褐色土	10YR3/2	ローム少量。
第９層	黒褐色土	10YR2/2	火山灰微量、焼土少量。
第10層	黒褐色土	10YR1.7/1	ローム少量。
第11層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒中量。
第12層	にぶい黄褐色土	10YR6/3	ローム粒、鉄分少量。

第46号　土坑（H－H′）

第１層	黒褐色土	10YR3/2	火山灰、ローム粒少量、焼土、炭化粒微量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	火山灰中量、ローム粒少量、炭化物微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒、ローム粒微量。
第４層	黒褐色土	10YR3/2	火山灰、ローム粒中量、炭化物微量。
第５層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量、焼土、ローム粒微量。
第６層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量、焼土、炭化物微量。
第７層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物中量、焼土、ローム粒少量。
第８層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量、炭化物微量。
第９層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒中量、焼土、炭化物、ローム粒少量。
第10層	黒褐色土	10YR2/2	L.B多量、ローム粒少量、焼土、炭化物微量。
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、炭化物微量。
第12層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、黄橙粘土微量。
第13層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量。
第14層	黒褐色土	10YR7/3	ローム粒中量、L.B、黄橙粘土微量
第15層	黒褐色土	10YR2/2	L.B（大）少量、焼土、炭化物、黄橙粘土微量。
第16層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、ローム粒中量、炭化物、ローム粒少量。
第17層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土、炭化物少量。
第18層	褐色土	10YR4/4	焼土、粘土多量、ローム粒中量、炭化物微量。
第19層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、炭化物、ローム粒少量。
第20層	黒褐色土	10YR2/2	火山灰微量、焼土、炭化物、ローム粒少量。
第21層	黄褐色土	10YR2/3	L.B多量、ローム粒少量。
第22層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、ローム粒少量、炭化物微量。
第23層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒中量、炭化物微量。
第24層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒少量、焼土粒、炭化物微量。
第25層	黒褐色土	10YR3/1	L.B（大）、ローム粒中量、焼土粒少量、焼土、

第26号　溝跡（I－I′）

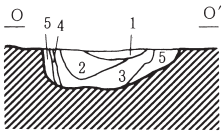
第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量、焼土、炭化粒、L.B微量。

竪穴部（M－M′）

第１層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量。

第Ⅴ－１－７図　第３号建物跡（２）

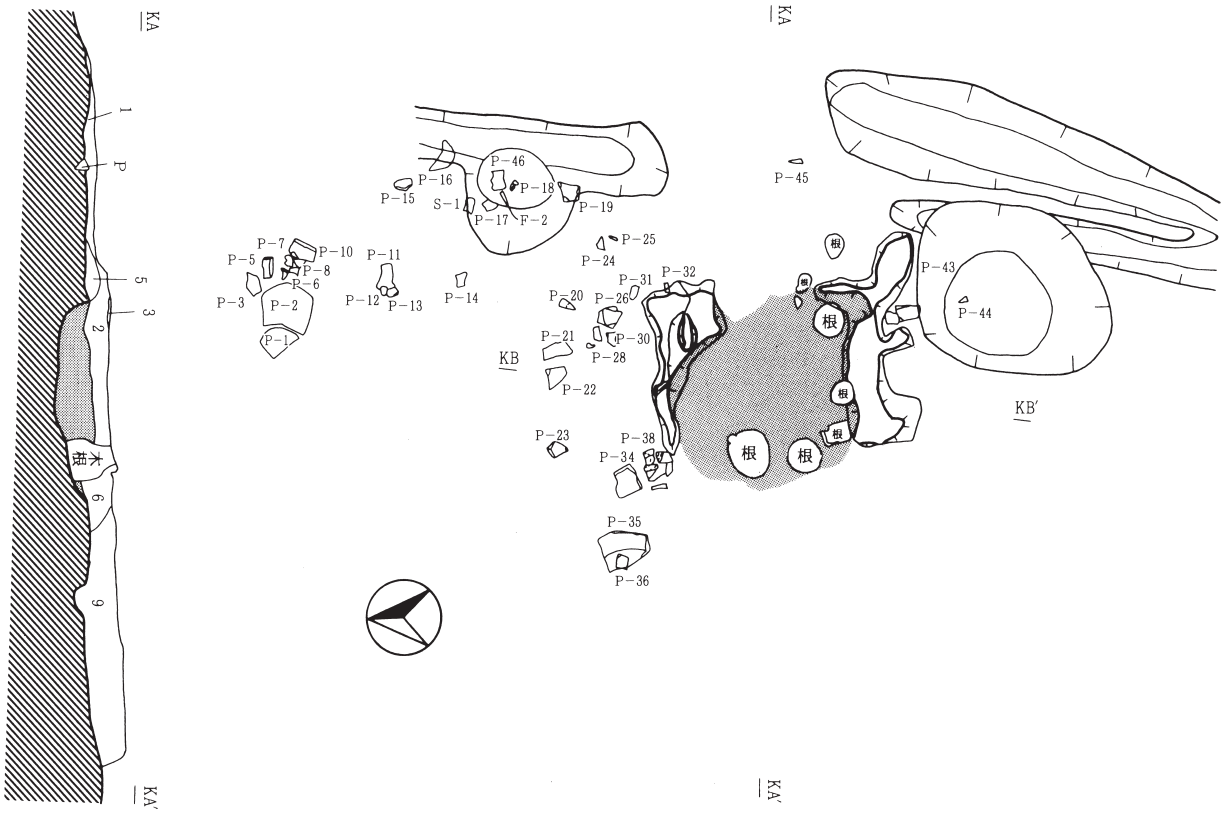
土坑・46土	平面形	楕円形	壁	直線的に外反する。	底面	凹凸がある。
	規模	長軸 300cm	短軸	198cm	深さ	64cm
	堆積土	25層に分層された。黒褐色土を主体とし、焼土、粘土、ローム粒、炭化物を混入する。上位に白頭山火山灰が検出された。H－H′セクションの太線以下層は人為、それより上層は自然堆積と思われる。				
	出土遺物	堆積土－土師器 111、須恵器８、鉄滓１				
	小結	粘土、焼土の廃棄がみられる。破壊されたカマドの部材であると思われる。				

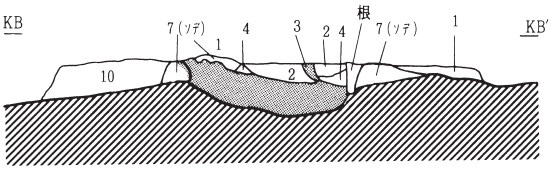


第21号　土坑（O－O′）

第１層　黒色土　10YR2/1　ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　L.B、ローム粒少量。
第３層　黒色土　10YR2/1　L.B、ローム粒少量、砂ブロック微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量。
第５層　褐色土　10YR4/6　ローム層、黒色土少量。

0　2m



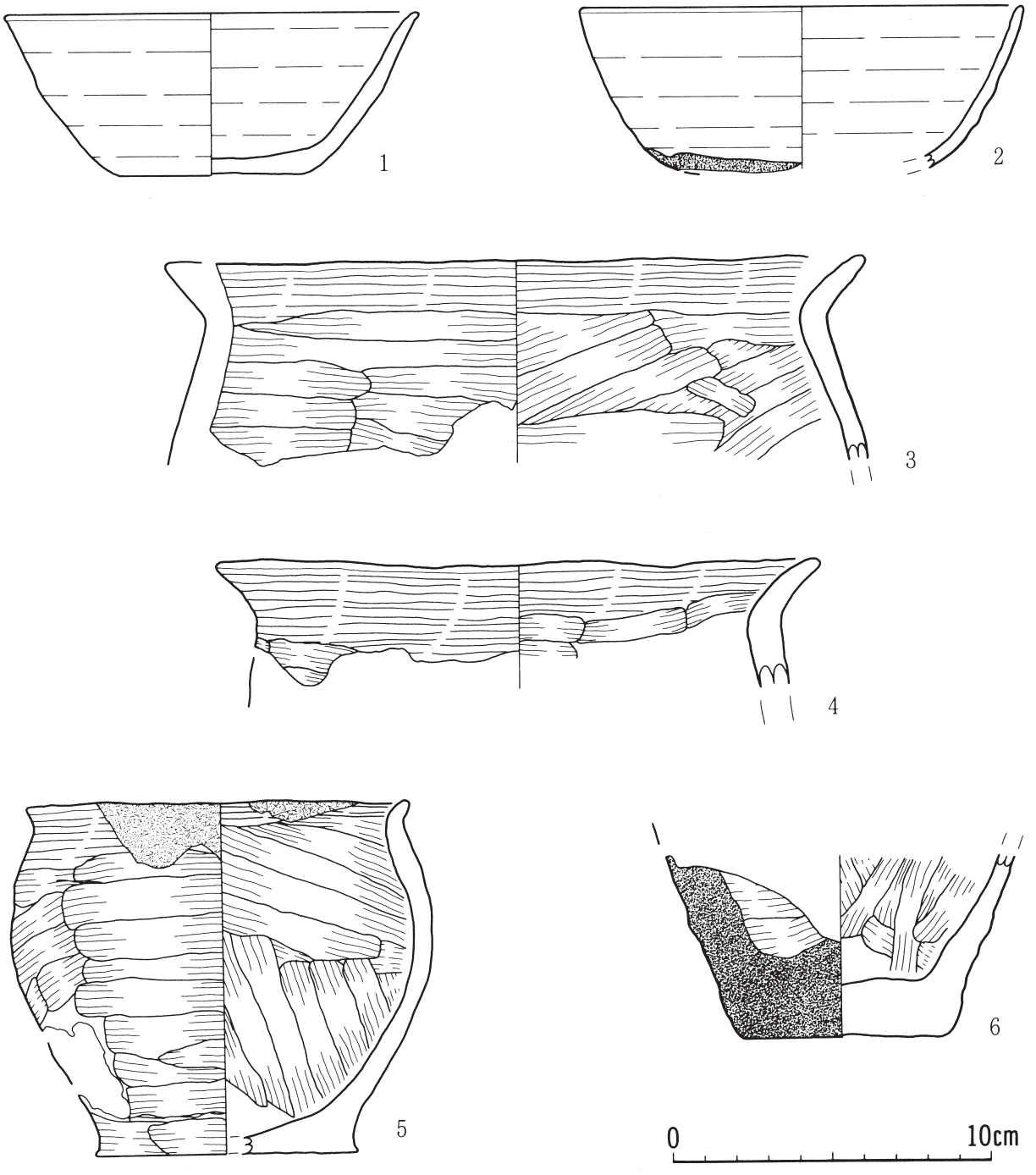


竪穴部（カマド注記）

第１層　10YR2/3　黒褐色土　焼土、ローム粒、にぶい黄褐色Ｂ微量。
第２層　10YR2/3　黒褐色土　焼土粒微量。
第３層　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土層。黒褐色土中量。
第４層　7.5YR4/4　褐色土。
第５層　7.5YR2/2　黒褐色土。
第６層　7.5YR2/3　暗褐色土　ローム粒極微量。
第７層　10YR8/3　浅黄橙色土　ソデ。黒色土を混和する。
第８層　7.5YR2/2　黒褐色土。
第９層　10YR3/4　暗褐色土　焼土少量、炭化物粒、ローム粒微量。
第10層　10YR2/2　黒褐色土　炭化物微量、ローム粒極微量。

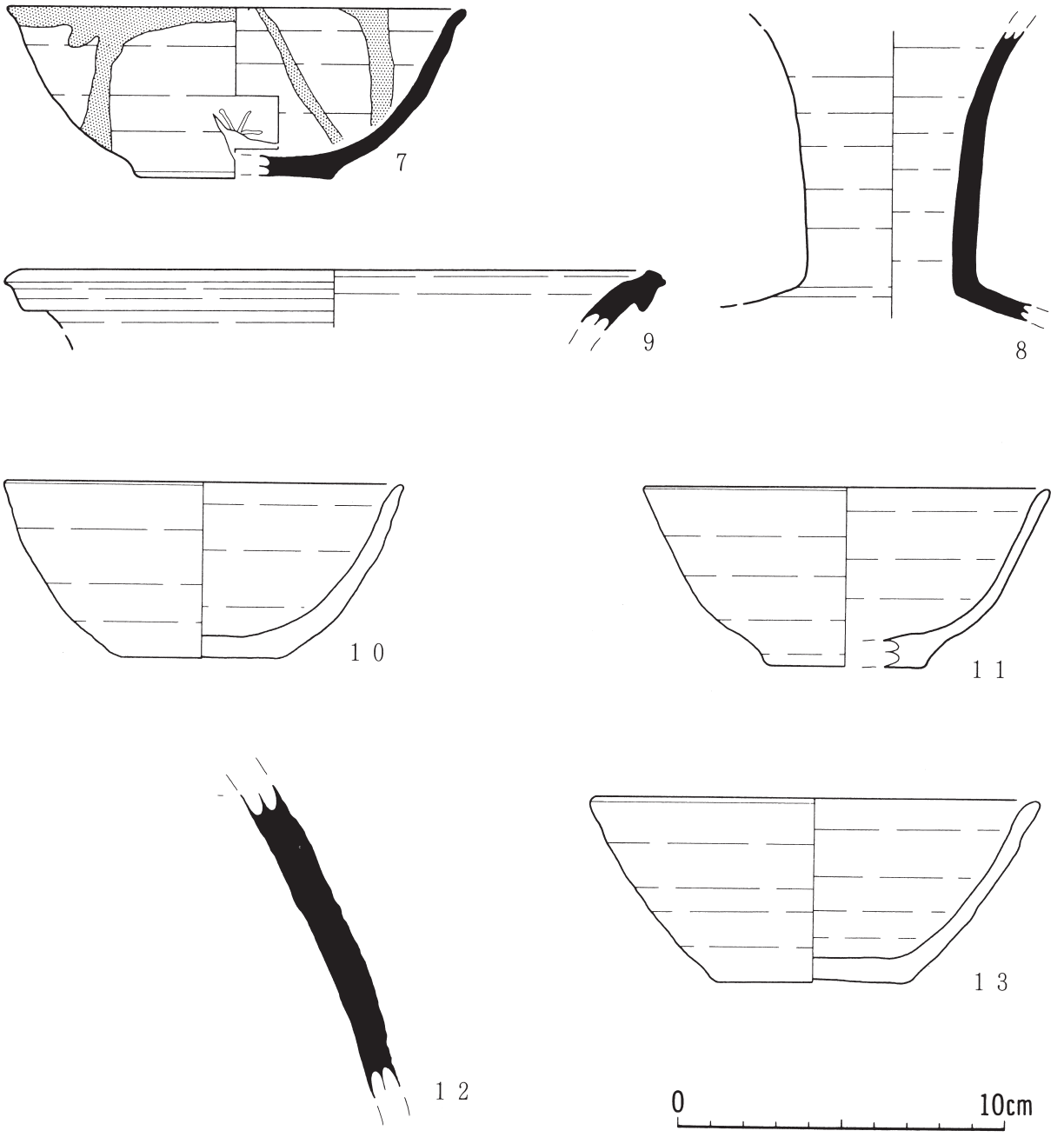
0　1m

Ⅴ－１－８図　第３号建物跡（３）



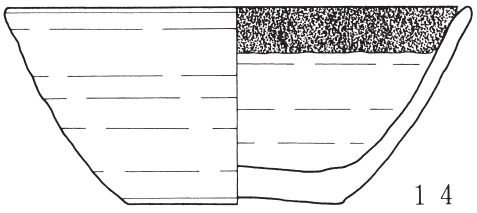
遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	床面	13.0	5.0	5.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		内外多少磨耗 一部ハクリ	
2	〃	〃	竪穴部フク土	(14.0)	5.1		〃	〃		〃	〃				底辺部・底部ハクリ	
3	〃	甕	〃	(21.9)	6.3		ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ					
4	〃	〃	カマド床直	(18.9)	4.0		〃	〃		〃	〃					
5	〃	小型甕	竪穴部フク土	12.0	11.0	(8.2)	〃	〃	ヘラナデ	〃	〃	ヘラナデ			スス　砂底	
6	〃	甕	カマド床面		5.6	6.3			〃			〃	ヘラナデ		二次焼成 ハクリ	

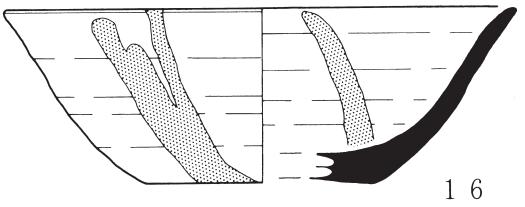
第Ⅴ－１－９図　第３号建物跡（４）

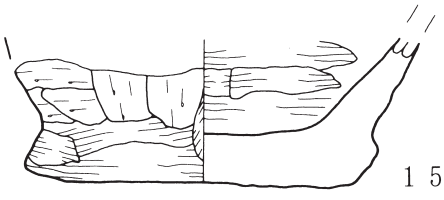


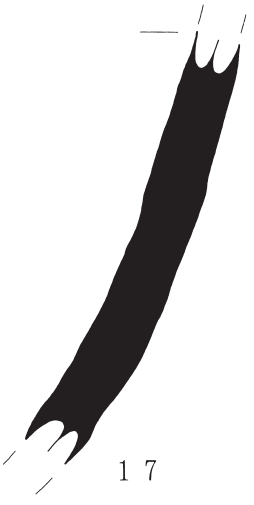
遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
7	須恵器	坏	床面直上3層	(14.0)	5.2	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		火ダスキ・ヘラ書記号 胎土分析－1（搬入）	
8	〃	長頸壺	掘立柱部フク土		(8.8)		〃			〃					胎土分析－2（搬入）	
9	〃	短頸壺	床面直上3層	(20.2)	2.0		〃			〃						
10	土師器	坏	26 M フク土	(12.1)	5.3	5.0	〃	ロクロ	ロクロ	〃	ロクロ	ロクロ	回転糸切		磨耗	
11	〃	〃	〃	(12.4)	5.4	(4.8)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		磨耗	
12	須恵器	大甕	〃		(9.4)			格子状叩き目				当て具痕（平行）			胎土分析－58（日本海側）	
13	土師器	坏	46 土 フク土	(13.8)	5.6	5.9	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		二次焼成	

第Ⅴ－１－10図　第３号建物跡（５）





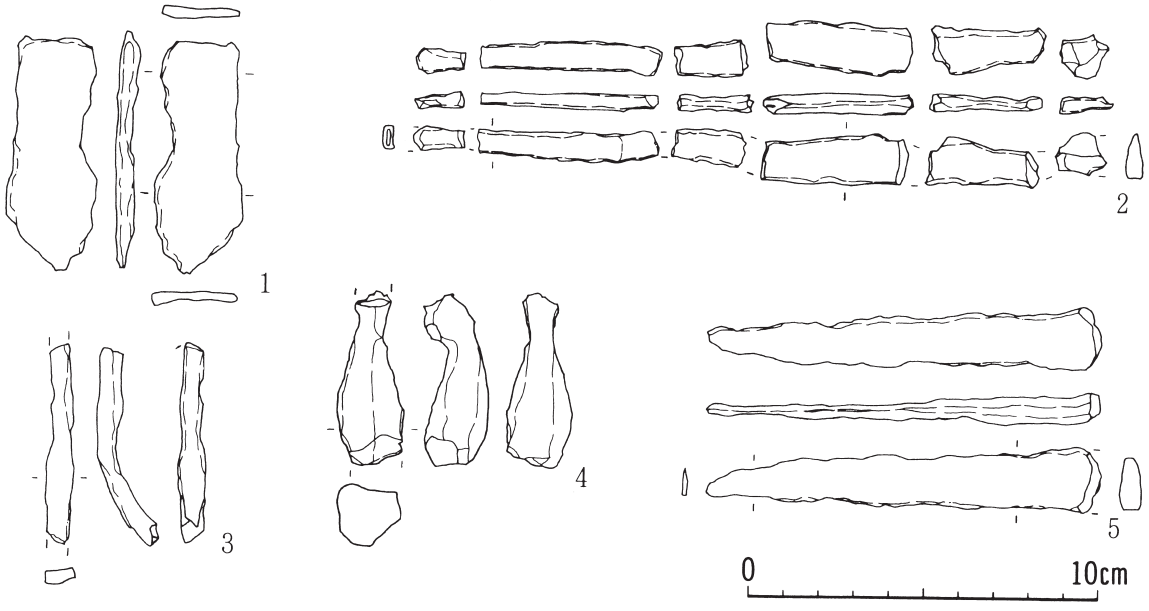




0 10cm

遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
14	土師器	坏	46 土 フク土	(12.4)	5.2	5.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		二次焼成 磨耗、ハクリ	
15	〃	甕	〃		3.3	8.5			ヘラナデ ヘラケズリ			ヘラナデ	砂底			
16	須恵器	坏	〃	(13.7)	4.7	(6.1)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		火ダスキ痕・黄橙色 胎土分析－29（搬入）	
17	〃	大甕	〃		(11.4)				平行 叩き目			当て具痕 （平行）			胎土分析－44 （日本海側）	

第Ⅴ－１－11図　第３号建物跡（６）



遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	磁石付力	整理No.
	鉄	鉄滓	3H SK046土坑 覆土	－	－	－	6.1		図示なし	－	02
1	鉄製品	不明	3Hカマド付近 覆土	67.0	27.0	6.0	9.8	刀子か学引金か 厚さはほぼ均一 穿孔なし	分析実施	○	13
2	鉄製品	刀子	3H 床面	182.0	16.0	10.0	15.4	6片あり 1個体か 刃部・茎部とも欠損 背部に関あり 刃部不明瞭	分析実施	×	03
3	鉄製品	不明	3H SD026溝跡 覆土	59.0	10.0	17.0	3.2	棒状 断面長方形 中央付近から緩くカーブ	－	×	22
4	鉄製品	不明	3H周溝 確認面	50.0	20.0	19.0	13.4	錆のため形状不明	－	×	30
5	鉄製品	刀子	3Hカマド 床直	113.0	18.0	9.0	14.5	茎部欠損 関が見られない	F－2 分析実施	×	04

第Ⅴ－１－12図　第３号建物跡（７）

第４号建物跡　観察一覧表

位置	Ⅰ～Ｊ－83～84	図版番号	第Ⅴ－１－13～14図	写真図版番号	７－３

重複関係	30M、31M＞４Ｈ 18Hとの新旧関係は不明である。

竪穴部	法量		東壁	西壁	南壁	北壁
		壁長（ｍ）	4.60	4.41	3.72	4.00
		壁高（ｍ）	―――	―――	―――	―――
		周溝一幅（ｍ）	23	20	18	23
		周溝深さ（ｍ）	16	8	3	9
	平面形	長方形	床面積	約14.4m²	主軸方位	Ｎ－100°－Ｅ
	壁	検出されなかった。			床	南・東側に傾斜している。
	周壁	かまど直下を除き一巡する。				
	ピット	７個検出された。 主柱穴は、P_1～P_5・P_6で、P_4・P_5は掘立柱部３に延びると思われる。				
	かまど	遺存状態	検出されなかった。	位置	東壁の南寄りと思われる。	
		ごくわずかの焼土を検出した。				
	堆積土	内周溝の堆積土のみ検出された。４層に分層され、黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。人為堆積と思われる。				
	出土遺物	床面－土師器甕１				
	附属施設	掘立柱建物跡３、外周溝（27M）、土坑（18土） 東側に塀状の施設１				
	小結	上部はかなり削平されていて、かろうじて内周溝を検出したのみである。 掘立柱部分は３度の建替えがなされたものと思われる。 出土遺物から、本建物跡の時期は９世紀末葉～10世紀初頭と思われる。				

掘立柱部1	規　　模	桁行１間（総長4.85m－東）×梁行２間（総長3.34m－南）	
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。	
	柱　　穴	径	24㎝～49㎝の楕円形の掘り方である。
		深　さ	24㎝～41㎝である。
	柱間寸法	桁行――4.85m（16尺０寸） 梁行――1.66m（５尺５寸）、1.68m（５尺５寸）	
	出土遺物	なし。	
	小　　結	竪穴部の面積（14.4㎡）＋掘立柱部の面積（16.1㎡）＝約30.5㎡（約19畳）	

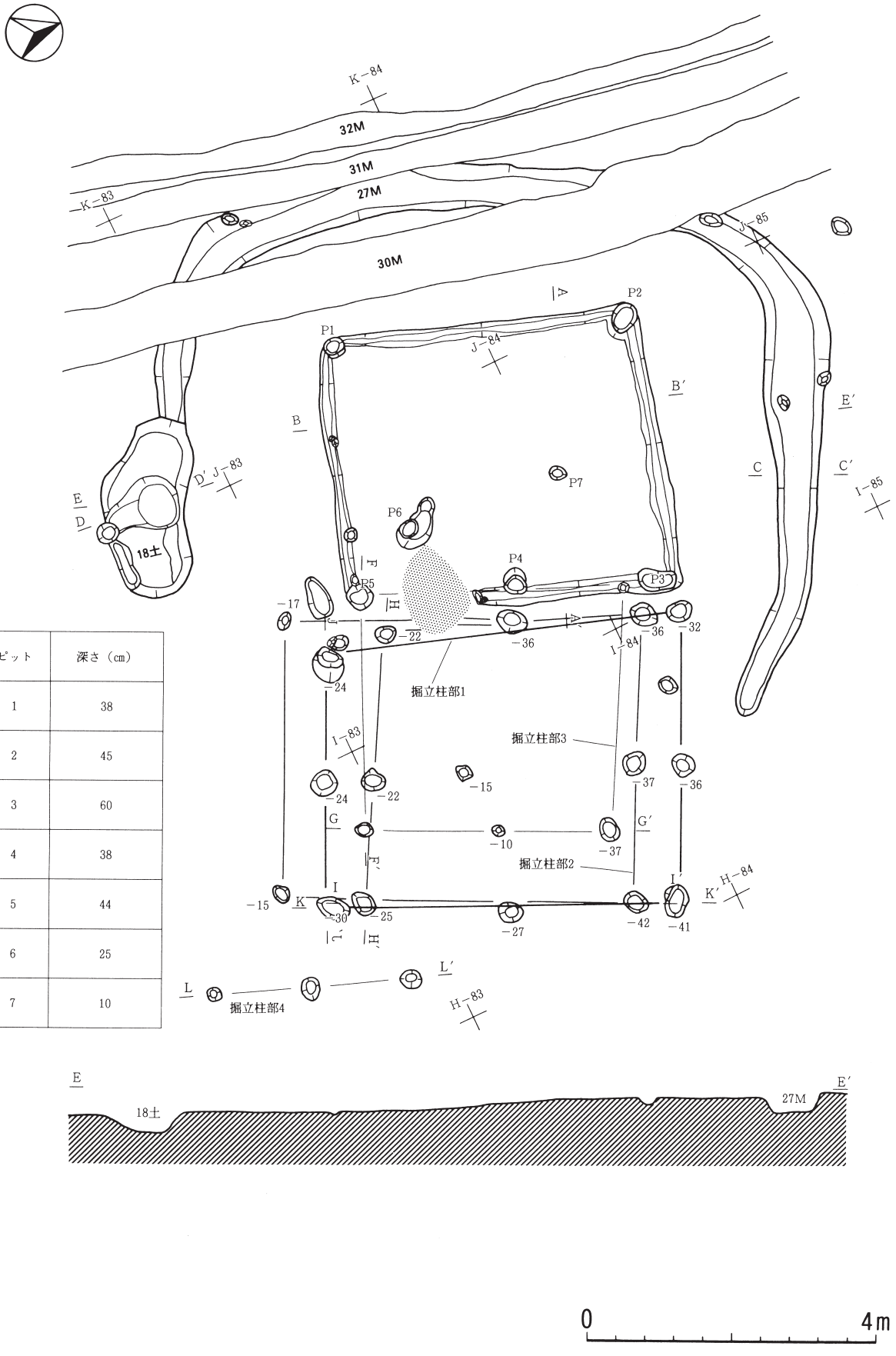
掘立柱部2	規　　模	桁行３間（総長4.84m－東）×梁行２間（総長3.91m－北）	
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。	
	柱　　穴	径	24㎝～40㎝の楕円形の掘り方である。
		深　さ	15㎝～37㎝である。
	柱間寸法	桁行――1.12m（３尺７寸）、2.00m（６尺６寸）、1.72m（５尺６寸） 梁行――2.01m（６尺６寸）、1.90m（６尺２寸）	
	出土遺物	なし。	
	小　　結	竪穴部の面積（14.4㎡）＋掘立柱部の面積（18.9㎡）＝約33.3㎡（約20畳）	

掘立柱部3	規　　模	桁行１間（総長3.23m－南）×梁行２間（総長3.36m－東）	
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。	
	柱　　穴	径	14㎝～34㎝の楕円形の掘り方である。
		深　さ	10㎝～37㎝である。
	柱間寸法	桁行――3.23m（10尺７寸） 梁行――1.84m（６尺１寸）、1.52m（５尺０寸）	
	出土遺物	なし。	
	小　　結	竪穴部の面積（14.4㎡）＋掘立柱部の面積（10.9㎡）＝約25.3㎡（約15畳）	

外周溝・27M	規　　模	長　さ	19.2m	幅	47㎝	断面形	箱形
		深　さ	18㎝	幅	37㎝	傾　斜	西→東
	堆 積 土	３層に分層された。黒褐色土を主体とし、焼土、粘土、ローム粒、炭化物を混入する。 人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土――土師器甕６、須恵器壺１（五所川原産と思われる）					
	小　　結	タイプー南側に土坑が付随し、北側は末端がしっぽ状に狭まる。削平されている。					

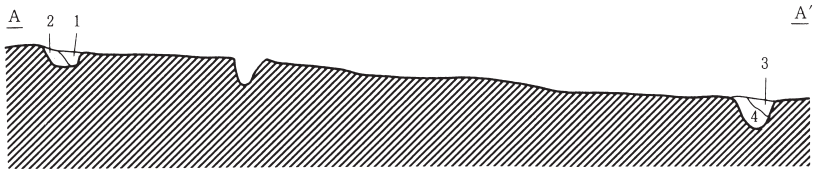
土坑・18土	平 面 形	楕円形		壁	ゆるやかに立上がる。	底　面	凹凸がある。
	規　　模	長　軸	247㎝	短軸	115㎝	深　さ	21㎝
	堆 積 土	５層に分層された。暗褐色土を主体とし、焼土、粘土、ローム粒、炭化物を混入する。 自然堆積と思われる。					
	出土遺物	なし。					
	小　　結	中央が一段くぼんでいる。					

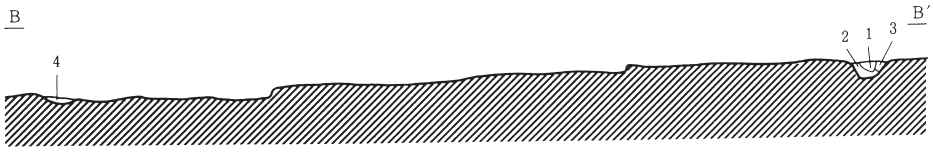
掘立柱部・柵状	規　　模	桁行２間（総長2.68m）	
	平面形式	直線を呈する南北棟建物跡である。	
	柱　　穴	径	20㎝～30㎝の楕円形の掘り方である。
		深　さ	12㎝～20㎝
	柱間寸法	1.34m（４尺４寸）、1.34m（４尺４寸）	
	出土遺物	なし。	
	小　　結		



ピット	深さ（cm）
1	38
2	45
3	60
4	38
5	44
6	25
7	10

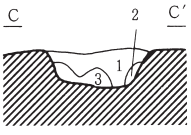
第Ⅴ－１－13図　第４号建物跡（１）

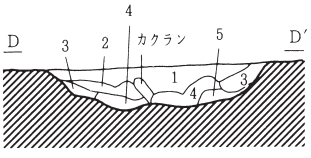




竪穴部（A－A′、B－B′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、焼土粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒少量、焼土、炭化物、ローム微量。
第４層　暗褐色土　10YR3/4　L.B、ローム粒多量、焼土少量、炭化物微量





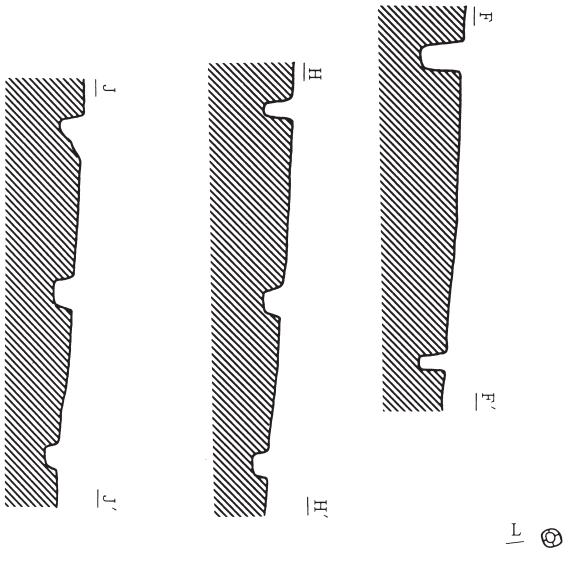
第27号　溝跡（C－C′）

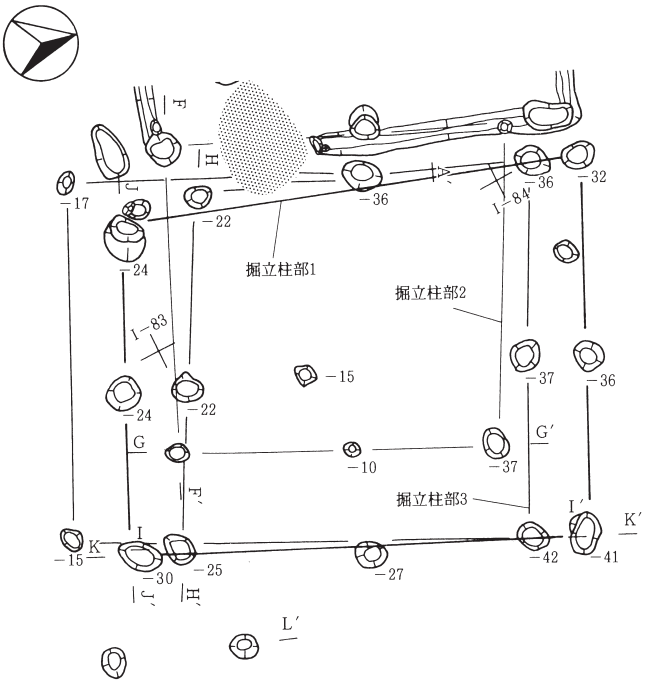
第１層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒少量、焼土微量。
第２層　黒色土　10YR2/1　ローム粒中量、焼土、粘土少量。
第３層　黒色土　10YR2/1　L.B多量、粘土、ローム粒中量、焼土微量。

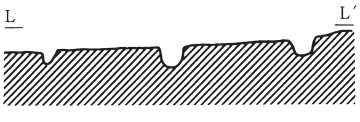
0　2m

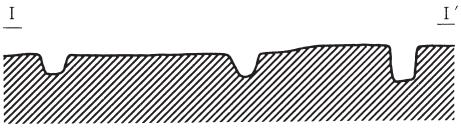
第18号　土坑（D－D′）

第１層　黒色土　10YR1.7/1　焼土、焼土粒、ローム粒少量。
第２層　極暗褐色土　7.5YR2/3　焼土中量、ローム粒少量、炭化粒微量。
第３層　褐色土　10YR4/4　L.B、ローム粒多量、焼土少量、炭化物微量。
第４層　暗褐色土　10YR3/4　L.B、ローム粒多量、焼土少量、炭化物微量。
第５層　明黄褐色土　10YR7/6　ローム粒多量、粘土少量。









0　4m

第Ⅴ－１－14図　第４号建物跡（２）

第５号建物跡　観察一覧表

位　置	L～M－78～81	図版番号	第Ⅴ－１－15～16図	写真図版番号	７－４、５

重複関係	32M、37M＞５H

竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
		壁　長（ｍ）	5.92	5.88	6.18	5.94
		壁　高（ｍ）	―――	―――	―――	―――
		周溝－幅（ｍ）	25	33	34	―――
		周溝深さ（ｍ）	3	12	8	―――
	平面形	正方形	床面積	約29.1m²	主軸方位	N－°123－E
	壁	検出されなかった。			床	平坦である。
	周　壁	一巡していたものと思われる。南壁の中央は途切れている。				
	ピット	17個検出された。 主柱穴は、P_1～P_4、P_{15}、P_{17}で、壁柱穴は、P_5～P_{14}、P_{16}と思われる。				
	かまど	遺存状態	不良	位　置	東壁の南寄りと思われる。	
		焼土（40×30㎝）を検出したのみである。				
	堆積土	検出できなかった。				
	出土遺物	なし。				
	附属施設	掘立柱建物跡２、外周溝－34M、土坑－16土、17土、25土 北側に塀状の施設				
	小　結	かなり削平されていて、かろうじて内周溝を検出したのみである。 竪穴部分、掘立柱部分ともに２度の建替えがなされたものと思われる。 外周溝の出土遺物から、本建物跡の時期は、９世紀中葉～後葉と思われる。				

掘立柱部１	規　模	桁行１間（総長4.56m－南）×梁行１間（総長3.28m－東）	
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。	
	柱　穴	径	32㎝～52㎝の楕円形の掘り方である。
		深　さ	33㎝～86㎝である。
	柱間寸法	桁行――4.56m（15尺０寸） 梁行――3.28m（10尺８寸）	
	出土遺物	なし。	
	小　結	竪穴部の面積（29.1m²）＋掘立柱部の面積（12.3m²）＝約41.4m²（約26畳） 竪穴部の主柱穴P_3、P_4と連結する。	

掘立柱部２	規　模	桁行２間（総長3.74m－南）×梁行１間（総長4.03m－東）	
	平面形式	台形を呈する東西棟建物跡である。	
	柱　穴	径	28㎝～48㎝の楕円形の掘り方である。
		深　さ	27㎝～55㎝である。
	柱間寸法	桁行――1.78m（５尺８寸）、1.96m（６尺４寸） 梁行――3.28m（10尺８寸）	
	出土遺物	なし。	
	小　結	竪穴部の面積（29.1m²）＋掘立柱部の面積（12.9m²）＝約42.0m²（約26畳）	

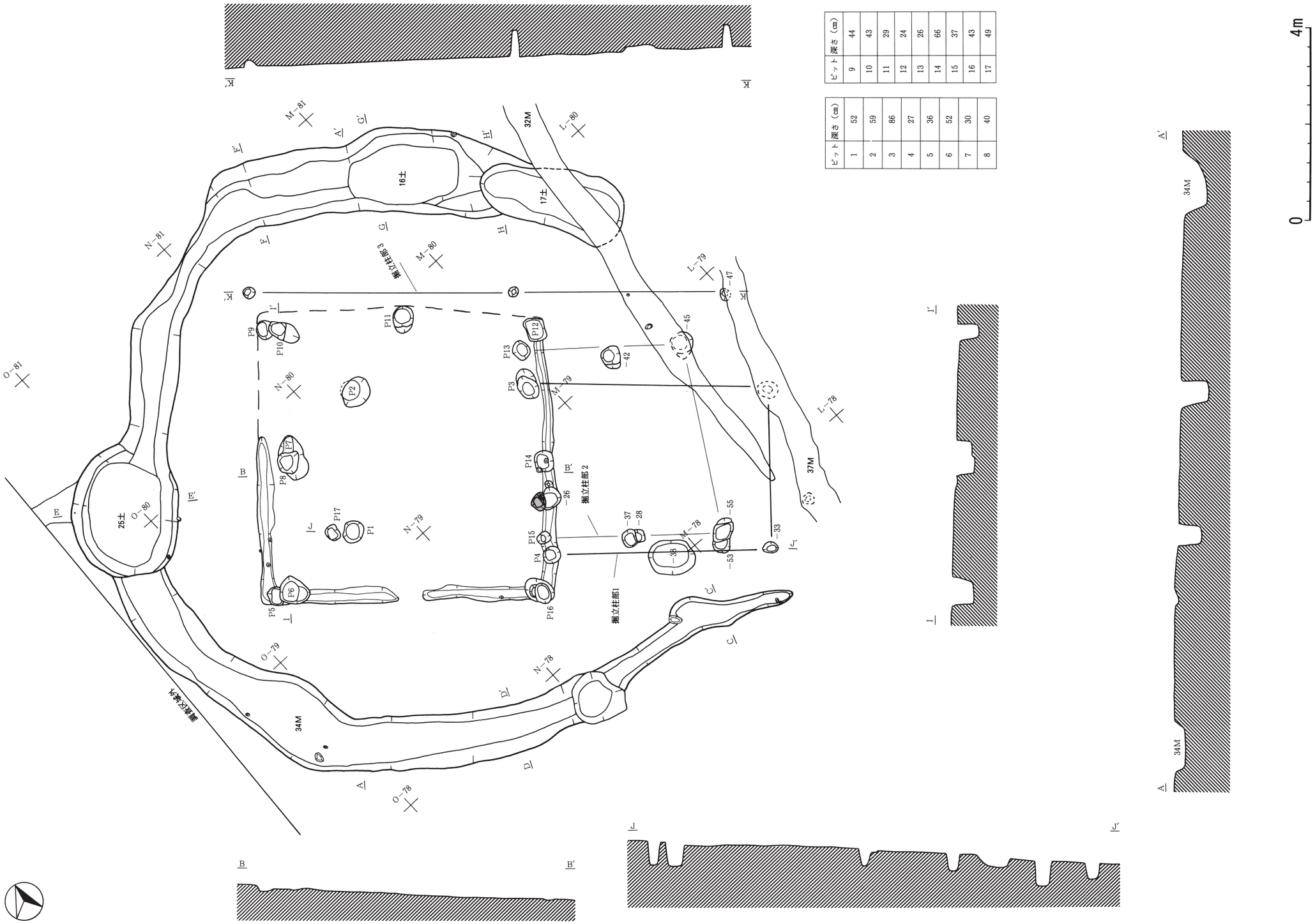
掘立柱部３	規　模	桁行２間（総長9.90m）	
	平面形式	直線状。	
	柱　穴	径	20㎝～26㎝の円形の掘り方である。
		深　さ	17㎝、47㎝、59㎝である。
	柱間寸法	桁行――5.50m（18尺２寸）、4.40m（14尺５寸）	
	小　結	防風雪の施設とも考えられる。	

外周溝34M	規　模	長　さ	32.5m	幅	34～150cm	断面形	箱形
		深　さ	22～50cm	幅	20～124cm	傾　斜	西→東
	堆積土	6層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土を混入する。人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土――土師器甕8、須恵器壺1、石器、石製品					
	小　結	タイプ―南側の末端がしっぽ状に狭まり、北側に土坑が2基付随する。 なお、中央（西側）にも土坑付随し、北西側の一部が狭まる。					

土坑・16土	平面形	楕円形		壁	ゆるやかに立上がる。	底　面	丸底状
	規　模	長　軸	（272）cm	短軸	117cm	深　さ	57cm
	堆積土	22層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土－土師器4					
	小　結						

土坑・17土	平面形	楕円形		壁	直線的に外反する。	底　面	やや凹凸がある。
	規　模	長　軸	306cm	短軸	124cm	深　さ	34cm
	堆積土	5層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、炭化物を混入する。人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土－土師器2					
	小　結						

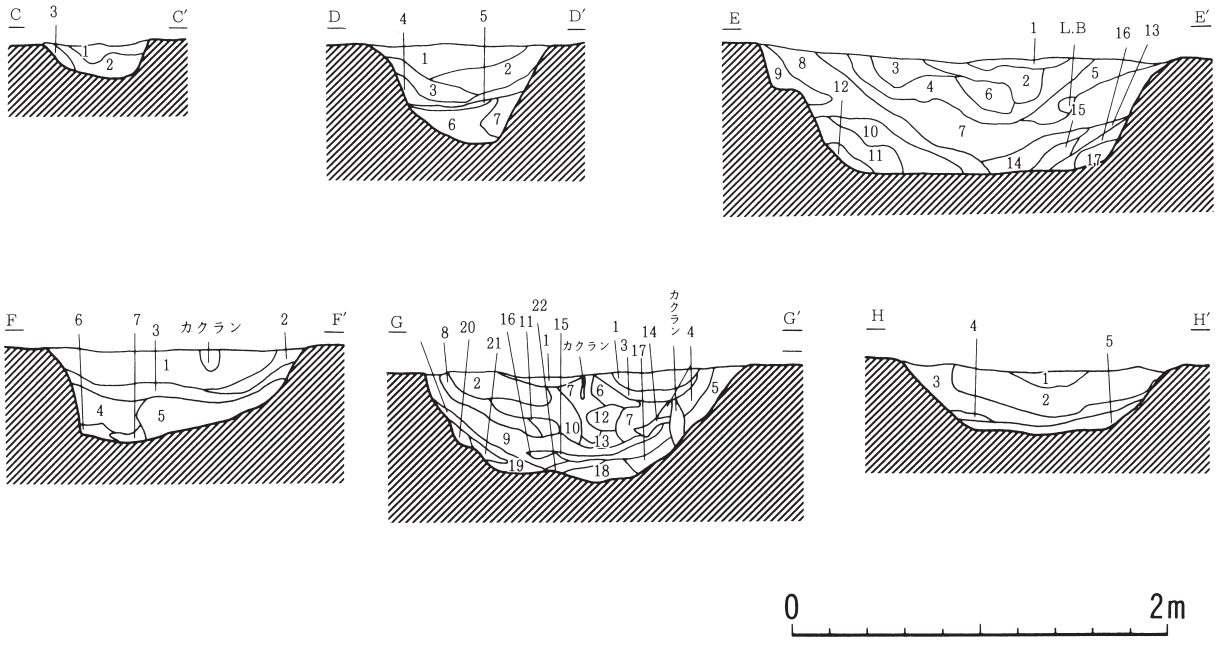
土坑・25土	平面形	楕円形		壁	直線的に外反する。	底　面	平坦である。
	規　模	長　軸	（260）cm	短軸	218cm	深　さ	60cm
	堆積土	17層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、炭化物を混入する。自然堆積と思われる。					
	出土遺物	なし。					
	小　結						



ピット	深さ（cm）
1	52
2	59
3	86
4	27
5	36
6	52
7	30
8	40

ピット	深さ（cm）
9	44
10	43
11	29
12	24
13	26
14	66
15	37
16	43
17	49

第Ⅴ－１－15図　第５号建物跡(1)



第34号　溝跡（C－C′）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	焼土、ローム粒少量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量、焼土微量。
第３層	黒色土	10YR2/2	ローム粒少量、焼土微量。

第34号　溝跡（D－D′）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	焼土、ローム粒少量。
第２層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量、焼土少量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、焼土微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土少量。
第５層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒中量、焼土微量。
第６層	黒褐色土	10YR2/2	L.B、ローム粒中量、焼土少量。
第７層	黒色土	10YR1.7/1	焼土、ローム粒少量。

第25号　土坑（E－E′）

第１層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒多量。
第４層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒多量。
第５層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量。
第６層	黒色土	10YR1.7/1	粘土、L.B、ローム粒多量。
第７層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、L.B、粘土少量、焼土、炭化物微量。
第８層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒、炭化粒微量。
第９層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒中量、炭化物微量。
第10層	黒色土	10YR2/1	ローム粒中量、L.B少量、炭化物微量。
第11層	黒色土	10YR2/1	ローム粒多量、L.B少量。
第12層	黒色土	10YR2/1	L.B多量、ローム粒微量。
第13層	明黄褐色土	10YR6/6	炭化粒微量。
第14層	黒色土	10YR2/1	ローム粒少量。
第15層	にぶい黄褐色	10YR4/3	ローム粒多量、砂少量。
第16層	黒色土	10YR2/1	ローム粒中量、砂微量。
第17層	黒褐色土	10YR2/2	L.B、ローム粒多量。

第34号　溝跡（F－F′）

第１層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量、焼土、炭化物、L.B（大）微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	焼土少量、ローム粒微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/3	焼土、ローム粒少量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	L.B、ローム粒中量、焼土少量。
第５層	明黄褐色土	10YR6/6	L.B、ローム粒多量、焼土微量。
第６層	褐色土	10YR4/6	ローム粒多量。
第７層	にぶい黄橙色土	10YR6/4	粘土層、焼土少量。

第16号　土坑（G－G′）

第１層	灰黄褐色土	10YR4/2	L.B（大）、ローム粒少量、焼土微量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒多量、焼土中量。
第３層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量、焼土微量。
第４層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒中量、焼土、L.B（大）微量。
第５層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒少量、焼土微量。
第６層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量、焼土、L.B（大）微量。
第７層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒多量、焼土微量。
第８層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土微量。
第９層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒中量、焼土微量。
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土微量。
第11層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量、焼土微量。
第12層	黒褐色土	10YR3/2	ローム少量、焼土微量。
第13層	黒褐色土	10YR2/3	焼土、ローム粒少量。
第14層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒多量、焼土微量。
第15層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、ローム粒少量。
第16層	橙色土	7.5YR6/6	焼土、ローム粒中量。
第17層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム粒多量、焼土微量。
第18層	褐色土	10YR4/4	砂質土。
第19層	黒色土	10YR2/1	ローム粒少量、焼土微量。
第20層	黒色土	10YR2/1	粘土多量、ローム粒少量、焼土微量。
第21層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土微量。
第22層	暗褐色土	10YR3/3	粘土、ローム粒中量。

第17号　土坑（H－H′）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒多量、焼土微量。
第２層	黒色土	10YR1.7/1	L.B（大）、ローム粒中量、焼土少量、炭化物微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土少量、炭化物（大）微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	粘土多量、ローム粒少量、焼土微量。
第５層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒中量、粘土少量、焼土微量。

第Ⅴ－１－16図　第５号建物跡（２）

第６号建物跡　観察一覧表

位　置	Ｉ～Ｊ－93～94	図版番号	第Ⅴ－１－17～19図	写真図版番号	７－６

重複関係	６．８．９．10．21．30．31．76M＞６Ｈ＞37Ｈ

竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
		壁　長（ｍ）	(4.49)	4.55	4.64	4.64
		壁　高（ｍ）	――	――	――	――
		周溝－幅（ｍ）	8	26	17	28
		周溝深さ（ｍ）	21	28	32	30
	平面形	正方形	床面積	約17.8m²	主軸方位	Ｎ－62°－Ｅ
	壁	検出されなかった。			床	平坦である。
	周　壁	一巡していたものと思われる。				
	ピット	７個検出された。 主柱穴は、P_1～P_7と思われる（壁柱穴）。				
	かまど	遺存状態	不良。	位　置	東壁の南寄り。	
		８Ｍと30Ｍの間に焼土（50×10㎝）を検出した。かまどの火床面である。				
	堆積土	内周溝堆積土のみ検出したのみである。３層に分層され、黒褐色土を主体とし、ローム粒を混入する。				
	出土遺物	堆積土－土師器甕15 床面－須恵器坏１　胎土分析の結果須恵器は搬入品と推定された。 貼床中－土師器甕１				
	附属施設	掘立柱建物跡１、外周溝－25M、41M、土坑－26土、36土 ※26土は37Ｈを再利用していると考えられる。				
	小　結	重複の位置関係より見て37Ｈの造り替えの可能性がある。				

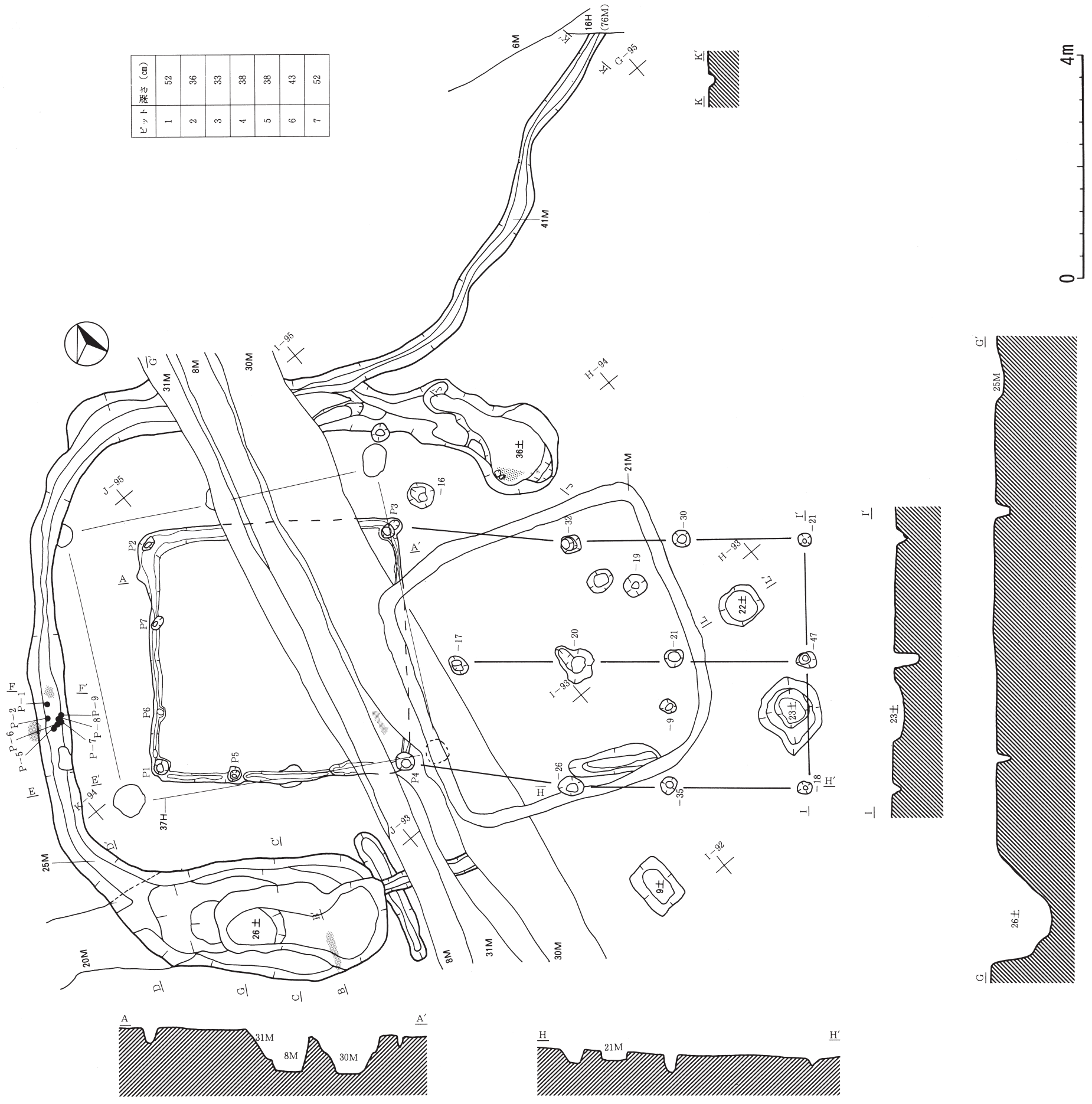
掘立柱部	規　模	桁行３間（総長7.24ｍ－南）×梁間２間（総長4.44ｍ－東）	
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。	
	柱　穴	径	26㎝～90㎝の楕円形の掘り方である。
		深　さ	17㎝～35㎝である。
	柱間寸法	桁行――3.05ｍ（10尺０寸）、1.76ｍ（５尺８寸）、2.44（８尺０寸） 梁間――2.34ｍ（７尺７寸）、2.10ｍ（６尺９寸）	
	出土遺物	なし。	
	小　結	竪穴部の面積（17.8m²）＋掘立柱部の面積（32.1m²）＝約49.9m² 竪穴部柱穴P_3・P_4と連結する。	

外周溝・25M	規　模	長　さ	22.1ｍ	幅	53～60㎝	断面形	箱　形
		深　さ	25～30㎝	幅	22～30㎝	傾　斜	西→東
	堆積土	17層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒を混入する。 自然堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土　―　土師器坏16、甕83、須恵器壺２、大甕１					
	小　結	西部に検出された焼土、土器は、37Ｈのカマドに伴ったものと思われる。 両末端に土坑が付随し、41Ｍが分岐する。					

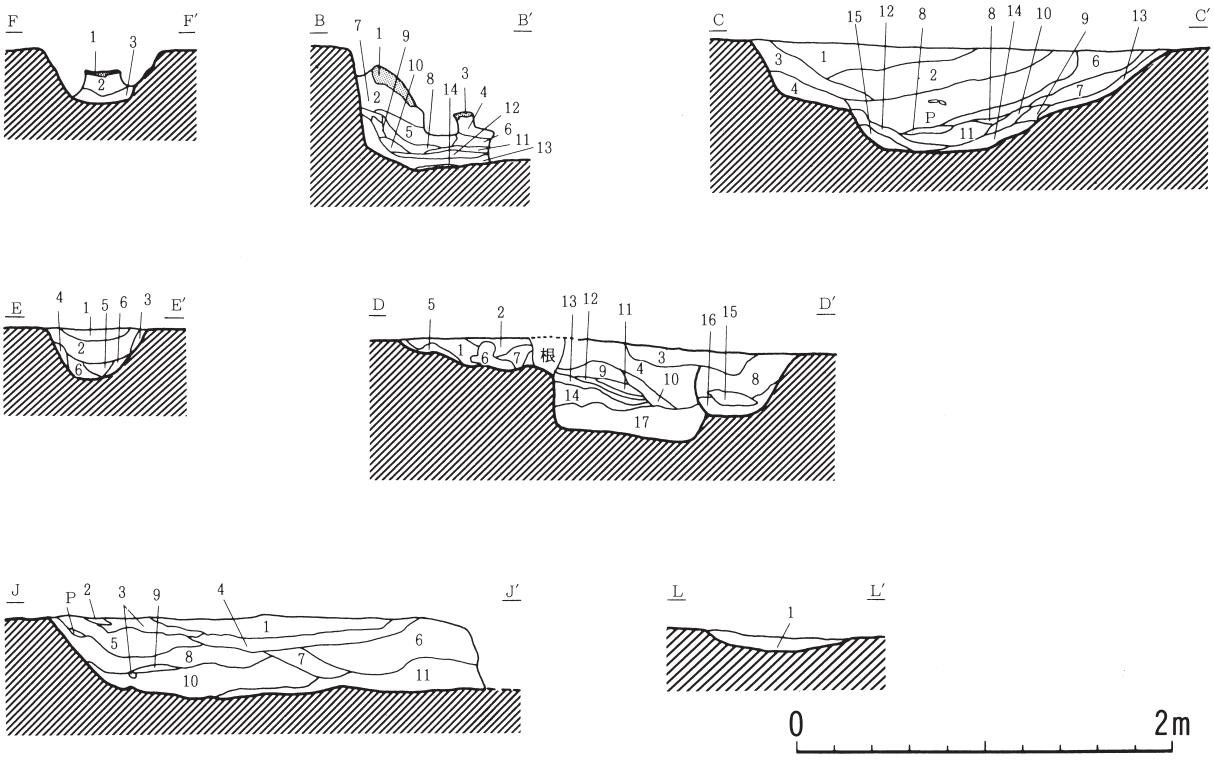
外周溝・41M	規　模	長　さ	(8.80) ｍ	幅	20～42㎝	断面形	Ｕ字形
		深　さ	13㎝	幅	8～22㎝	傾　斜	西→東
	出土遺物	堆積土　―　土師器坏２、甕５、須恵器壺１、縄文土器１					
	小　結	25Ｍから分岐し、16Ｈ外周溝に切られる。					

土坑・26土						
平面形	楕円形	壁	ゆるやかに立ち上がる	底面	平担である。	
規模	長軸 (410) cm	短軸	221cm	深さ	55cm	
堆積土	15層に分層された。黒褐色土を主体とし、炭化物、焼土、ローム粒、粘土を混入する。 下半は人為堆積、上半は自然堆積と思われる。					
出土遺物	堆積土 — 土師器坏25、須恵器2					
小結	焼土の廃棄がみられる。破壊したカマドの一部と思われる。37Hのものを転用していると考えられる。					

土坑・36土						
平面形	楕円形	壁	直線的に外反する。	底面	やや凸凹がある。	
規模	長軸 (270) cm	短軸	96～167cm	深さ	41cm	
堆積土	11層に分層された。黒褐色土を主体とし、粘土、焼土、炭化物を混入する。 人為堆積と思われる。					
出土遺物	堆積土—土師器53、須恵器4					
小結	粘土、焼土の廃棄がみられる。破壊したカマドの一部と思われる。					



第Ⅴ－１－17図　第６号建物跡(1)



竪穴部（F－F′）

第１層　暗褐色土　7.5YR3/4　焼土層、炭化粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/3　焼土粒、炭化粒、ローム粒微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/3　粘土Ｂ中量、焼土粒微量。

第26号　土坑（B－B′）

第１層　暗褐色土　7.5YR3/4　焼土層、焼けた粘土Ｂ（大）中量、炭化粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/3　焼土、炭化物、粘土Ｂ、ローム粒微量。
第３層　褐色土　7.5YR4/3　焼土多量、炭化物微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、焼土微量。
第５層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、炭化物、ローム粒微量。
第６層　黒褐色土　10YR2/2　粘土Ｂ、ローム粒微量。
第７層　黒褐色土　10YR2/2　炭化粒、ローム粒微量。
第８層　黒色土　7.5YR2/1　焼土、ローム粒微量。
第９層　にぶい黄褐色土　10YR5/4　ローム層。
第10層　暗褐色土　10YR3/3　ローム中量、炭化物微量。
第11層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量。
第12層　褐色土　10YR4/4　粘土層。
第13層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　砂質土、粘土Ｂ微量。
第14層　褐色土　10YR4/4　砂質土。

第26号　土坑（C－C′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物、焼土、ローム粒、L.B（小）少量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物、焼土、粘土、ローム粒、L.B（小）微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　焼土（小）少量、炭化物、ローム粒微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/3　粘土、ローム粒少量。
第５層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物、粘土Ｂ（大）微量、L.B（大）微量。
第６層　黒褐色土　10YR2/3　L.B、ローム粒微量。
第７層　暗褐色土　10YR3/3　粘土Ｂ多量、ローム粒少量、炭化物微量。
第８層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量。
第９層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量、L.B（小）微量。
第10層　黄褐色土　10YR4/3　粘土少量、炭化物、ローム粒微量。
第11層　暗褐色土　10YR3/3　粘土多量、炭化物微量。
第12層　黒褐色土　10YR3/2　粘土、ローム粒少量。
第13層　黒褐色土　10YR2/2　粘土微量。
第14層　褐色土　10YR4/4　粘土層。
第15層　褐色土　10YR4/4　粘土微量。

第25号　溝跡（D－D′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量、L.B（大）少量。
第４層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（小）、炭化物、粘土Ｂ微量。
第５層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒多量。
第６層　黄褐色土　10YR5/6　L.B多量。
第７層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒、L.B（小）微量。
第８層　黒褐色土　10YR2/3　粘土（大）、L.B（大）微量。
第９層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第10層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第11層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第12層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量。
第13層　黒褐色土　10YR3/2
第14層　黒色土　10YR2/1　ローム粒微量。
第15層　黄褐色土　10YR4/3　粘土Ｂ（大）少量。
第16層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、粘土Ｂ（大）微量。
第17層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒多量、粘土Ｂ（大）微量。

竪穴部（E－E′）

第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒（小）少量。
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒（大）、L.B（小）中量。
第３層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒（小）微量。
第４層　灰黄褐色土　10YR4/2　L.B（小）多量。
第５層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第６層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒（小）微量。

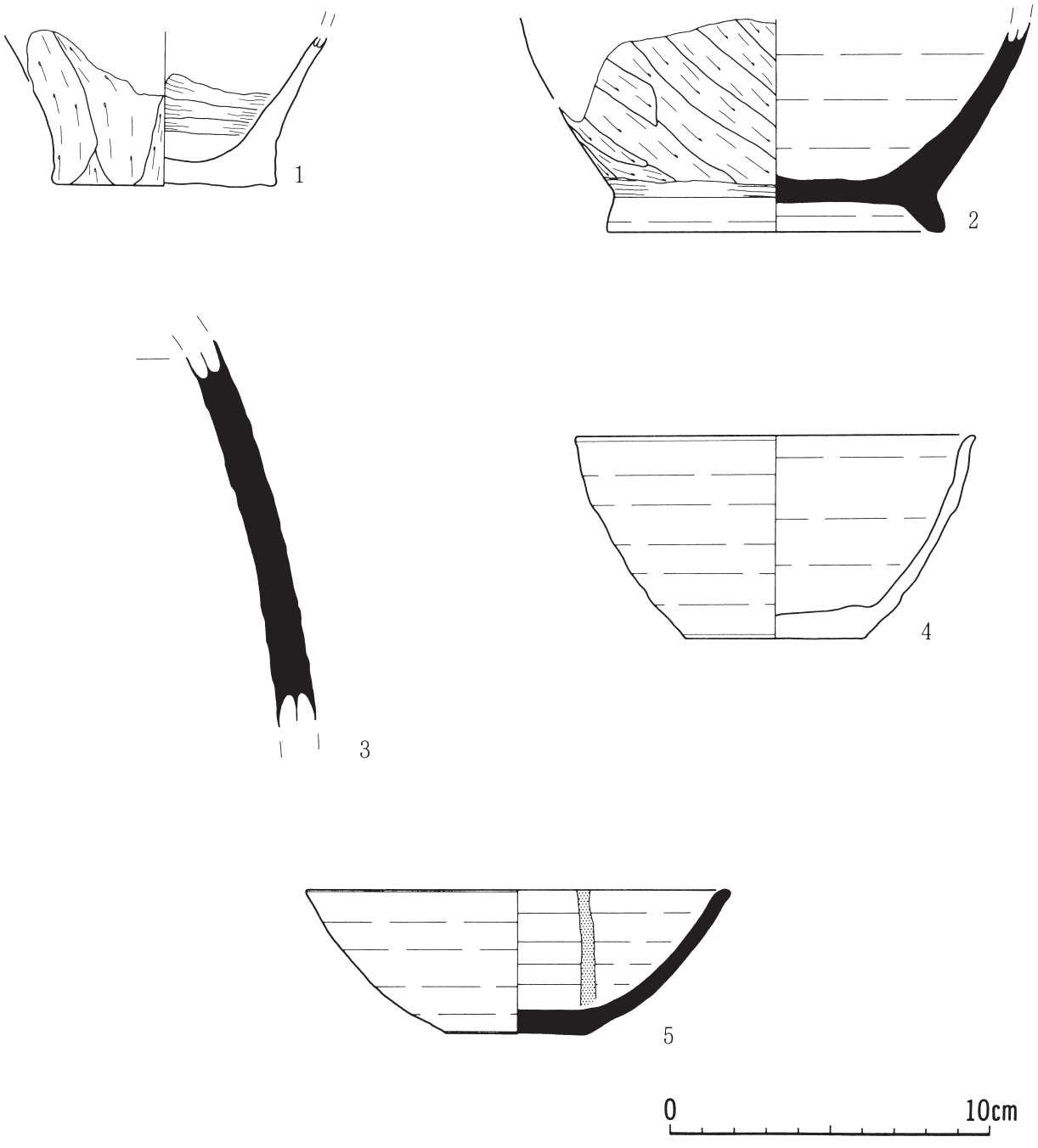
第36号　土坑（J－J′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　粘土中量、焼土微量。
第２層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　焼土Ｂ、炭化物少量。
第３層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　粘土中量、焼土、炭化物微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、炭化物、粘土少量。
第５層　黒褐色土　10YR3/2　焼土（大）、粘土Ｂ（小）少量。
第６層　暗褐色土　10YR3/3　ロームＢ（大）中量。
第７層　黒褐色土　10YR3/2　焼土粒（小）、L.B（大）少量。
第８層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（小）微量。
第９層　黒褐色土　10YR2/3　焼土、ローム粒少量。
第10層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（大）多量、焼土粒（小）微量。
第11層　黒色土　10YR2/1　L.B（大）多量。

第22号　土坑（L－L′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、炭化粒、ローム粒微量。

第Ⅴ－１－18図　第６号建物跡（２）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	甕	25 M フク土		(4.8)	6.9			ヘラケズリ			ヘラナデ				
2	須恵器	長頸壺?	〃		(6.6)	10.5			ヘラケズリ ロクロ			ロクロ	ヘラナデ		高台付	
3	〃	大甕	〃		(11.8)			格子状叩き目				当て具痕（平行）			胎土分析－59（日本海側）	
4	土師器	坏	26 土 フク土	12.6	6.3	5.7	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		磨耗	
5	須恵器	〃	36 土 フク土	(13.2)	4.4	4.5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		火ダスキ痕 灰白色 胎土分析－43（搬入）	

第Ⅴ－１－19図　第６号建物跡（３）

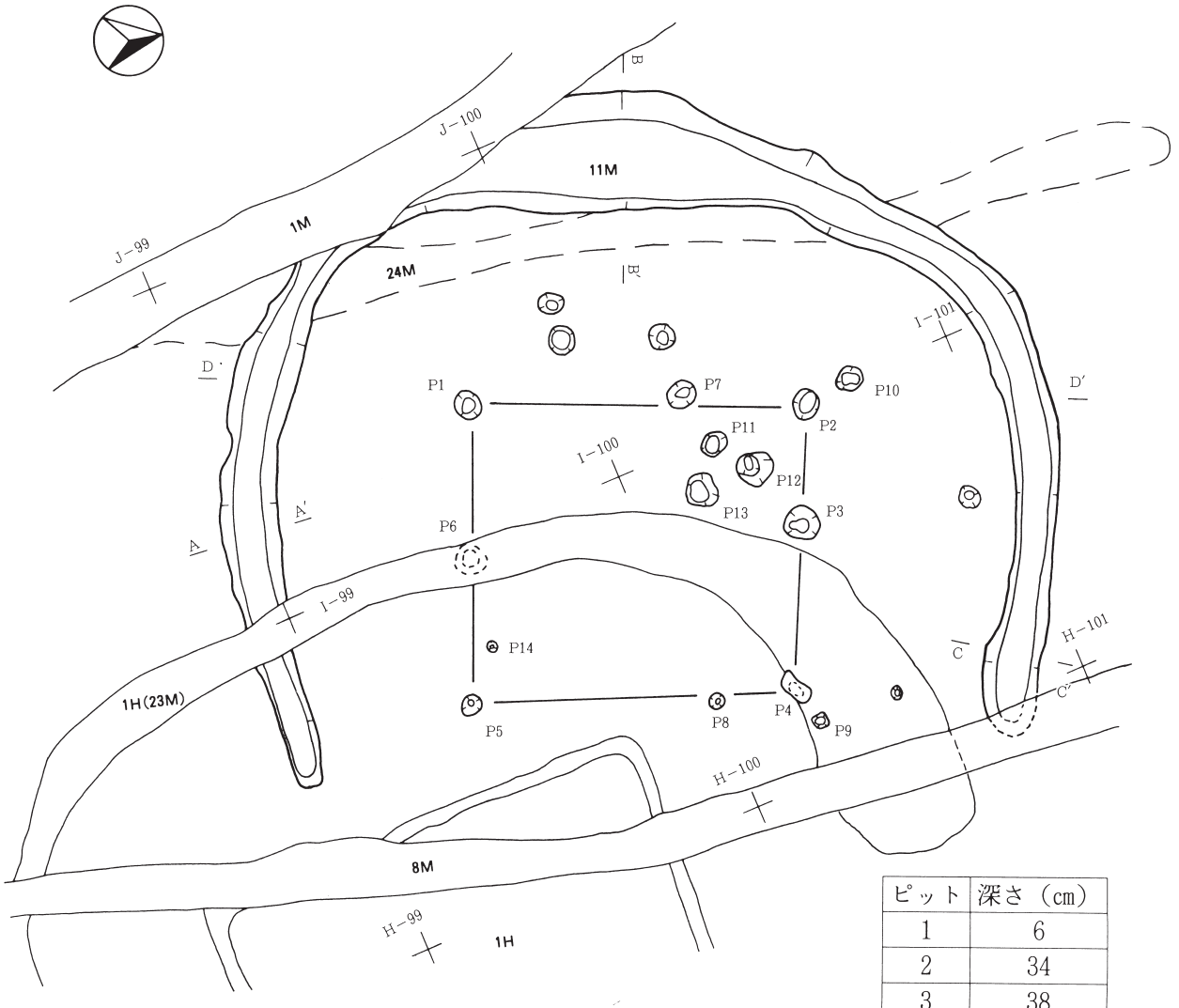
第７号建物跡　観察一覧表

位　置	H～Ｉ－99～100	図版番号	第Ⅴ－１－20～21図	写真図版番号	5−2、7−7

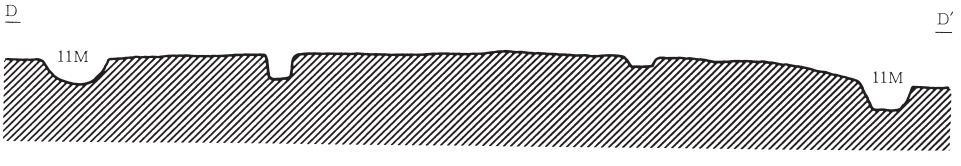
重複関係	８Ｍ（現代）、１Ｍ、１Ｈ＞７Ｈ＞24Ｍ

竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
		柱間寸法　（ｍ）	3.62	3.82	3.33	3.21
		壁　高　（ｍ）	―――	―――	―――	―――
		周溝－幅　（ｍ）	―――	―――	―――	―――
		周溝深さ　（ｍ）	―――	―――	―――	―――
	平面形	長方形	床面積	約（12.8）㎡	主軸方位	Ｎ－119°－Ｅ
	壁	検出されなかった。			床	平坦である。
	周　壁	検出されなかった。				
	ピット	14個検出された。主柱穴は、P_1～P_8と思われる。				
	かまど	遺存状態	検出されなかった。	位　置	不明である。	
	堆積土	検出されなかった。				
	出土遺物	なし。				
	附属施設	掘立柱建物跡－検出されなかった。外周溝－11Ｍ、土坑－なし。				
	小　結	上部がかなり削平されており、主柱穴しか検出できなかった。 第１号建物跡との重複関係や出土遺物から、本建物跡の時期は、９世紀末葉に近い後半と思われる。				

外周溝・11Ｍ	規　模	長　さ	18.4m	幅	63～132㎝	断面形	箱　形
		深　さ	25～44㎝	幅	23～62㎝	傾　斜	西→東
	堆積土	14層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。 南・北側は人為堆積、西側は自然堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土　―　土師器甕１、須恵器坏１、壺１					
	小　結	かなり削平されている。 タイプ－中央（西側）が幅広く、両端（南側はしっぽ状）が狭まる。					

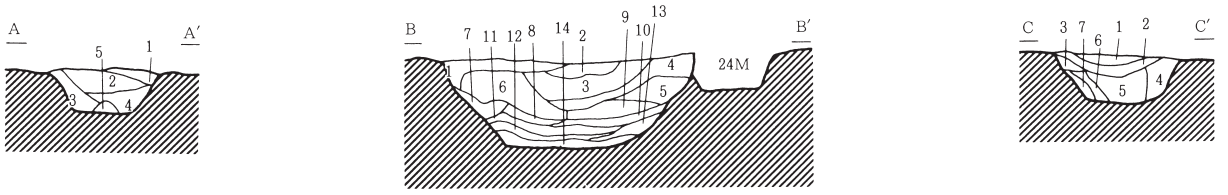


ピット	深さ（cm）
1	6
2	34
3	38
4	39
5	21
6	—
7	8
8	43
9	—
10	12
11	10
12	34
13	14
14	35



0　　4m

第Ⅴ－１－20図　第７号建物跡（１）



第11号　溝跡（A－A′）

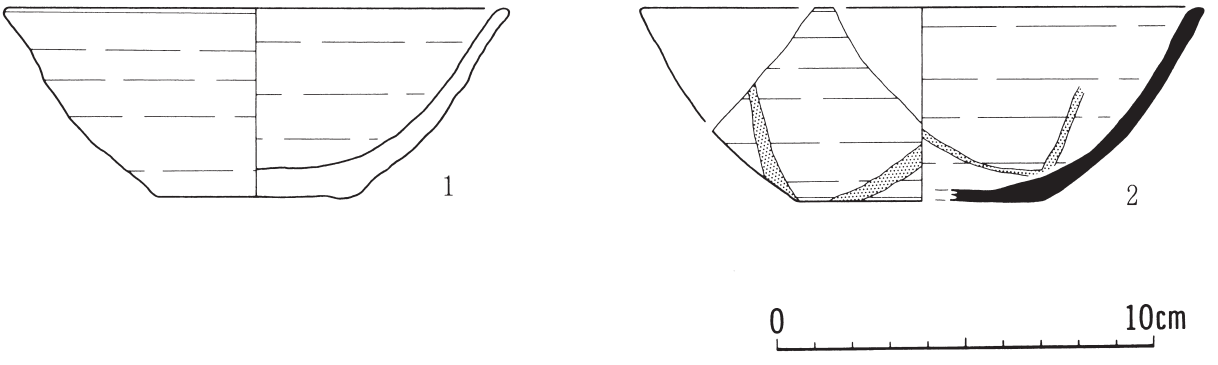
第１層	黒色土	10YR2/1	火山灰、L.B少量、ローム粒微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	L.B（大）、ローム粒少量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	L.B（大）多量、ローム粒中量。
第４層	黒色土	10YR2/1	ローム粒少量。
第５層	にぶい黄橙色土	10YR6/4	

第11号　溝跡（B－B′）

第１層	黒褐色土	10YR2/2	L.B（大）、ローム粒中量、焼土粒微量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量、焼土粒、炭化物微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/2	L.B、ローム粒中量、焼土少量。
第４層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量、焼土、粘土中量。
第５層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量、焼土粒、炭化物微量。
第６層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒多量、L.B（大）中量、焼土少量。
第７層	にぶい黄橙色土	10YR6/3	ローム粒多量。
第８層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒少量、焼土、粘土（大）微量。
第９層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒中量、焼土、粘土少量。
第10層	にぶい黄褐色土	10YR3/1	ローム粒中量、焼土、粘土少量。
第11層	黒褐色土	10YR3/2	焼土微量。
第12層	灰黄褐色土	10YR4/2	焼土少量、ローム粒微量。
第13層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒多量、L.B中量、焼土微量。
第14層	にぶい黄橙色土	10YR6/4	L.B多量。

第11号　溝跡（C－C′）

第１層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土少量、L.B（大）微量。
第３層	黒色土	10YR2/1	ローム粒中量、焼土微量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土、炭化物、L.B（大）微量。
第５層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量、粘土中量、L.B（大）少量。
第６層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、焼土、L.B（大）微量。
第７層	にぶい黄橙色土	10YR6/3	L.B多量。



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	11 M フク土	13.4	4.9	5.1	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切			
2	須恵器	〃	〃	(15.0)	(5.1)	(6.5)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		胎土分析－56（五所川原）	

第Ⅴ－１－21図　第７号建物跡（２）

第８号建物跡　観察一覧表

位　置	G～H－93～94	図版番号	第Ⅴ－１－22～24図	写真図版番号	８－１、２

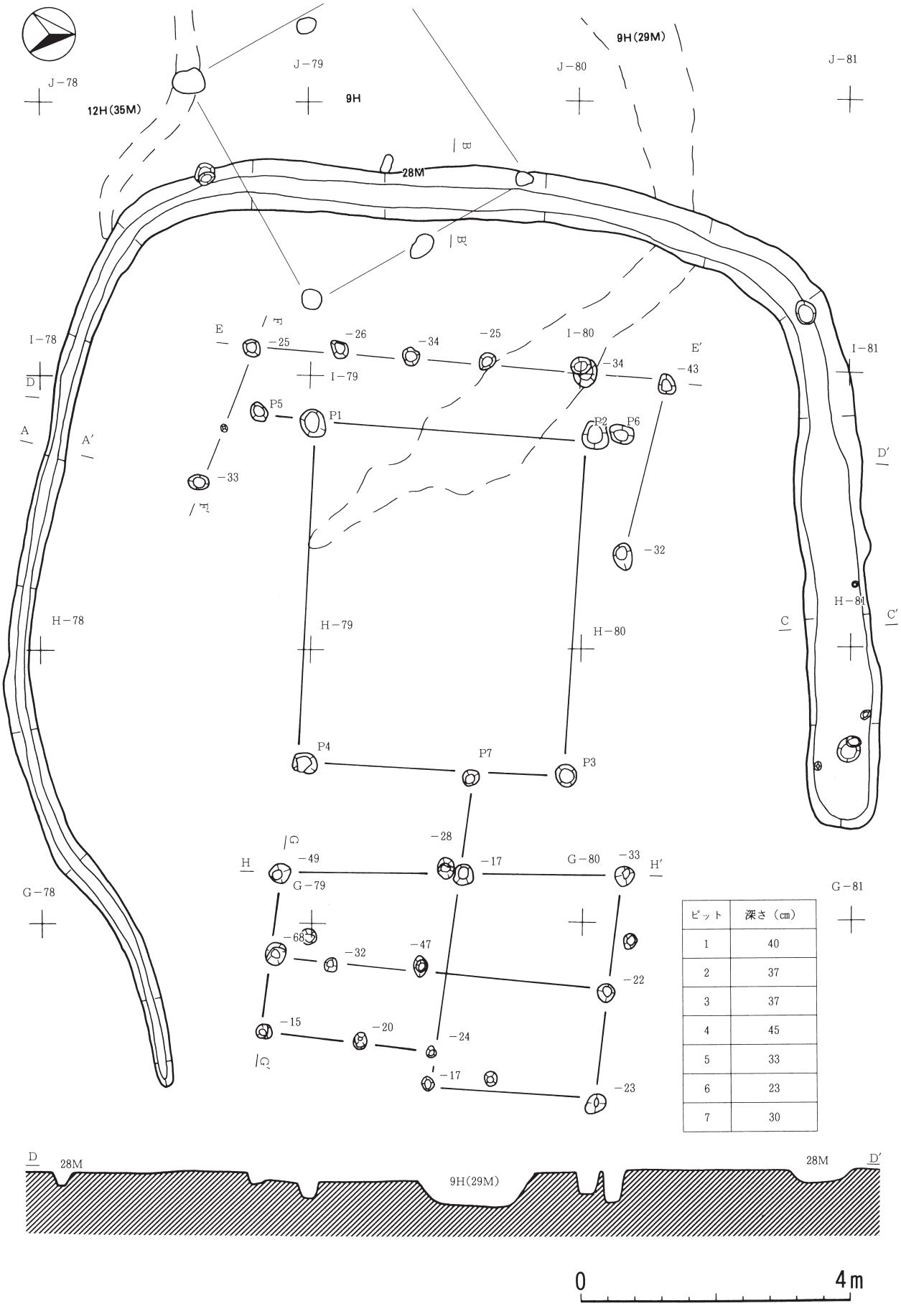
重複関係	８H＞９H＞12H

			東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
竪穴部	法　量	柱間寸法　（ｍ）	3.94	4.02	4.90	4.94
		壁　高　（ｍ）	―――	―――	―――	―――
		周溝－幅　（ｍ）	―――	―――	―――	―――
		周溝深さ　（ｍ）	―――	―――	―――	―――
	平面形	長方形	床面積	約（19.6）㎡	主軸方位	N－85°－E
	壁	検出されなかった。			床	平坦である。
	周　壁	検出されなかった。				
	ピット	６個検出された。 主柱穴は、P_1～P_6と思われる。				
	かまど	遺存状態	検出されなかった。	位　置	不明である。	
	堆積土	検出されなかった。				
	出土遺物	柱穴堆積土－土師器甕１				
	附属施設	掘立柱建物跡１、外周溝－28M、土坑－なし。 西側に「コ」字形の塀状の施設				
	小　結	かなり削平されており、主柱穴のみが検出された。 第９号、第12号建物跡との重複関係や出土遺物から、本建物跡の時期は、10世紀前半と思われる。				

掘立柱部１	規　模	桁行２間（総長5.14m－西）×梁行２間（総長3.36m－北）	
	平面形式	いびつな長方形を呈する東西棟建物跡である。	
	柱　穴	径	15㎝～32㎝の円形の掘り方である。
		深　さ	17㎝～68㎝である。
	柱間寸法	桁行　―　2.74m（９尺０寸）、2.40m（７尺９寸） 梁行　―　1.74m（５尺７寸）、1.62m（５尺３寸）	
	出土遺物	なし。	
	小　結	竪穴部の面積（19.6㎡）＋掘立柱部の面積（10.4㎡）＝約30.0㎡（約18畳）	

掘立柱部２	規　模	桁行５間（総長6.21m－西）×梁行１間（総長2.56m－北）	
	平面形式	「コ」字形を呈する柵列と思われる施設である。	
	柱　穴	径	22㎝～47㎝の楕円形の掘り方である。
		深さ	25㎝～43㎝で、ほぼ均一である。
	柱間寸法	桁行　―　1.30m（４尺３寸）、1.06m（３尺５寸）、1.14m（３尺７寸） 1.46m（４尺８寸）、1.25m（４尺１寸） 梁行　―　2.56m（８尺４寸）、及び2.10m（６尺４寸）	
	出土遺物	なし。	
	小　結	竪穴部の西側を囲む形で、防風雪の施設とも考えられる。	

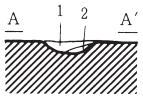
外周溝・28M	規　模	長　さ	31.4m	幅	29～96㎝	断面形	U字形
		深　さ	６～28㎝	幅	10～28㎝	傾　斜	西→東
	堆積土	７層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。 人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土　―　土師器坏１、甕14、須恵器壷１、鉄製品１ 柱穴堆積一土師器甕１。					
	小　結	かなり削平されている。 タイプ－南側は末端が次第にしっぽ状に狭まり、北側は幅が広がる。					

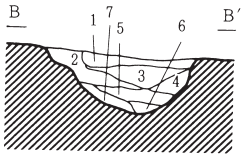


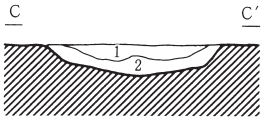
ピット	深さ（cm）
1	40
2	37
3	37
4	45
5	33
6	23
7	30

0　4m

第Ⅴ－1－22図　第8号建物跡（1）







第28号　溝跡（A－A′）

第１層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量。
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量。

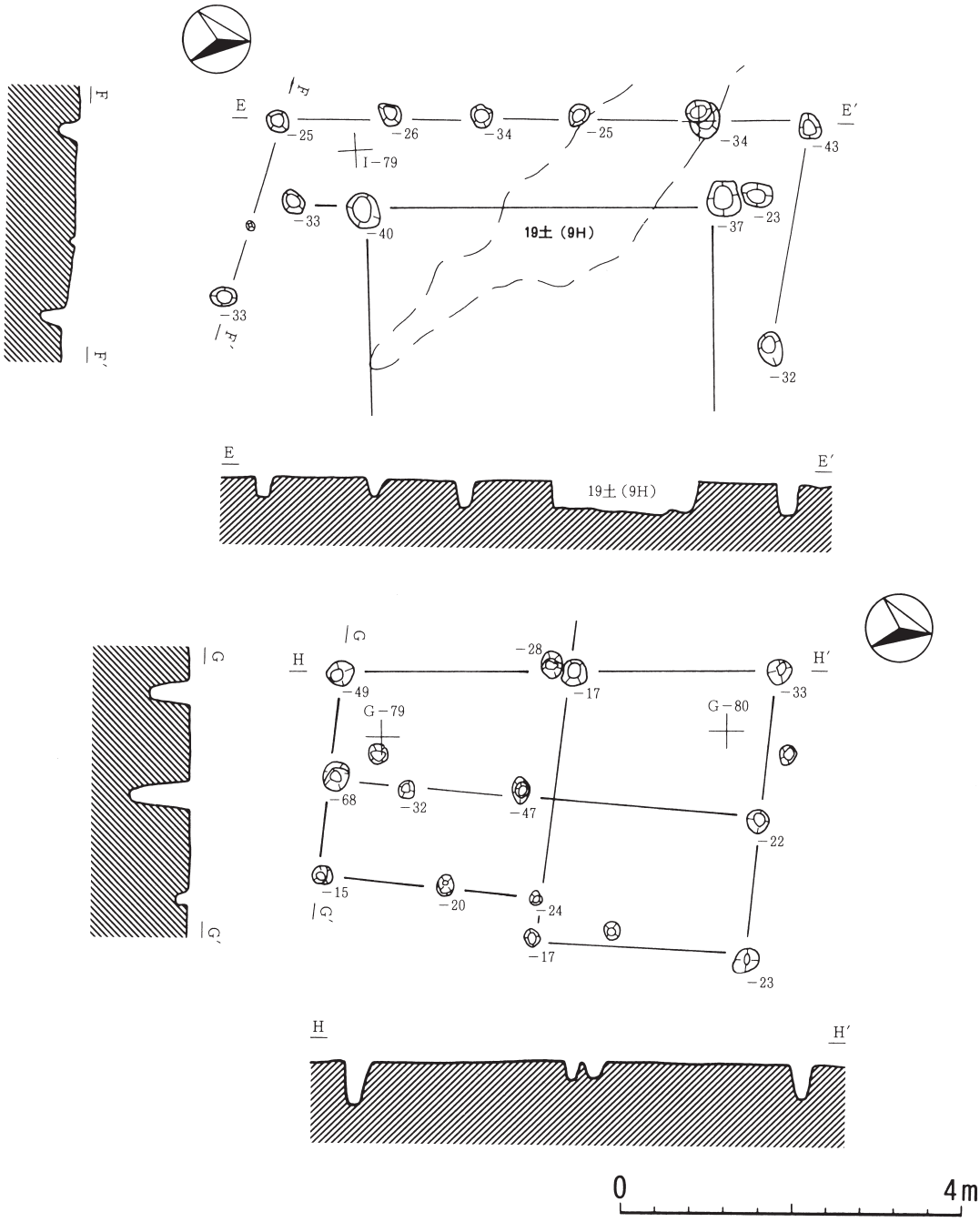
第28号　溝跡（B－B′）

第１層　黒褐色土　10YR3/2　焼土粒、ローム粒少量、炭化粒微量。
第２層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量。
第４層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量、砂微量。
第５層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量。
第６層　黒褐色土　10YR2/2　粘土、ローム粒微量。
第７層　黒褐色土　10YR3/1　粘土中量、ローム粒少量。

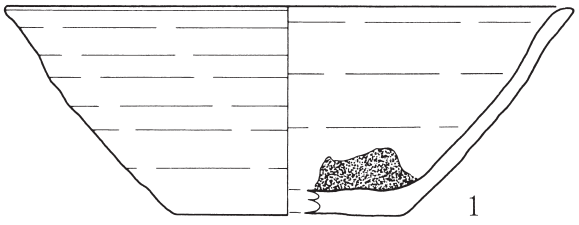
0　2m

第28号　溝跡（H－81付近）（C－C′）

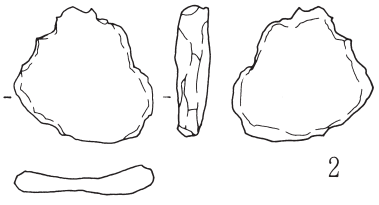
第１層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒微量。
第２層　黒色土　10YR3/4　ローム粒(小)中量、L.B(小)微量。



第Ⅴ－１－23図　第８号建物跡（２）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	28 M フク土	(15.0)	5.5	(6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		ハクリ	



遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	磁石付力	整理No.
2	鉄製品	不明	8H SD028溝跡 覆土	36.0	39.0	10.0	13.6	中央部が窪む		×	24

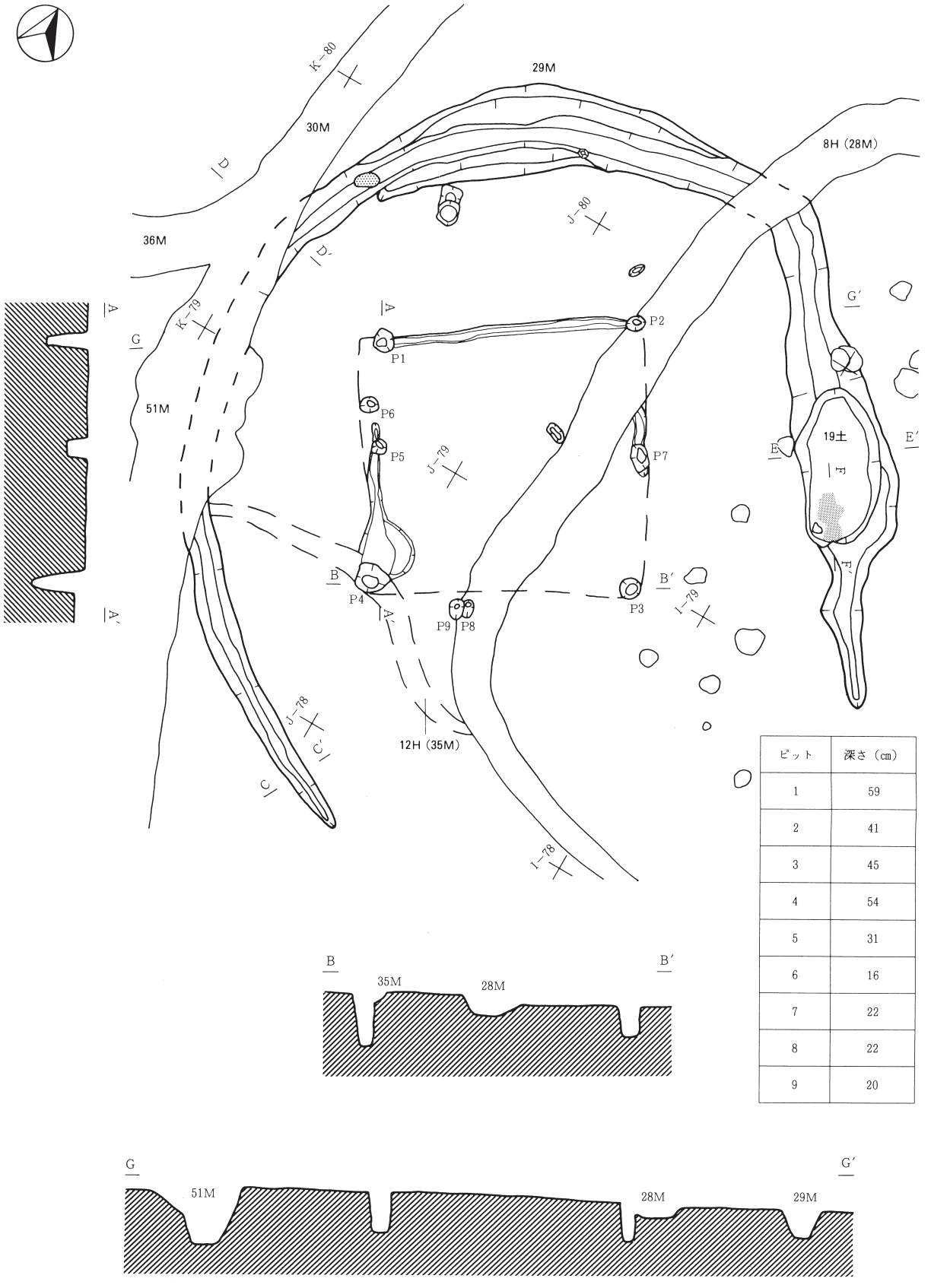
第Ⅴ－１－24図　第８号建物跡（３）

第９号建物跡　観察一覧表

位置	Ⅰ～Ｊ－78～79	図版番号	第Ⅴ－１－25～26図	写真図版番号	８－２～４

重複関係	30M、51M、８Ｈ＞９Ｈ＞12Ｈ

			東壁	西壁	南壁	北壁
竪穴部	法量	柱間寸法（ｍ）	3.72	4.00	3.64	3.89
		壁高（ｍ）	―――	―――	―――	―――
		周溝－幅（ｍ）	―――	16	16	15
		周溝深さ（ｍ）	―――	10	5	20
	平面形	正方形	床面積	約（10.5）m²	主軸方位	Ｎ－140°－Ｅ
	壁	検出されなかった。			床	ほぼ平坦である。
	周壁	北西壁及び南西壁と北東壁の一部を巡る。				
	ピット	９個検出された。 主柱穴は、P_1～P_9と思われる。				
	かまど	遺存状態	検出されなかった。	位置	不明である。	
	堆積土	検出されなかった。				
	出土遺物	なし。				
	附属施設	掘立柱建物跡－検出されなかった。外周溝－29M、土坑－19土				
	小結	かなり削平されていて、かろうじて内周溝を検出したのみである。 第８号、第12号建物跡との重複関係や出土遺物から、本建物跡の時期は、９世紀末～10世紀初頭と思われる。				

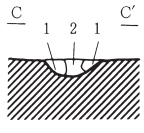


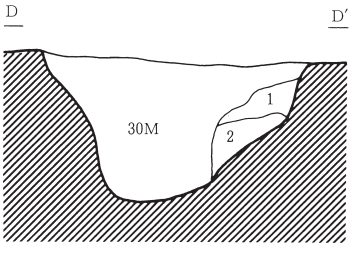
ピット	深さ（cm）
1	59
2	41
3	45
4	54
5	31
6	16
7	22
8	22
9	20

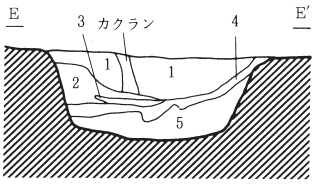
第Ⅴ－１－25図　第９号建物跡（１）

外周溝・29M	規　模	長　さ	23.2m	幅	30～124cm	断面形	箱形
		深　さ	9～40cm	幅	10～27cm	傾　斜	西→東
	堆積土	2層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土　―　土師器坏6、甕22					
	小　結	削平されている。タイプー南側は末端がしっぽ状に狭まり、北側は土坑が付随し、外周溝が更にしっぽ状に延びる。					

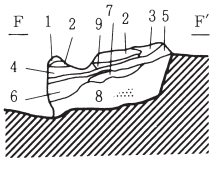
土坑・19土	平面形	楕円形		壁	ゆるやかに立ち上がる	底　面	ほぼ平担である。
	規　模	長　軸	214cm	短軸	126cm	深　さ	44cm
	堆積土	8層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土　―　土師器甕9					
	小　結	粘土・焼土の廃棄がみられる。					







0　　2m



第29号　溝跡（C－C′）

第1層　黒褐色土　10YR2/3　焼土（小）、L.B（小）、ローム粒微量。
第2層　暗褐色土　10YR3/3　L.B（小）多量、焼土（小）微量。

第29号　溝跡（D－D′）

第1層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（小）、ローム粒少量、焼土粒、炭化粒、灰微量。
第2層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（小）中量、炭化物（小）、灰微量。

第19号　土坑（E－E′）

第1層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（大）多量、灰微量。
第2層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（小）少量、焼土（小）、灰微量。
第3層　にぶい黄橙色土　10YR4/3　焼土（小）、L.B（小）微量。
第4層　黒色土　10YR2/1　L.B（小）少量、灰微量。
第5層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（大）多量、ローム粒中量、焼土、灰微量。

第19号　土坑（F－F′）

第1層　黒褐色土　10YR3/1　焼土粒、炭化物少量、焼土微量。
第2層　にぶい黄橙色土　10YR4/4　焼土粒微量。
第3層　黒褐色土　10YR3/2　焼土中量。
第4層　黒褐色土　10YR3/1　焼土粒、ローム粒少量、炭化粒微量。
第5層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒少量。
第6層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、ローム粒少量。
第7層　黒褐色土　10YR3/1　粘土少量、焼土、炭化粒、ローム粒微量。
第8層　黒褐色土　10YR3/2　L.B（大）多量、焼土微量。
第9層　暗褐色土　10YR3/3　焼土粒多量、炭化粒少量、焼土微量。

第Ⅴ－1－26図　第9号建物跡（2）

第10号建物跡　観察一覧表

位　置	Ⅰ～M－88～89	図版番号	第Ⅴ－１－27～30図	写真図版番号	5-3~5,7,8,6-3,8-5~8

重複関係	３Ｈ＞10Ｈ（２Ｈを拡張）＞２Ｈ 14Ｈ＞10Ｈ（２Ｈを拡張）＞２Ｈ

竪穴部

		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
法　量	壁　長（ｍ）	(6.24)	5.88	5.37	5.30
	壁　高（ｍ）	―――	―――	―――	―――
	周溝－幅（ｍ）	(38)	20	22	14
	周溝深さ（ｍ）	(24)	43	7	12

平面形	長方形	床面積	約（27.2）㎡	主軸方位	N－101°－E
壁	検出されなかった。			床	ほぼ平坦である。
周　壁	南・西壁及び北壁の４分の３を巡る。※東壁は２Ｈと同じ				
ピット	14個検出された。 主柱穴は、P_1、P_3、壁柱穴はP_4～P_{11}と思われる。				
かまど	遺存状態	不良		位　置	東壁の南寄り。
	火床面（90㎝×75㎝）のみが検出された。人為的に破壊されていると思われる。				
堆積土	内周溝堆積土のみ検出された。４層に分層され、黒褐色を主体とし、ローム粒を混入する。				
出土遺物	確認面堆積土　―　土師器甕24　　貼床中　―　土師器甕１、鉄製品１（釘） 堆積土　―　須恵器坏１、壺２ 床面　―　土師器甕３ かまど堆積土　―　須恵器坏１				
附属施設	掘立柱建物跡１棟、外周溝－18M、土坑－１土、49土、171土、柱穴列１基（２Ｈにも併載）				
小　結	２Ｈを拡張したものである上部がかなり削平されている。				

掘立柱部

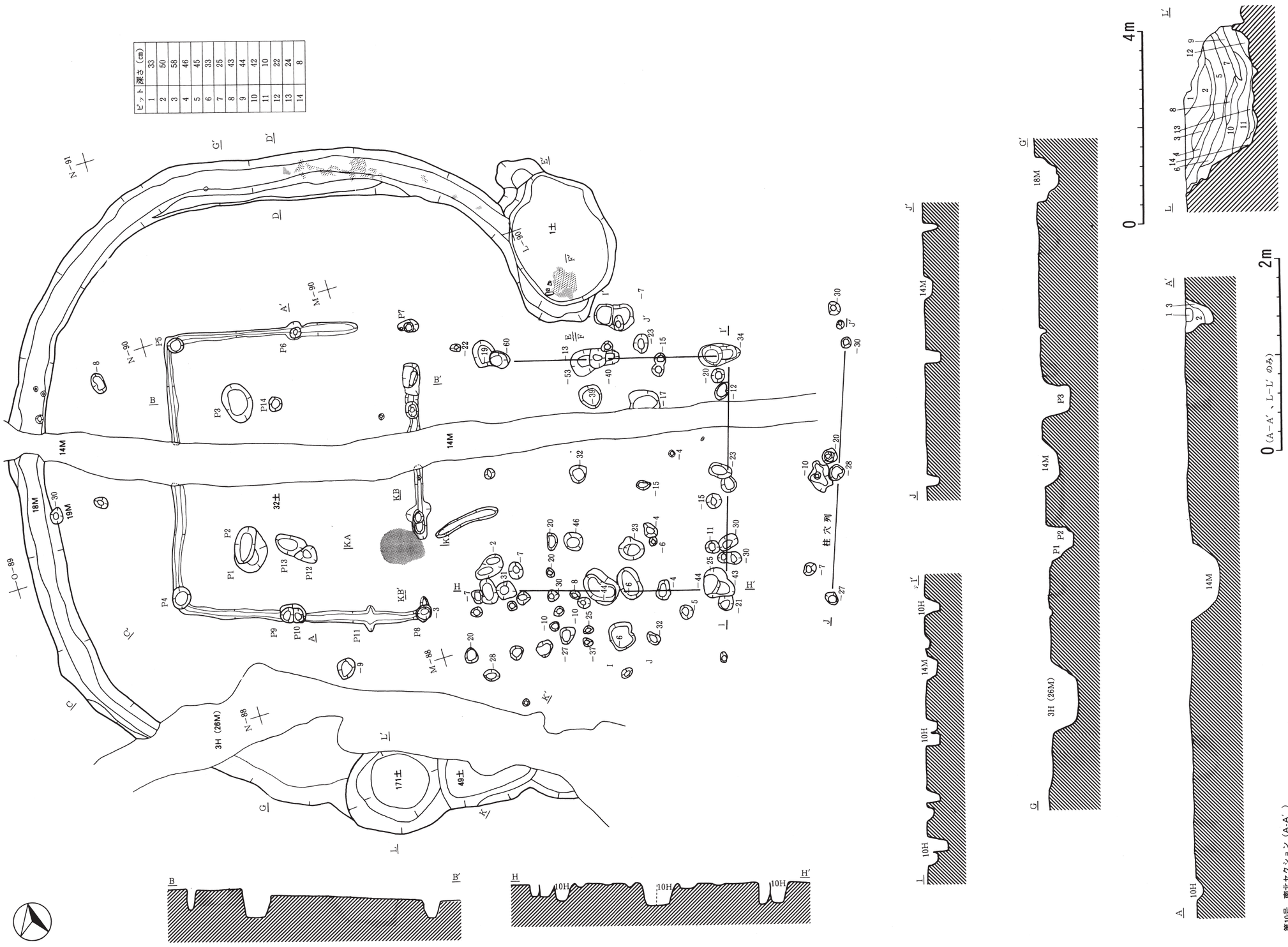
規　模	桁行２間（総長4.60ｍ－南）×梁間２間（総長4.85ｍ－東）		
平面形式	ほぼ正方形を呈する東西棟建物跡である。２Ｈ掘立を拡張している。		
柱　穴	径	40㎝～75㎝の楕円形の掘り方である。	
	深　さ	31㎝～60㎝である。	
柱間寸法	桁行　―　2.15ｍ（７尺１寸）、2.45ｍ（８尺１寸） 梁間　―　2.15ｍ（７尺１寸）、2.70ｍ（８尺９寸）		
出土遺物	なし。		
小　結	竪穴部の面積（27.2㎡）＋掘立柱部の面積（23.4㎡）＝約50.6㎡		

外周溝・18M

規　模	長　さ	22.9ｍ	幅	55～71㎝	断面形	箱形
	深　さ	31㎝	幅	18～42㎝	傾　斜	西→東
堆積土	11層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。 人為堆積と思われる。					
出土遺物	堆積土　―　土師器坏15、甕65、須恵器坏１、壺４、鉄製品１（刀子） 底面　―　土師器甕２					
小　結	粘土の廃棄が北側に見られる。 両端に土坑が付随する。					

土坑・171土

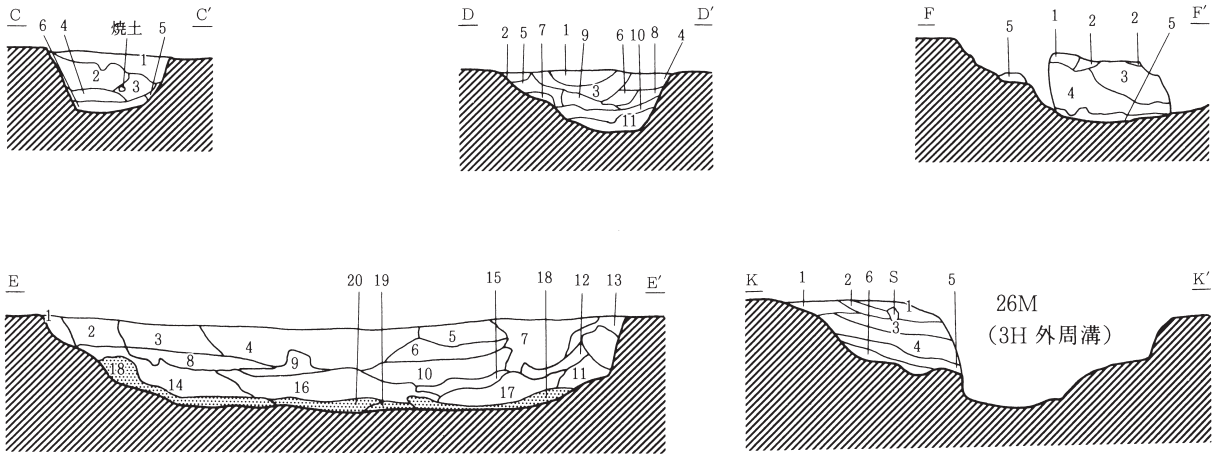
平面形	円形	壁	ゆるやかに立ち上がる	底　面	ほぼ平担である。	
規　模	長　軸	(186㎝)	短軸	(172㎝)	深　さ	74㎝
堆積土	14層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。 人為堆積と思われる。					
出土遺物	なし					
小　結						



第Ⅴ－１－27図　第10号建物跡(1)

土坑・1土						
平面形	楕円形	壁	直線的に外反する。	底面	平担である。	
規模	長軸	370cm	短軸	228cm	深さ	44cm
堆積土	20層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土、炭化物を混入する。人為堆積と思われる。					
出土遺物	堆積土 ― 土師器68、須恵器7					
小結	粘土・焼土の廃棄がみられる。					

土坑・49土						
平面形	形	壁	緩やかに立ち上がる	底面	凹凸あり	
規模	長軸	200cm	短軸	110cm	深さ	40cm
堆積土	6層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、炭化物を混入する。人為堆積と思われる。					
出土遺物	なし					
小結						



第18号　溝跡（C－C′）

第1層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物、ローム粒少量。
第2層　黒褐色土　10YR2/3　LB（大）（小）、ローム粒少量。
第3層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、ローム粒微量。
第4層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量。
第5層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量。
第6層　黒褐色土　10YR2/2　粘土多量、LB中量。

第18号　溝跡（D－D′）

第1層　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒少量、L.B（大）微量。
第2層　黒褐色土　10YR3/2　L.B（小）、ローム粒微量。
第3層　黒褐色土　10YR2/3　焼土、炭化物、ローム粒微量。
第4層　黒褐色土　10YR3/1　焼土流少量、焼土、炭化物、ローム粒微量。
第5層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（大）、ローム粒少量、炭化物微量。
第6層　褐色土　7.5YR4/4　焼土層、炭化物微量。
第7層　黒色土　10YR2/1　粘土層。
第8層　黒褐色土　10YR2/3　焼土、ローム粒微量。
第9層　黒色土　10YR2/1　焼土、炭化物、ローム粒微量。
第10層　黒褐色土　10YR2/3　粘土層。
第11層　黒褐色土　10YR2/2　粘土、鉄分微量。

第1号　土坑（F-F′）

第1層　暗褐色土　10YR3/3　焼土層、炭化物粒微少量、粘土B（大）微量。
第2層　黒色土　10YR2/1　焼土層、ローム粒少量、炭化物粒微量。
第3層　黒色土　10YR2/1　粘土B中量、ローム粒微量。
第4層　黒褐色土　10YR2/2　粘土B、L.B少量、焼土、ローム粒微量。
第5層　黒褐色土　10YR5/6　粘土層。

第171号　土坑（L－L′）

第1層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（大）、ローム粒多量。
第2層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、ローム粒微量。
第3層　黒色土　10YR2/1　焼土粒、炭化粒、ローム粒微量。
第4層　黒色土　10YR2/1　焼土粒、ローム粒微量。
第5層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、焼土粒、炭化物微量。
第6層　黒褐色土　7.5YR2/2　ローム粒（大）少量。
第7層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量。

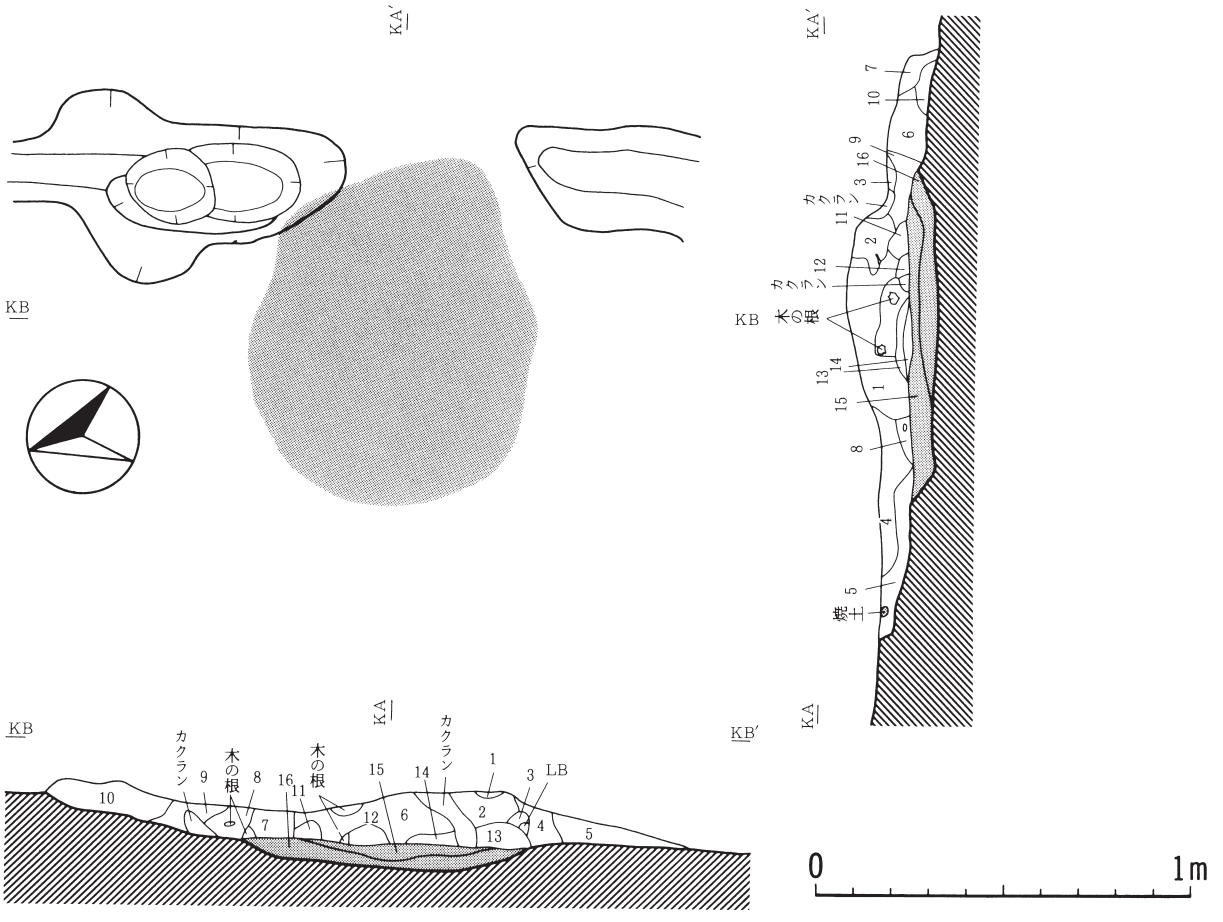
第1号　土坑（E－E′）

第1層　褐色土　10YR4/4　ローム粒多量。
第2層　暗褐色土　10YR3/3　焼土、ローム粒微量。
第3層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量、焼土、炭化物微量。
第4層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（大）少量、焼土B（小）、焼土粒、炭化物、ローム粒微量。
第5層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、炭化物、ローム粒微量。
第6層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、炭化物、ローム粒微量。
第7層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、炭化物、ローム粒微量。
第8層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量、焼土少量、粘土B微量。
第9層　黒褐色土　10YR2/3　焼土、炭化物、ローム粒微量。
第10層　黒褐色土　10YR2/2　焼土B（大）、炭化物、L.B（大）、ローム粒微量。
第11層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、ローム粒微量。
第12層　黒色土　10YR2/1　焼土、ローム粒微量。
第13層　褐色土　10YR4/6　ロームブロック多量。
第14層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、炭化物。L.B（小）、ローム粒微量。
第15層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量、焼土、炭化物微量。
第16層　黒褐色土　10YR2/3　粘土B（大）、L.B（大）少量、焼土、ローム粒微量。
第17層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、炭化物、ローム粒微量。
第18層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　粘土層、ローム粒多量。
第19層　黄褐色土　10YR5/6　粘土層。土坑構築直後の崩落土。
第20層　黄褐色土　10YR5/6　粘土層。土坑構築直後の崩落土。

第49号　土坑（K－K′）

第1層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、ローム粒微量。
第2層　褐色土　7.5YR4/4　焼けたローム層。
第3層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、ローム粒微量。
第4層　黒褐色土　10YR2/3　炭化粒、ローム粒（小）微量。
第5層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第6層　黒褐色土　10YR2/2　粘土層。
第8層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、ローム粒（小）微量。
第9層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒（小）少量。
第10層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第11層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量。
第12層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒多量。
第13層　黒色土　10YR2/1　粘土B（大）、ローム粒微量。
第14層　黒褐色土　10YR2/2　粘土B（小）微量。

第Ⅴ－1－28図　第10号建物跡（2）



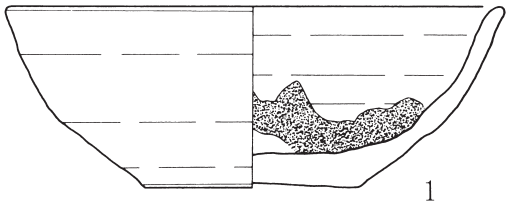
竪穴部（KA－KA′）

第１層	黒褐色土	10YR3／1	焼土中量、炭化粒微量。
第２層	黒褐色土	10YR2／2	焼土粒微量。
第３層	黒褐色土	10YR3／2	焼土、炭化粒微量。
第４層	黒褐色土	10YR2／2	焼土少量、炭化物微量。
第５層	暗褐色土	10YR3／4	焼土中量、炭化物、L.B（大）微量。
第６層	暗褐色土	10YR3／3	焼土、ローム粒微量。
第７層	黒褐色土	10YR3／2	ローム粒微量。
第８層	暗褐色土	10YR3／4	焼土粒中量、ローム粒少量、炭化粒微量。
第９層	暗褐色土	10YR3／3	焼土、焼土粒、炭化物微量。
第10層	黒褐色土	10YR2／2	ローム粒多量。
第11層	明褐色土	7.5YR5／6	焼土、炭化物微量。
第12層	赤褐色土	5YR4／8	褐色土（7.5YR4／3）少量。
第13層	褐色土	7.5YR5／8	焼土粒少量。
第14層	明褐色土	7.5YR5／8	
第15層	明赤褐色土	5YR5／8	焼土層、炭化物少量。
第16層	褐色土	7.5YR4／6	焼土層。

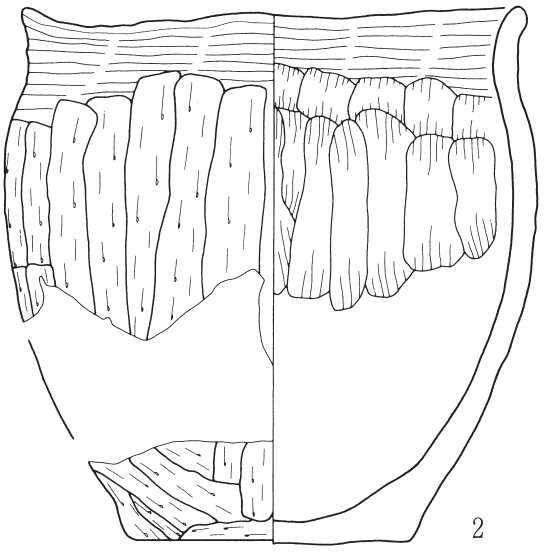
竪穴部（KB－KB′）

第１層	暗褐色土	10YR3／3	ローム多量、焼土微量。
第２層	黒褐色土	10YR2／2	焼土粒微量。
第３層	黒褐色土	10YR2／3	焼土粒微量。
第４層	黒褐色土	10YR2／3	ローム粒少量、焼土粒微量。
第５層	黒褐色土	10YR2／2	焼土粒、ローム粒微量。
第６層	黒褐色土	10YR3／1	焼土中量、炭化粒微量。
第７層	褐色土	7.5YR4／4	焼土、ローム粒少量。
第８層	黒褐色土	10YR3／2	焼土粒少量、炭化粒微量。
第９層	暗褐色土	10YR3／4	ローム粒多量、焼土粒微量。
第10層	黒褐色土	10YR2／2	ローム粒微量。
第11層	暗褐色土	7.5YR4／3	焼土粒多量。
第12層	褐色土	7.5YR4／4	焼土中量、炭化粒微量。
第13層	暗褐色土	7.5YR3／4	焼土少量、焼土粒、炭化粒微量。
第14層	赤褐色土	5YR4／8	
第15層	明赤褐色土	5YR3／8	焼土層、炭化物少量。
第16層	褐色土	7.5YR4／6	焼土層。

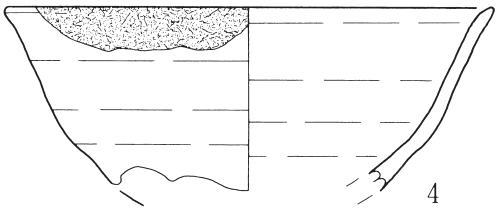
第Ｖ－１－29図　第10号建物跡（３）



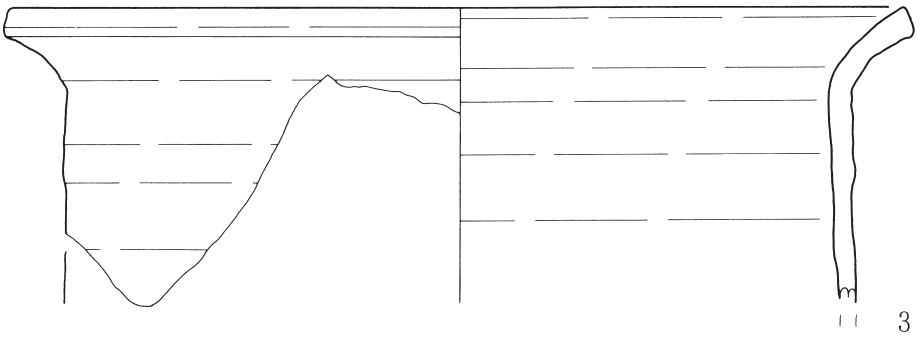
1



2



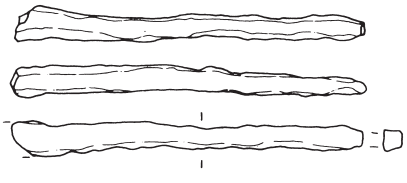
4



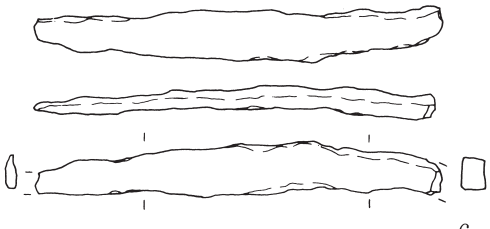
3

0　10cm

遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	18 M 底面	(13.1)	4.8	5.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切		ハクリ、磨耗	
2	〃	甕	竪穴部 フク土	(14.5)	14.1	(7.7)	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ				
3	〃	〃	〃	(24.0)	(7.7)		ロクロ	ロクロ		ロクロ	ロクロ					
4	〃	坏	1 土 フク土	(13.0)	(4.8)		〃	〃	ロクロ	〃	〃	ロクロ			スス、磨耗、ハクリ	



5



6

0　5cm

遺物番号	種別	種類	出土位置	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考	磁石付力	整理No.
	鉄製品	釘	竪穴部　貼床土中	93.0	10.0	9.0	7.5	頭部・先端部欠損	32土坑上面 F−3 分析実施	×	02
	鉄製品	刀子	18M　覆土	110.0	15.0	9.0	12.8	茎部・刃先欠損 刃部に関あり 背部に関なし		×	17

第Ⅴ−1−30図　第10号建物跡（4）

第11号建物跡　観察一覧表

位　置	F～H－88～89	図版番号	第Ⅴ－1－31～37図	写真図版番号	9-1、2、3、4、5、6、7、8

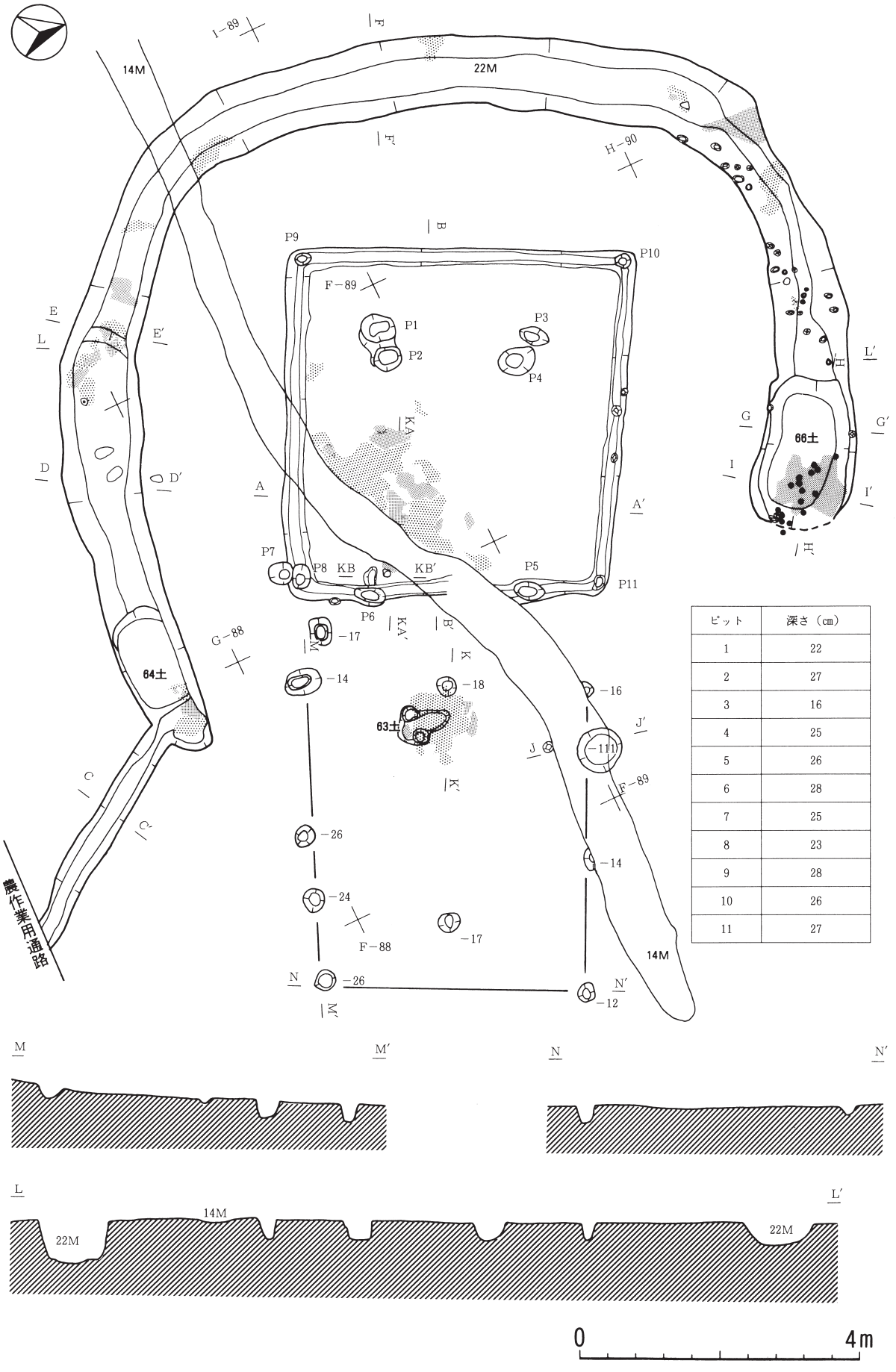
重複関係	14M＞11H

竪穴部	法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
		壁　長（m）	4.56	4.92	4.97	4.86
		壁　高（m）	―――	―――	―――	―――
		周溝－幅（m）	20	27	28	23
		周溝深さ（m）	24	25	27	25
	平面形	正方形	床面積	約19.4m²	主軸方位	N－107°－E
	壁	検出されなかった。			床	平坦である。
	周　壁	一部分は14Mに破壊されているが、一巡する。				
	ピット	10個検出された。 主柱穴は、P_1～P_6と思われる。竪穴部の４隅に柱穴が見られる。				
	かまど	遺存状態	不良	位　置	東壁の南寄り	
		粘土、焼土が散乱した形で検出された。（14Mの影響） ※支脚に用いられた土師器甕底部が出土した。				
	堆積土	16層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、炭化物を混入する。 人為堆積と思われる。				
	出土遺物	堆積土　―　土師器坏３、甕14 床　面　―　土師器坏１、甕20、須恵器大甕１、鉄製品１（刀子）、土製品 貼床中　―　土師器坏１、甕３ 貼床中　―　土師器甕１、須恵器壷１ かまど床面　―　土師器甕２				
	附属施設	掘立柱建物跡１、外周溝－22M、土坑－64土、66土				
	備　考					

掘立柱部	規　模	桁行２間（総長4.22m－南）×梁間１間（総長3.62m－東）
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。
	柱　穴	径　22㎝～64㎝の円形の掘り方である。
		深　さ　14㎝～26㎝である。
	柱間寸法	桁行　―　2.16m（７尺１寸）、0.96m（３尺２寸）、1.10m（３尺６寸） 梁間　―　3.62m（12尺０寸）
	出土遺物	なし。
	小　結	竪穴部の面積（19.4m²）＋掘立柱部の面積（15.3m²）＝約34.7m²

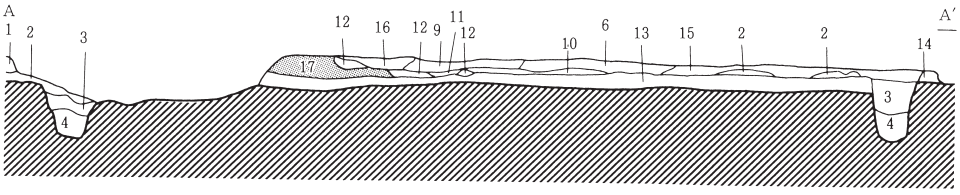
外周溝・22M	規　模	長　さ	23.0m	幅	87～107㎝	断面形	U字形
		深　さ	45～51㎝	幅	47～54㎝	傾　斜	西→東
	堆積土	10層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土、炭化物を混入する。 上位は自然堆積、下位は人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土　―　土師器坏13、甕152、須恵器壷１、大甕１、鉄製品２ 古銭、陶磁器					
	小　結	粘土・焼土の廃棄がみられる。カマドの破壊行為に伴うものと思われる。 両端に土坑が付随し、64土から南側にはさらに外周溝が延びる。					

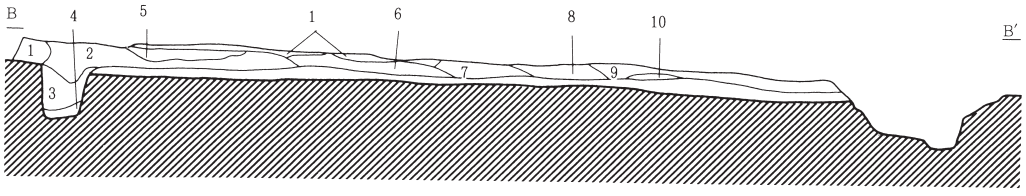
土坑・64土	平面形	楕円形		壁	直線的に外反する。	底　面	平坦である。
	規　模	長　軸	（142）㎝	短　軸	96㎝	深　さ	51㎝
	出土遺物	なし。					

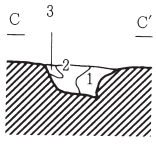


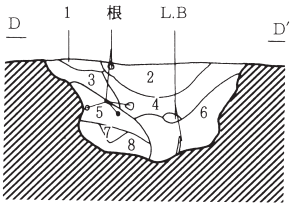
ピット	深さ（cm）
1	22
2	27
3	16
4	25
5	26
6	28
7	25
8	23
9	28
10	26
11	27

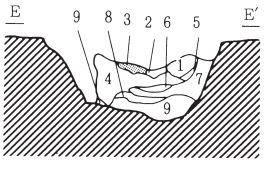
第Ⅴ－１－31図　第11号建物跡（１）

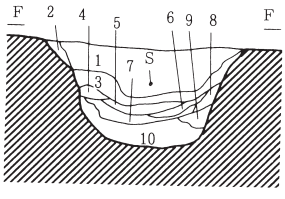


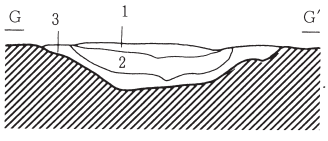


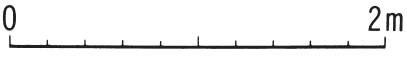












竪穴部（A－A′、B－B′）

第１層　暗褐色土　10YR3/3
第２層　にぶい黄褐色土　10YR4/3　L.B（小）多量、炭化粒微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、L.B（大）微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量。
第５層　黒褐色土　10YR3/2
第６層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量、焼土微量。
第７層　黒褐色土　10YR2/3　L.B、ローム粒少量、焼土微量。
第８層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量、焼土微量。
第９層　黒色土　10YR2/1　焼土中量、ローム粒微量。
第10層　黒褐色土　10YR2/2　粘土、L.B少量、焼土、炭化粒微量。
第11層　にぶい黄褐色土　10YR5/3　ローム粒多量、焼土少量、炭化物微量。
第12層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量、炭化物微量。
第13層　黒褐色土　10YR2/2　L.B(小)、ローム粒中量、L.B(大)、焼土、炭化物微量。黒褐色土中量。（貼床土）
第14層　黒色土　10YR1.7/1
第15層　黒褐色土　10YR2/1　L.B、ローム粒少量。
第16層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒、焼土少量。
第17層　褐色土　7.5YR4/4　焼土層。

第22号　溝跡（C－C′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第２層　黒色土　10YR2/1　ローム粒微量。
第３層　褐色土　10YR4/4　ローム層。

第22号　溝跡（D－D′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（大）、ローム粒微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物、ローム粒微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（大）、ローム粒中量、粘土微量。
第５層　黒色土　10YR2/1　ローム粒微量。
第６層　黒褐色土　10YR2/2　炭化粒、ローム粒（大）微量。
第７層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第８層　黒色土　10YR2/1　粘土多量、ローム粒少量。
第９層　黒色土　10YR2/1　粘土B（大）多量。

第22号　溝跡（E－E′）

第１層　黒褐色土　10YR3/2　L.B、ローム粒多量、焼土、炭化粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/3　焼土中量、炭化粒微量。
第３層　褐色土　7.5YR4/4　焼土層。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、ローム粒微量。
第５層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、ローム粒微量。
第６層　黒褐色土　10YR2/1　焼土、炭化粒、ローム粒微量。
第７層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、炭化粒、ローム粒微量。
第８層　黒色土　7.5YR1.7/1　焼土粒微量。
第９層　黒色土　7.5YR1.7/1　ローム粒多量、焼土B（大）、焼土粒、粘土B（大）微量。

第22号　溝跡（F－F′）

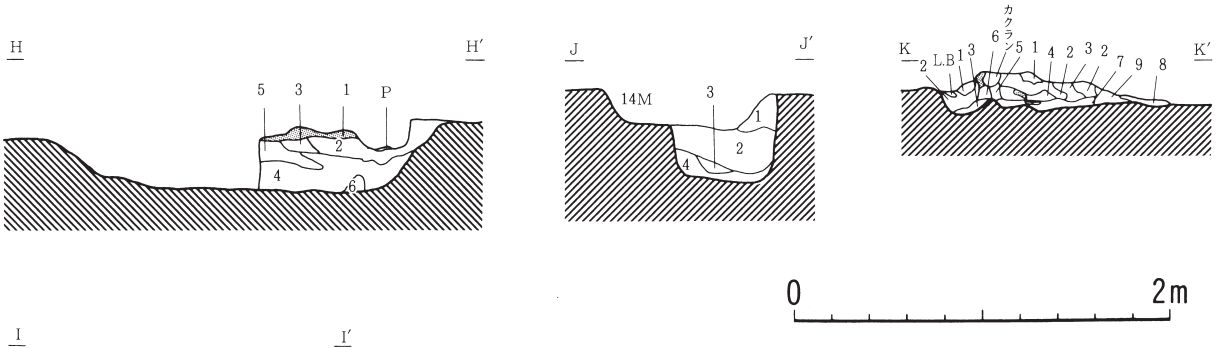
第１層　暗褐色土　10YR3/3　L.B（大）、ローム粒中量、粘土B（大）少量、炭化物微量。
第２層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、炭化物微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/3　炭化物、L.B（大）、ローム粒微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/1　炭化物、ローム粒微量。
第５層　黒色土　10YR2/1　ローム粒微量。
第６層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量。
第７層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第８層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量。
第９層　黒色土　10YR2/1　L.B多量。
第10層　黒褐色土　10YR2/2　粘土B、ローム粒中量。

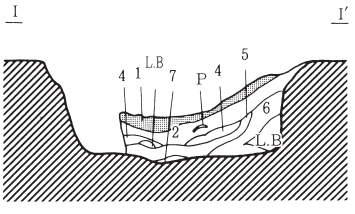
第66号　土坑（G－G′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、焼土、炭化物微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、L.B（大）少量。
第３層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量。

第Ⅴ－１－32図　第11号建物跡（２）

土坑・66土	平面形	楕円形	壁	ゆるやかに立ち上がる	底面	ほぼ平坦である。
	規模	長軸 211cm	短軸	136cm	深さ	39cm
	堆積土	3層に分層された。黒褐色を主体とし、ローム粒を混入する。 下半は人為堆積、上半は自然堆積と思われる。埋土中位で火をたいていると思われる（Ｉ－Ｉ′）				
	出土遺物	堆積土　―　土師器 9				
	小結					





（J－J′）

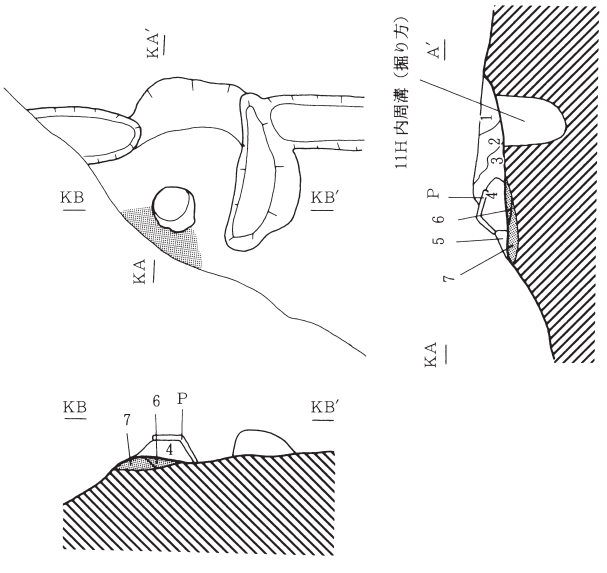
第１層	黒色土	10YR1.7/1	粘土微量。
第２層	黒色土	10YR2/1	ローム粒微量。
第３層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	L.B多量。
第４層	黒色土	10YR2/1	粘土多量。

第66号　土坑（H－H′、I－I′）

第１層	赤褐色土	5YR4/8	焼土B（小）、炭化物微量。
第２層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物微量、焼土、ローム粒、粘土微量。
第３層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒多量、L.B(大)多量、炭化物(大)少量。
第４層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒、L.B(大)微量。
第５層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量。
第６層	黒色土	10YR2/1	
第７層	暗褐色土	10YR3/3	砂層。

第63号土坑（K－K′）

第１層	にぶい橙色土	10YR7/3	粘土層。
第２層	にぶい橙色土	10YR6/3	粘土層、炭化粒微量。
第３層	にぶい黄褐色土	10YR5/3	粘土層。
第４層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	焼土B、焼土粒、炭化粒、粘土B微量。
第５層	黒褐色土	10YR3/2	粘土多量、焼土粒微量。
第６層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量、焼土粒微量。
第７層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒多量、炭化物少量、焼土微量。
第８層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量。
第９層	黒褐色土	10YR2/2	粘土中量、ローム粒少量。

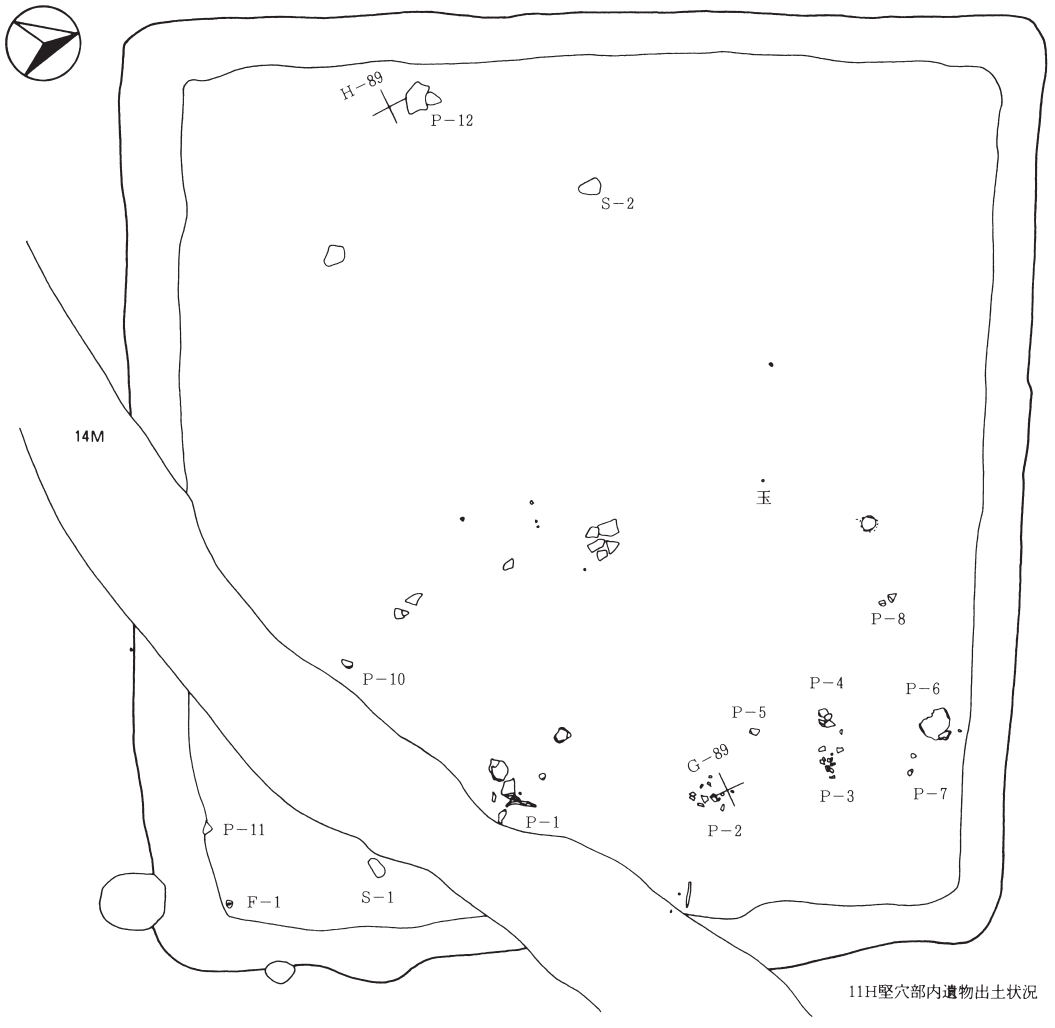


竪穴部（KA－KA′、KB－KB′）

第１層	灰黄褐色土	10YR4/2	焼土粒、ローム粒少量、焼土、炭化粒微量。
第２層	黒褐色土	10YR3/2	焼土少量、炭化粒、ローム粒微量。
第３層	黒褐色土	10YR3/3	焼土、焼土粒中量、ローム粒少量、炭化粒微量。
第４層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	焼土少量、炭化物、粘土微量。
第５層	褐色土	10YR4/4	焼土多量、炭化粒微量。
第６層	褐色土	7.5YR4/4	焼土層。
第７層	黒褐色土	7.5YR3/2	焼土、炭化物微量。
第８層	黒褐色土	7.5YR2/2	焼土、ローム粒少量。

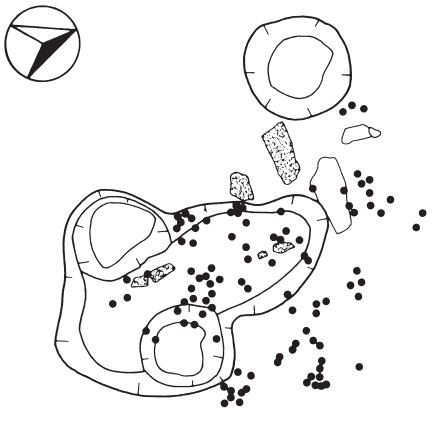
0　1m

第Ｖ－１－33図　第11号建物跡（３）



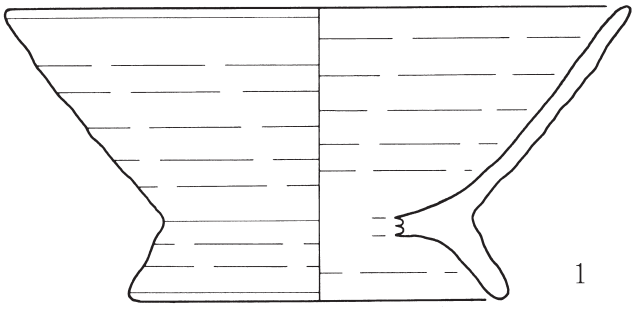
11H堅穴部内遺物出土状況

0　　2m

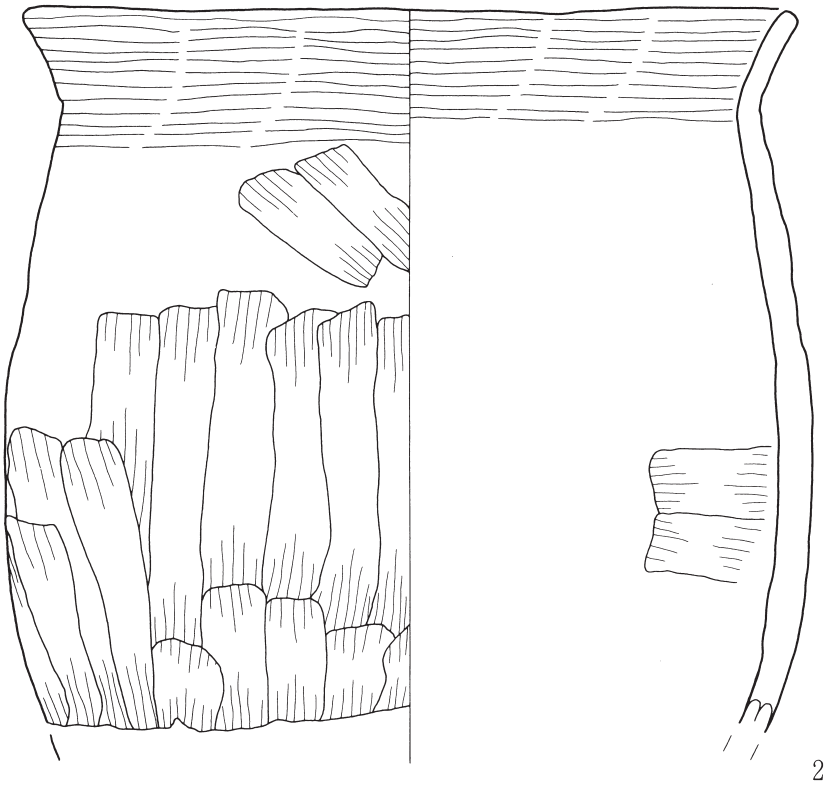


11H 掘建柱部内第63号土坑遺物出土状況

第Ⅴ－１－34図　第11号建物跡（４）



1

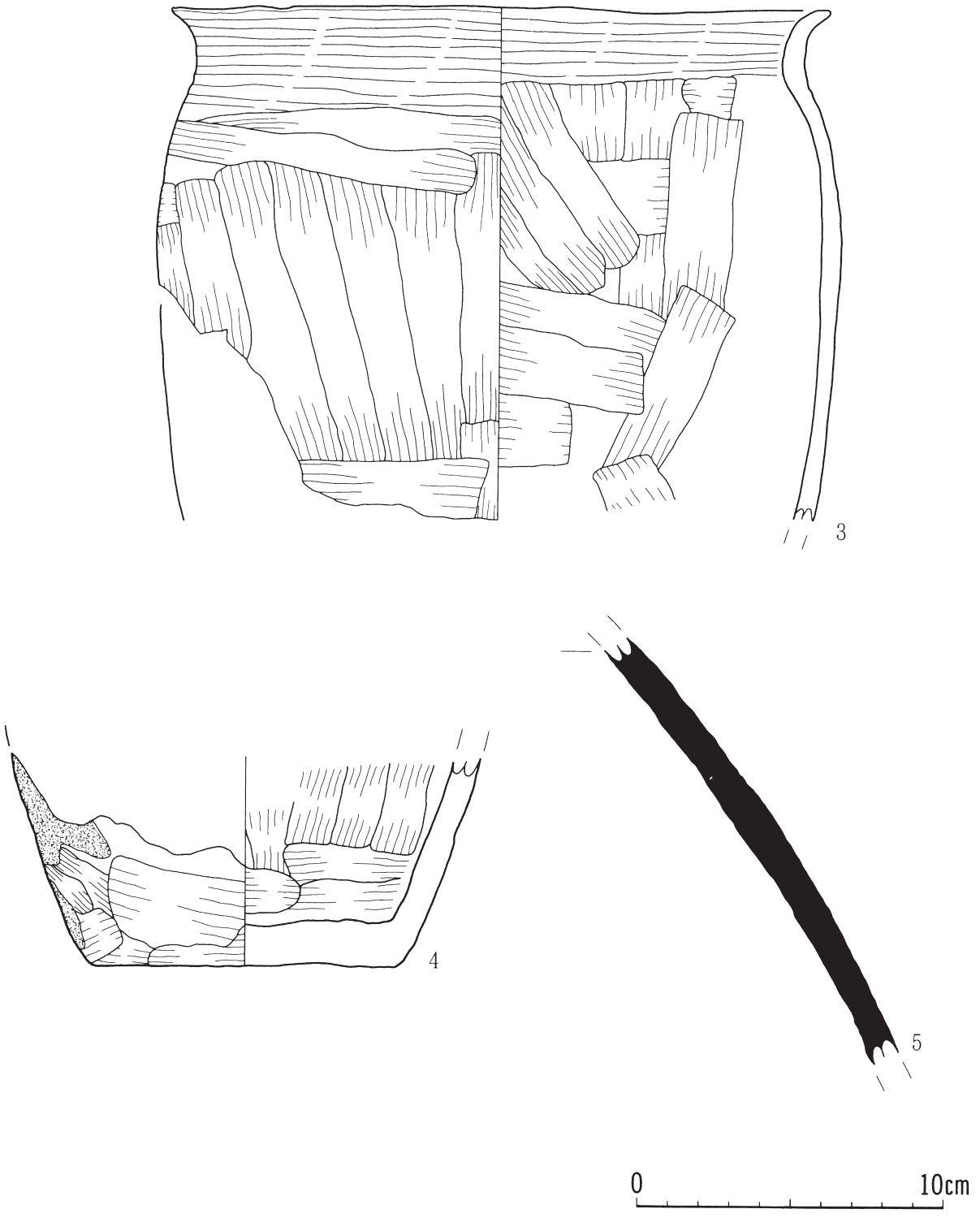


2

0　　10cm

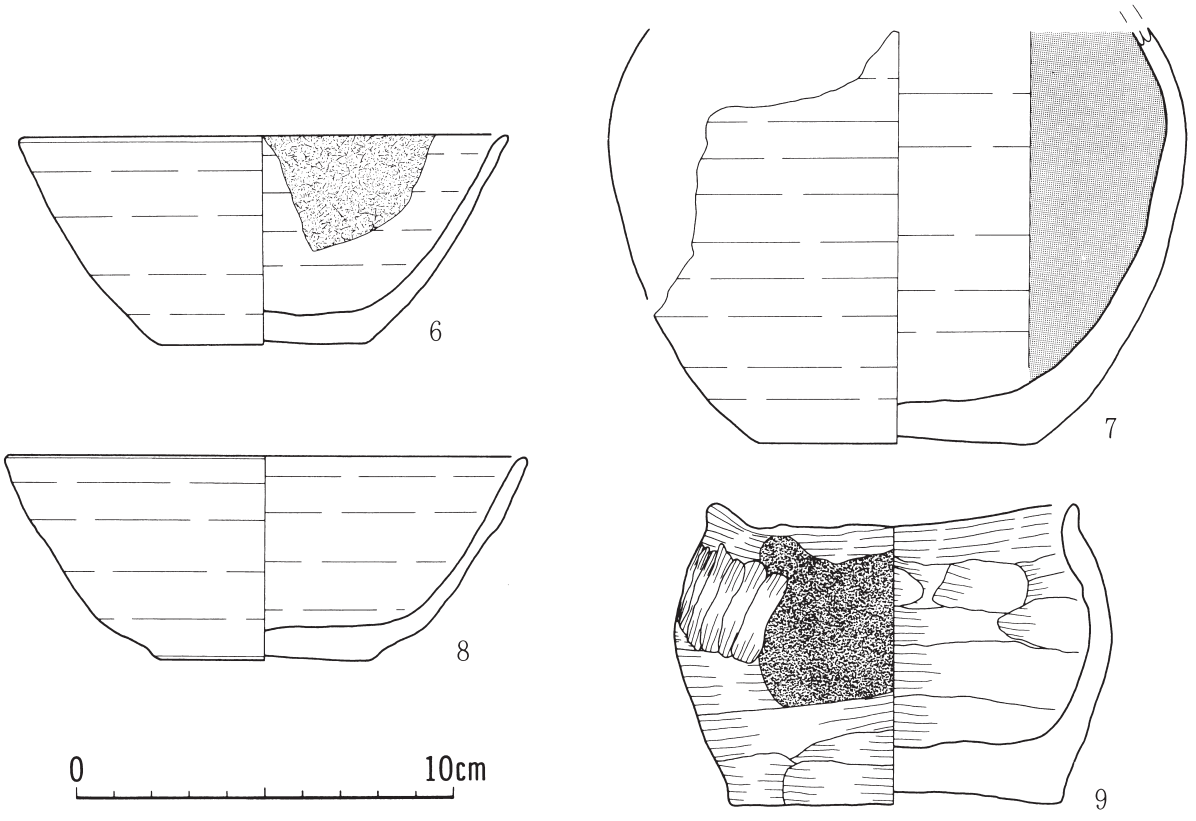
遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	床直	(16.6)	7.7	(10.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ			化粧粘土、高台付	
2	土師器	甕	床面	(26.2)	(19.6)		ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ				磨耗、炭化物付着	

第Ⅴ－１－35図　第11号建物跡（５）

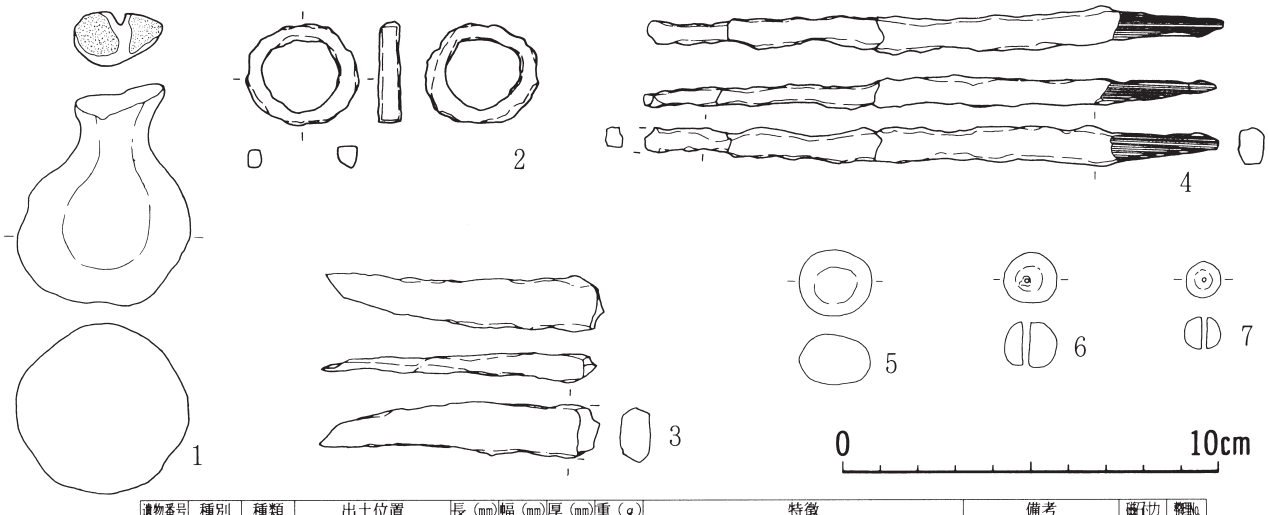


遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底面	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
3	土師器	甕	床面直上	(21.4)	(16.9)		ヨコナデ	ヘラナデ		ヨコナデ	ヘラナデ				磨耗	
4	土師器	甕	カマド火床面直上		(6.9)	(10.0)			ヘラナデ			ヘラナデ			二次焼成、砂底、化粧粘土	
5	須恵器	大甕	底面直上		(13.7)			平行叩き目			当て具痕（？）				胎土分析-13 、 P-12（五所川原）	

第Ⅴ－１－36図　第11号建物跡（６）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
6	土師器	坏	22M フク土	(13.0)	5.5	5.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		磨耗	
7	土師器	壷？	22M フク土		(10.9)	7.2		ロクロ	ロクロ		ロクロ	ロクロ			磨耗、内面黒色処理	
8	土師器	坏	66土 焼土中	13.9	5.2	5.7	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		二次焼成、磨耗	
9	土師器	小型土器	66土 フク土	(9.9)	7.9	8.9	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ユビナデ	ユビナデ	回転ヘラ切		二次焼成、磨耗	



遺物番号	種別	種類	出土位置	長（mm）	幅（mm）	厚（mm）	重（g）	特徴	備考	磁石力	整理No.
1	土製品	－	11H SD022 溝跡 確認面	58.0	48.0	45.0	68.8	土錘状 上面欠損部には紐通しの孔に相当すると思われる艶面が見られる	22溝-3 良好	－	17
2	鉄製品	不明	11H SD022 溝跡 覆土	28.0	31.0	7.0	3.2	環状 一部両面が窪む	－	×	18
3	鉄製品	刀子	11H SD022 溝跡 覆土	74.0	16.0	8.0	7.2	刃先残存 片刃である	－	△	31
4	鉄製品	刀子	11H 床直	159.0	11.0	9.0	16.7	刃部欠損 片側のみ関あり	木質部残存 分析実施	×	05
5	土製品	球状土製品	11H SD022 溝跡 覆土	12.5	19.0	13.5	2.0	黒色の焼成 扁平球状	軟質	－	10
6	土製品	玉（半球状）	11H 床直	14.0	13.0	12.0	2.0	黒色の焼成 焼成後穿孔か	堅緻	－	02
7	土製品	玉（半球状）	11H SD022 溝跡 覆土	9.5	9.5	8.5	0.7	黒色の焼成 焼成後穿孔か	堅緻	－	09

第Ⅴ－１－37図　第11号建物跡（７）

第12号建物跡　観察一覧表

位　置	Ⅰ～Ｊ－76～77	図版番号	Ⅴ－１－38～39図	写真図版番号	８－２

重複関係	50M、51M、８M＞９H＞12H 竪穴部は２つ有り。

竪穴部

法　量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
	柱間寸法１（ｍ）	?	3.60	4.80	?
	柱間寸法２（ｍ）	(4.20)	4.24	3.06	(3.04)
	周溝－幅（ｍ）	―――	―――	―――	―――
	周溝深さ（ｍ）	―――	―――	―――	―――

平面形	（長方形）	床面積	１－(17.1)㎡、２－12.8㎡	主軸方位	N－112°－E
壁	検出されなかった。			床	平坦である。
周　壁	検出されなかった。				
ピット	竪穴部１－３個検出された。主柱穴は、P_{10}～P_{12}と思われる。 竪穴部２－９個検出された。主柱穴は、P_{1}～P_{9}と思われる。				
かまど	遺存状態	検出されなかった。		位　置	不明である。
堆積土	検出されなかった。				
出土遺物	なし。				
附属施設	掘立柱建物跡１、外周溝－35M、土坑－24土 竪穴部１は、「Ｌ」字形の塀状の施設である可能性が高い。				
小　結	上部がかなり削平されており、柱穴しか検出できなかった。 竪穴部が２つあると思われるが、プランが不明確で、新旧関係については不明である。 第８号、第９号建物跡との重複関係や外周溝の出土遺物から、本建物跡の時期は、９世紀後半代？と思われる。				

掘立柱部

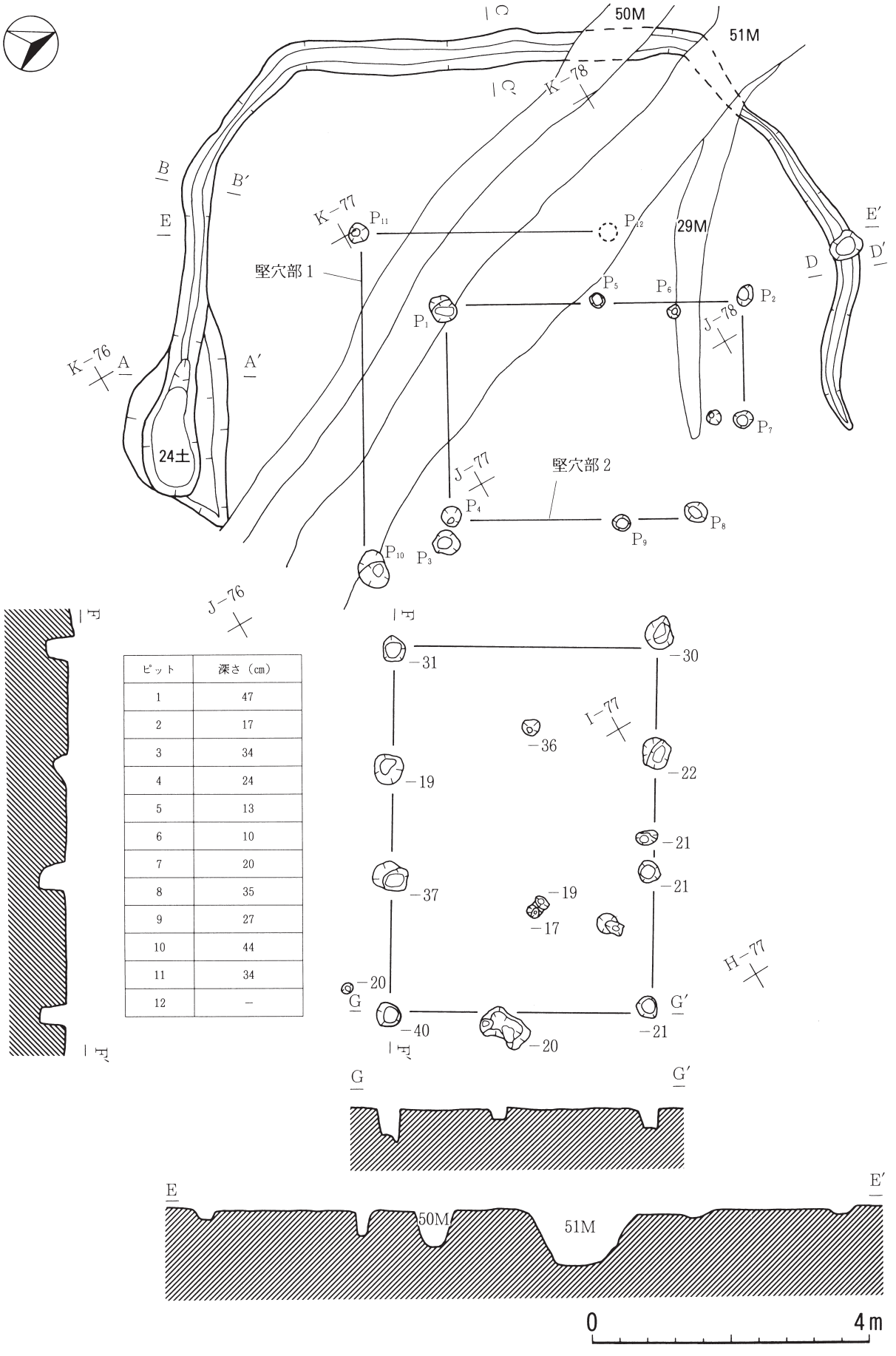
規　模	桁行３間（総長5.36ｍ－南）×梁行２間（総長3.48ｍ－東）	
平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。	
柱　穴	径	30㎝～66㎝の円形の掘り方である。
	深　さ	19㎝～40㎝である。
柱間寸法	桁行　―　1.74ｍ（５尺７寸）、1.62ｍ（５尺３寸）、2.00ｍ（６尺６寸） 梁行　―　1.56ｍ（５尺１寸）、2.28ｍ（７尺５寸）	
出土遺物	なし。	
小　結	竪穴部１の面積（17.1㎡）＋掘立柱部の面積（20.6㎡）＝約37.7㎡（約23畳） 竪穴部２の面積（12.8㎡）＋掘立柱部の面積（20.6㎡）＝約33.4㎡（約21畳）	

外周溝・35M

規　模	長　さ	18.8m	幅	34～45㎝	断面形	U字形
	深　さ	14～17㎝	幅	14～16㎝	傾　斜	西→東
堆積土	６層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒を混入する。 南側は人為堆積、西側は自然堆積と思われる。					
出土遺物	堆積土　―　土師器坏１、甕２、須恵器壷１					
小　結	かなり削平されている。 タイプ－南側は土坑が付随し、北側は末端がしっぽ状に狭まる。					

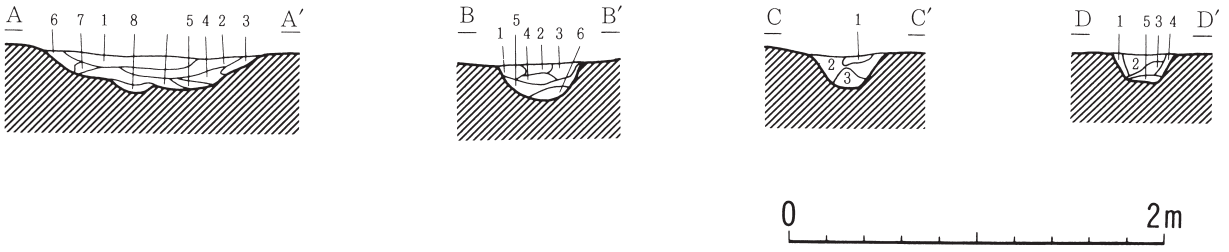
土坑・24土

平面形	楕円形	壁	ゆるやかに立上がる	底　面	凹凸がある。	
規　模	長　軸	195㎝	短軸	150㎝	深　さ	17㎝
堆積土	８層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒を混入する。 人為堆積か自然堆積が不明。					
出土遺物	堆積土　―　土師器坏１					
小　結						



ピット	深さ（cm）
1	47
2	17
3	34
4	24
5	13
6	10
7	20
8	35
9	27
10	44
11	34
12	−

第Ⅴ－１－38図　第12号建物跡（１）



第24号　土坑（A－A′）（12H）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/3　L.B（大）、ローム粒微量。
第３層　黒褐色土　10YR3/3　ローム粒中量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量。
第５層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量。
第６層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量。
第７層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒微量。
第８層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量。

第35号　溝跡（B－B′）（12H）

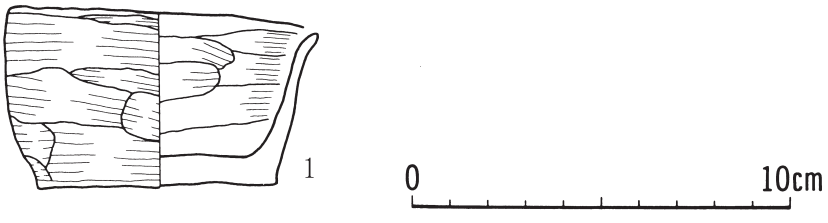
第１層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒少量。
第３層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量、炭化物微量。
第４層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量。
第５層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量。
第６層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量、粘土少量、炭化物微量。

第35号　溝跡（C－C′）（12H）

第１層　黄褐色土　10YR5/6　砂、L.B微量。
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量、炭化粒、L.B微量。
第３層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒中量、砂、粘土B、炭化物、L.B微量。

第35号　溝跡（D－D′）（12H）

第１層　灰黄褐色土　10YR4/2　ローム粒多量。
第２層　暗褐色土　10YR3/3　ローム粒少量。
第３層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量。
第４層　暗褐色土　10YR3/4　ローム粒中量、炭化物微量。
第５層　暗褐色土　10YR3/3　L.B中量。



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	小型土器	SB柱穴フク土	8.3	4.7	6.4	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	ヘラナデ		磨耗	

第Ⅴ－１－39図　第12号建物跡（２）

第13号建物跡　観察一覧表

位　置	M～N－43～45	図版番号	V－1－40～44図	写真図版番号	10－1～6

重複関係	SB03>13H>61M、67M

竪穴部

法量		東　壁	西　壁	南　壁	北　壁
	壁　長（m）	4.50	4.50	4.40	4.54
	壁　高（m）	―――	―――	―――	―――
	周溝－幅（m）	28	30	24	24
	周溝深さ（m）	18	26	30	9

平面形	正方形	床面積	約15.2㎡	主軸方位	N－118°－E
壁	検出されなかった。			床	平坦である。
周壁	かまど直下を除き一巡する。				
ピット	4個検出された。 主柱穴は、P_1～P_4と思われ、四隅に配置されている。				
かまど	遺存状態	良好	位　置	東壁の南寄りである。	
	かまど本体は白色粘土等を貼り固めており、芯材は使用していない。燃焼部は床面から掘り込まれており、火床面は55cm×40cm程の不整な楕円形を呈している。煙道部は、半近式で住居跡外に50cmほど延びている。				
堆積土	13層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、炭化物を混入する。 人為堆積と思われる。				
出土遺物	堆積土　―　土師器坏2、甕5、須恵器壷1 かまど堆積土　―　土師器、甕6 胎土分析の結果、須恵器は五所川原産と推定される。				
附属施設	掘立柱建物跡1、外周溝－61M、土坑－31土 67M及び35土は、本建物跡に伴う可能性がある。				
小　結	出土遺物及び白頭山火山灰の検出状況から、本建物跡の時期は、9世紀末～10世紀初頭と思われる。				

掘立柱部1

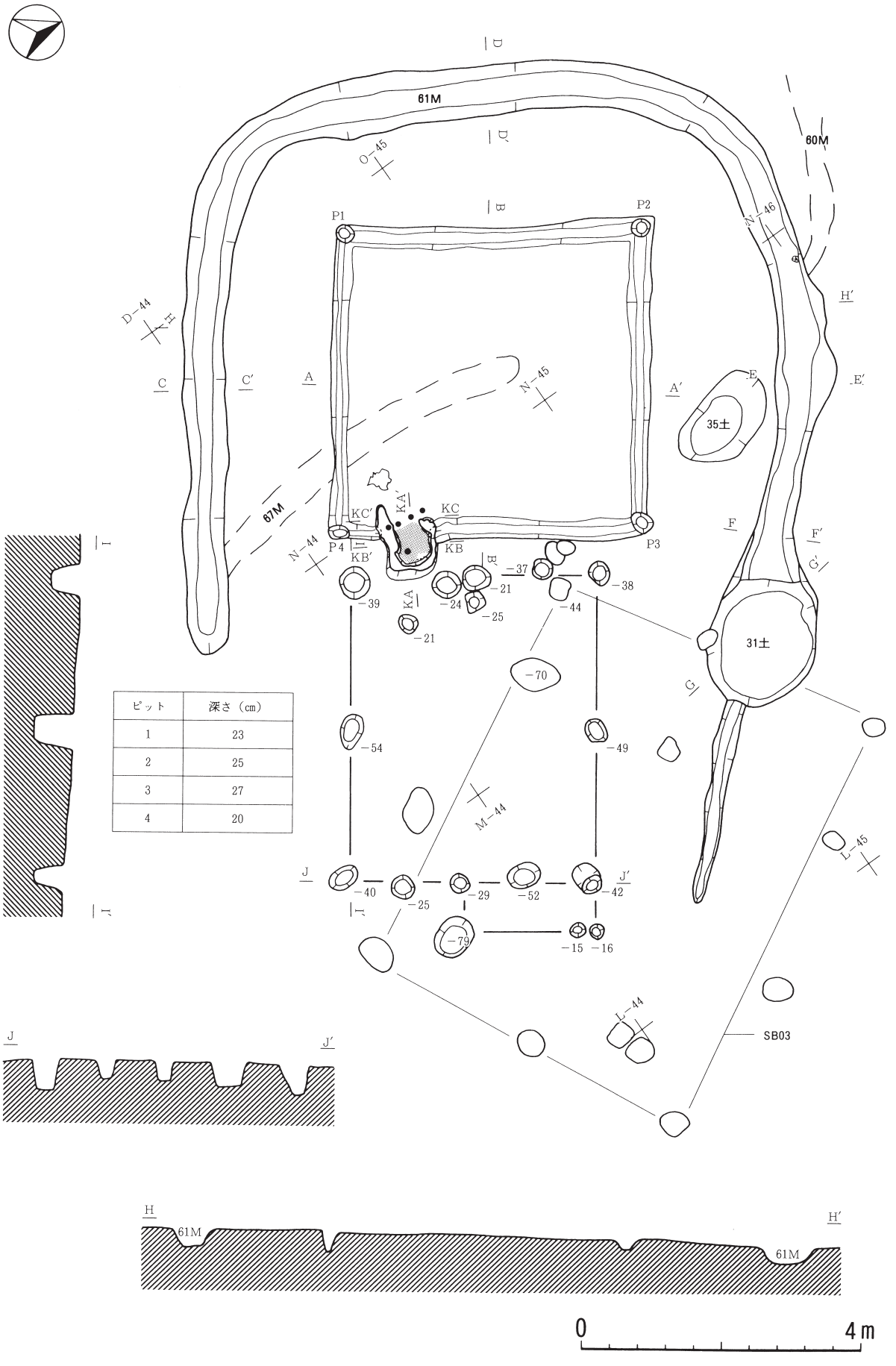
規　模	桁行2間（総長4.20m－南）×梁行4間（総長3.56m－東）		
平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。		
柱　穴	径	19cm～58cmの円形の掘り方である。	
	深　さ	15cm～79cmである。	
柱間寸法	桁行　―　2.14m（7尺0寸）、2.06m（6尺7寸） 梁行　―　0.74m（2尺4寸）、0.80m（2尺6寸）、0.92m（3尺0寸）、1.02m（3尺4寸）		
出土遺物	なし。		
小　結	竪穴部の面積（15.2㎡）＋掘立柱部の面積（15.0㎡）＝約30.2㎡（約19畳）		

外周溝・61M

規　模	長　さ	25.6m	幅	57～84cm	断面形	箱形
	深　さ	30～41cm	幅	22～36cm	傾　斜	西→東
堆積土	8層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、炭化物を混入する。上部で白頭山火山灰が検出された。人為堆積と思われる。					
出土遺物	堆積土　―　土師器坏22、甕110、須恵器坏3、壷2					
小　結	タイプ－南側はほぼ同じ幅、北側は土坑が付随し、外周溝の末端は更にしっぽ状に延びる。遺物が廃棄された形で出土した。他に比較して遺物量が非常に多い。					

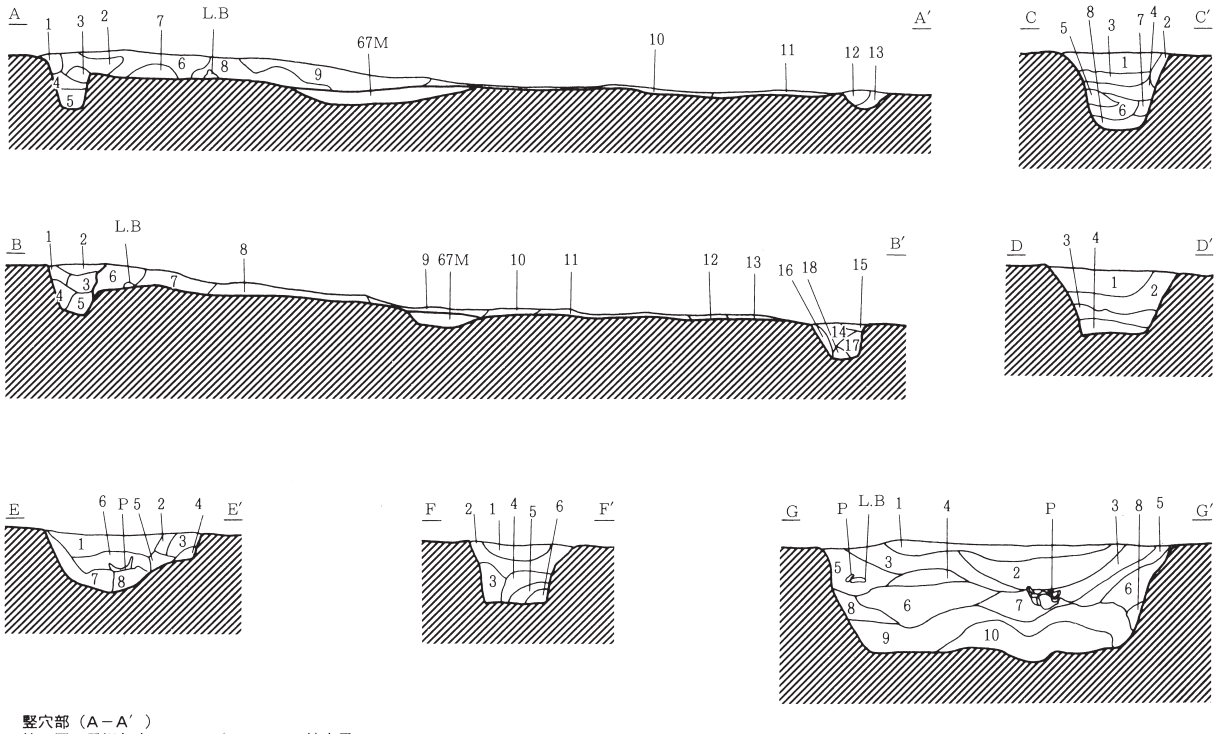
土坑・31土

平面形	楕円形	壁	ゆるやかに立上がる	底　面	ほぼ平坦である。	
規　模	長　軸	182cm	短軸	150cm	深　さ	57cm
堆積土	8層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、炭化物を混入する。 人為堆積と思われる。					
出土遺物	堆積土　―　土師器14、須恵器3					
小　結	掘り込みが深く、しっかりしている。					



ピット	深さ（cm）
1	23
2	25
3	27
4	20

第Ⅴ－１－40図　第13号建物跡（１）



竪穴部（A－A′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量。
第２層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒多量。
第３層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量。
第４層　黒色土　10YR2/1　ローム粒多量、L.B（大）微量。
第５層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量、にぶい黄褐色土微量。
第６層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、焼土微量。
第７層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量、焼土、炭化物L.B（大）微量。
第８層　黒色土　10YR2/1　L.B、ローム粒中量、炭化粒微量。
第９層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、炭化物、ローム粒少量。
第10層　褐色土　10YR4/4　ローム粒、黒褐色土少量。
第11層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒少量。
第12層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒微量。
第13層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量。

竪穴部（B－B′）

第１層　黒色土　10YR2/1　ローム粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、L.B（大）微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、砂微量。
第５層　黒褐色土　10YR2/2　L.B多量、ローム粒少量。
第６層　黒色土　10YR2/1　ローム粒、暗褐色土少量。
第７層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量。
第８層　褐色土　10YR4/4　ローム粒、黒褐色土少量。
第９層　黒褐色土　10YR2/2　焼土、炭化物、ローム粒少量。
第10層　黒色土　10YR2/1　L.B、ローム粒中量、炭化粒微量。
第11層　暗褐色土　10YR3/1　焼土粒微量。
第12層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、ローム粒少量、炭化物微量。
第13層　褐色土　10YR4/4　焼土粒、ローム粒少量。
第14層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量、焼土粒、炭化粒微量。
第15層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒少量。
第16層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒多量、焼土微量。
第17層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒少量、焼土粒、炭化粒微量。
第18層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量、炭化粒微量。

第61号　溝跡（C－C′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、ローム粒少量、炭化粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/3　粘土多量、ローム粒中量、焼土粒微量。
第３層　黒色土　10YR1.7/1　焼土粒少量、焼土、炭化粒微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、焼土、炭化粒微量。
第５層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒多量、焼土、炭化粒微量。
第６層　黒褐色土　10YR2/3　粘土、ローム粒中量、炭化粒微量。
第７層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒多量、粘土少量、焼土、L.B（大）微量。
第８層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒中量、焼土微量。

第61号　溝跡（D－D′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、焼土、炭化粒微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、焼土微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、粘土、褐色土少量、焼土微量。
第４層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒多量、粘土少量、焼土、炭化物微量。

第61号　溝跡（E－E′）

第１層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量、火山灰微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、焼土、炭化物微量。
第３層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒少量、焼土、炭化粒微量。
第４層　黒色土　10YR2/1　粘土多量、砂中量。
第５層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒多量、焼土少量、炭化粒微量。
第６層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量、焼土、炭化粒、L.B（小）微量。
第７層　黒褐色土　10YR2/3　粘土、ローム粒中量、焼土、炭化粒微量。
第８層　暗褐色土　10YR3/4　粘土多量。

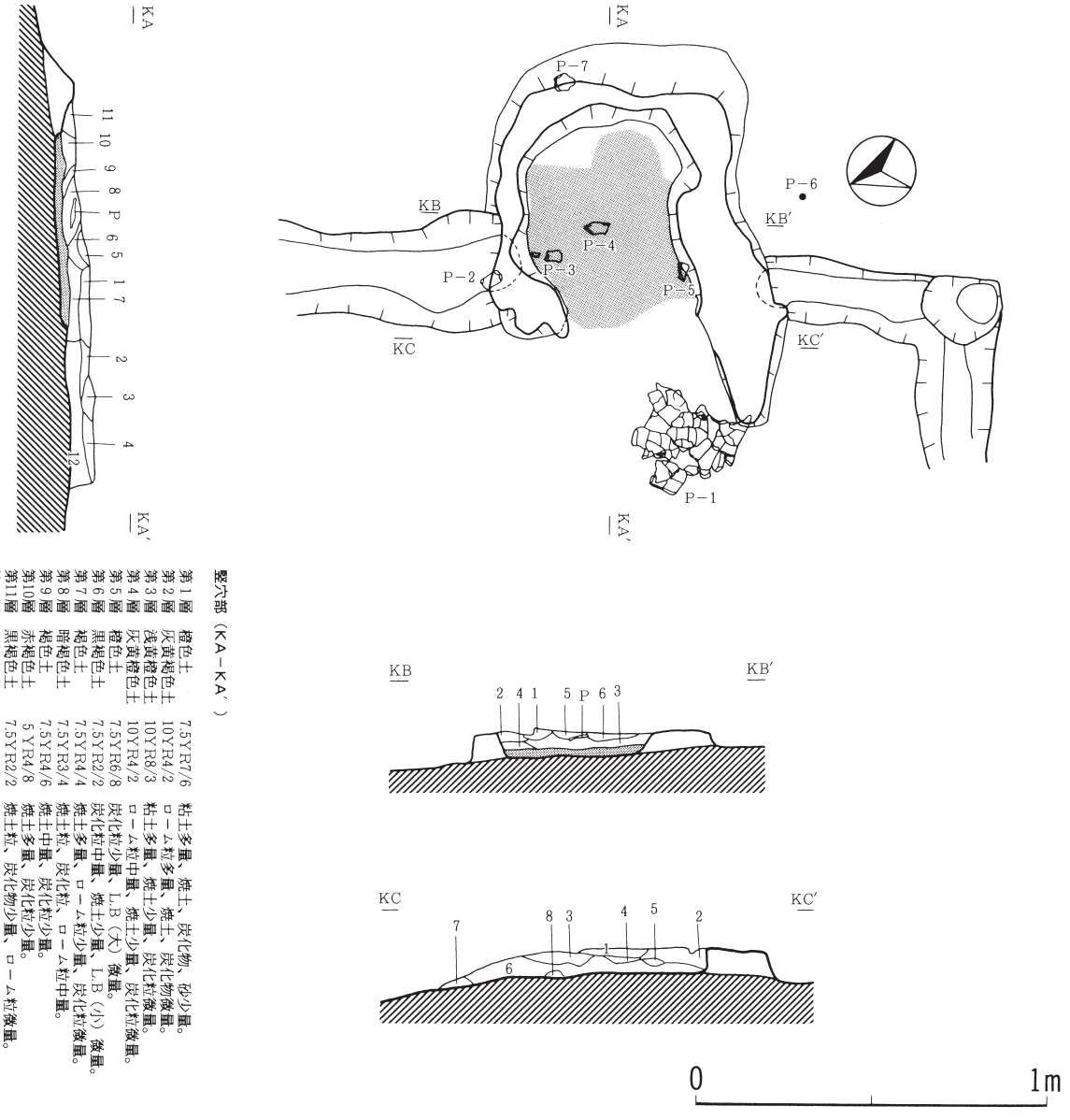
第61号　溝跡（F－F′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量。
第２層　黒色土　10YR1.7/1　焼土粒、ローム粒微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、焼土粒、L.B（小）微量。
第４層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒中量、焼土微量
第５層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒多量、粘土少量、焼土微量。
第６層　黒色土　10YR1.7/1　ローム粒中量、焼土微量。

第31号　土坑（G－G′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、炭化粒微量。
第２層　黒色土　10YR2/1　L.B（大）、ローム粒中量、焼土（小）微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/3　ローム粒中量、焼土（小）、炭化物（小）微量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　L.B（大）中量、ローム粒少量、炭化物微量。
第５層　黒色土　10YR2/1　焼土（小）、炭化物、ローム粒中量。
第６層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒多量、L.B（大）中量。
第７層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒多量。
第８層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒微量。
第９層　黒色土　10YR2/1　L.B（大）多量、ローム粒中量。
第10層　黒色土　10YR2/1　ローム粒中量、L.B微量。

第Ｖ－１－41図　第13号建物跡（２）



竪穴部（KA−KA′）

第1層	橙色土	7.5YR7/6	粘土多量、焼土、炭化物、砂少量。
第2層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒多量、焼土、炭化物微量。
第3層	浅黄橙色土	10YR8/3	粘土多量、焼土少量、炭化粒微量。
第4層	灰黄橙色土	10YR4/2	ローム粒中量、焼土少量、炭化粒微量。
第5層	橙色土	7.5YR6/8	炭化粒少量、L.B（大）微量。
第6層	黒褐色土	7.5YR2/2	炭化粒中量、焼土少量、L.B（小）微量。
第7層	褐色土	7.5YR4/4	焼土多量、ローム粒少量、炭化粒微量。
第8層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒、炭化粒、ローム粒中量。
第9層	褐色土	7.5YR4/6	焼土中量、炭化粒少量。
第10層	赤褐色土	5YR4/8	焼土多量、炭化粒少量。
第11層	黒褐色土	7.5YR2/2	焼土粒、炭化物少量、ローム粒微量。
第12層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、炭化粒少量、ローム粒微量。

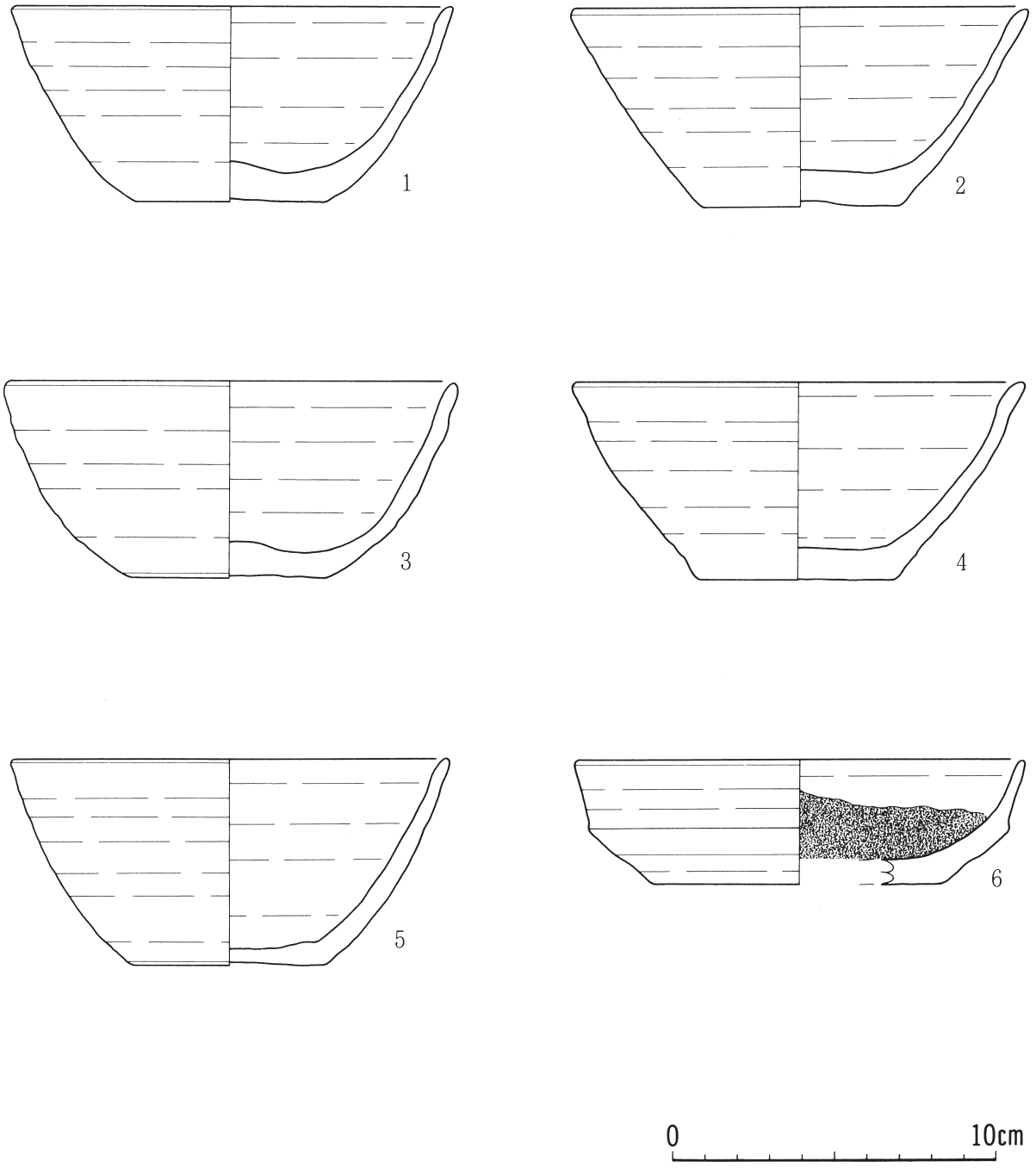
竪穴部（KB−KB′）

第1層	橙色土	7.5YR6/1	ローム粒多量、炭化物少量、焼土微量。
第2層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒中量、焼土少量、炭化粒少量。
第3層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒中量、焼土、ローム粒少量、炭化物微量。
第4層	赤褐色土	5YR4/8	焼土多量、炭化粒少量。
第5層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒、炭化粒、ローム粒中量。
第6層	暗褐色土	10YR3/3	焼土、炭化粒、ローム粒中量。

竪穴部（KC−KC′）

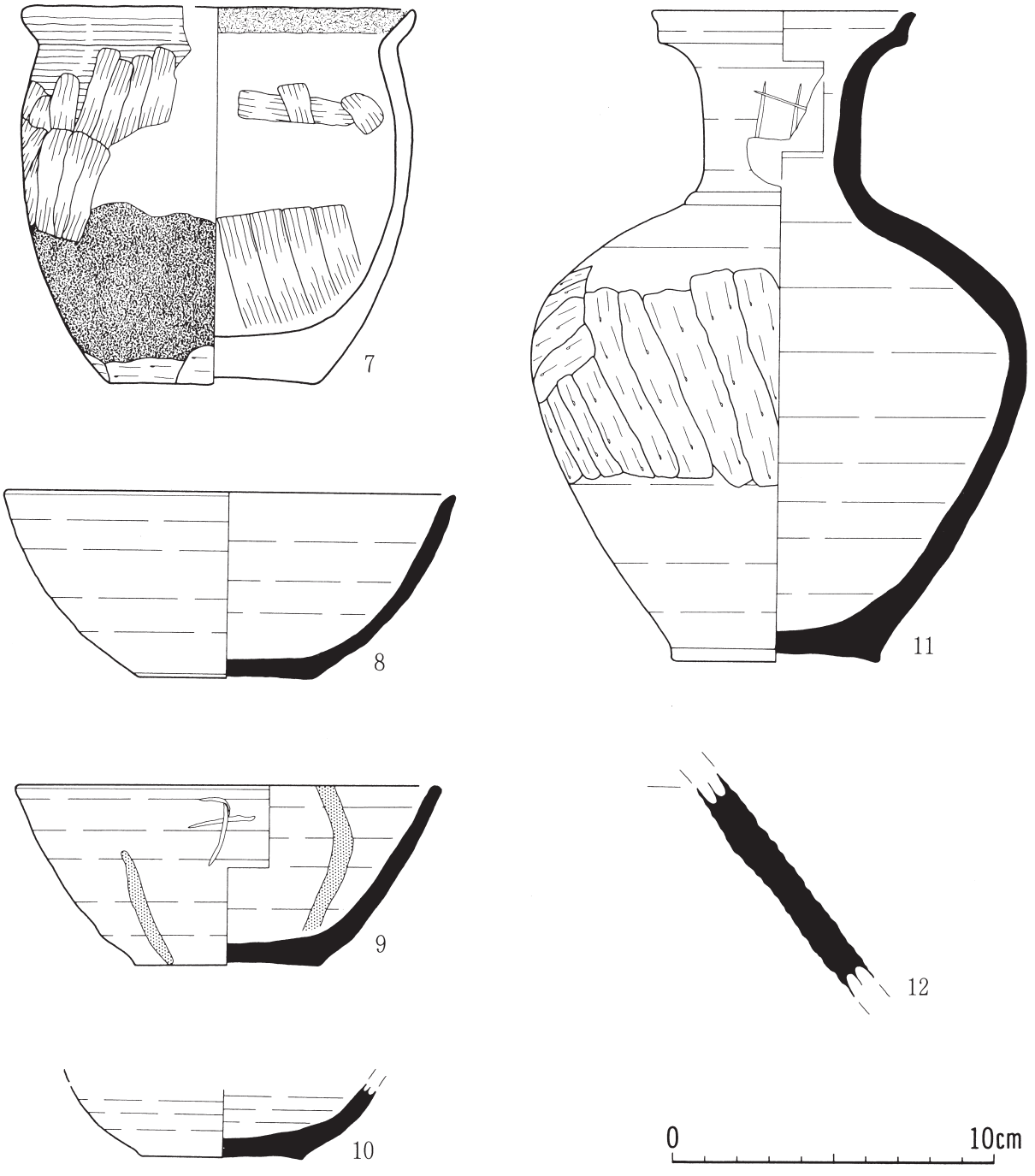
第1層	橙色土	7.5YR7/6	粘土多量、焼土、炭化物、砂少量。
第2層	暗褐色土	10YR3/3	粘土、ローム粒中量、焼土少量、炭化物微量。
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量、焼土少量、炭化物微量。
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量、焼土、炭化粒微量。
第5層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム粒多量、焼土、炭化物微量。
第6層	黒褐色土	10YR2/2	焼土、炭化粒少量、ローム粒微量。
第7層	黄褐色土	10YR5/6	焼土、ローム粒微量。
第8層	黒褐色土	10YR2/3	焼土少量、炭化物微量。

第Ⅴ−1−42図　第13号建物跡（3）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	坏	61M フク土	13.6	6.0	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		磨耗	
2	土師器	坏	61M フク土	(14.2)	6.2	6.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り			
3	土師器	坏	61M フク土	(14.0)	6.1	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		磨耗	
4	土師器	坏	61M フク土	(14.0)	6.0	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		磨耗	
5	土師器	坏	61M フク土	(13.6)	6.3	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		磨耗	
6	土師器	坏	61M フク土	(14.0)	3.8	(9.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		磨耗、、灯明具、二次焼成	

第Ⅴ－１－43図　第13号建物跡（４）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値（cm）			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	写真番号
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
7	土師器	小型甕	61M フク土	(12.2)	11.7	6.4	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ		ヘラナデ	ヘラナデ			ハクリ、スス、二次焼成	
8	須恵器	坏	61M フク土	(14.0)	5.7	(5.6)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		二次焼成	
9	須恵器	坏	61M フク土	13.2	5.5	5.7	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り		火ダスキ痕、ヘラ書記号	
10	須恵器	坏	61M フク土		(2.1)	(5.1)	ロクロ		ロクロ			ロクロ	回転糸切り			
11	須恵器	長頸壷	31土 フク土	(8.2)	20.5	(6.4)	ロクロ	ヘラケズリ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	菊花文		ヘラ書記号、胎土分析－28（五所川原）	
12	須恵器	大甕	31土 フク土		(6.7)			平行叩き目			平行叩き目				胎土分析－47（搬入）	

第Ⅴ－1－44図　第13号建物跡（5）

第14号建物跡　観察一覧表

位　置	J～K－44～46	図版番号	V－1－45～46図	写真図版番号	10－7

重複関係	62M＞14H、34Hとの新旧関係は不明である。 縦穴部は4度の建替えがあった可能性がある。新旧関係は、1→2→3→4と思われる。

竪穴部

法量		東壁	西壁	南壁	北壁	床面積（m²）
	柱間寸法1（m）	4.21	4.42	4.50	4.40	18.9
	柱間寸法2（m）	4.48	4.85	4.32	4.53	19.3
	柱間寸法3（m）	5.22	5.03	5.12	4.90	26.7
	柱間寸法4（m）	6.60	6.84	4.95	4.92	32.7

平面形	1－正方形、2・3・4－長方形	主軸方位	N－54°－E	
壁	検出されなかった。	床	ほぼ平坦である。	
周壁	検出されなかった。			
ピット	竪穴部1－9個検出された。主柱穴は、P_{1}～P_{10}と思われる。間仕切りの可能性もある。 竪穴部2－9個検出された。主柱穴は、P_{11}～P_{15}と思われる。 竪穴部3－18個検出された。主柱穴は、P_{11}、P_{19}～P_{29}と思われる。 竪穴部4－9個検出された。主柱穴は、P_{11}、P_{19}、P_{30}～P_{47}と思われる。			
かまど	遺存状態　検出されなかった。	位置	不明である。	
堆積土	検出されなかった。			
出土遺物	なし。			
附属施設	掘立柱建物跡1、外周溝－57M、土坑－なし　58土が伴う可能性がある。 北側に2間、西側に1間（2列）の塀状の施設。			
小結	かなり削平されていたが、多数の柱穴を検出することができた。 他の建物跡と比べて、竪穴部と掘立柱部の間に少し距離がある。 出土遺物や4度にわたる建て替えの跡から、本建物の時期は、10世紀前半とかなり幅があると思われる。			

掘立柱部1

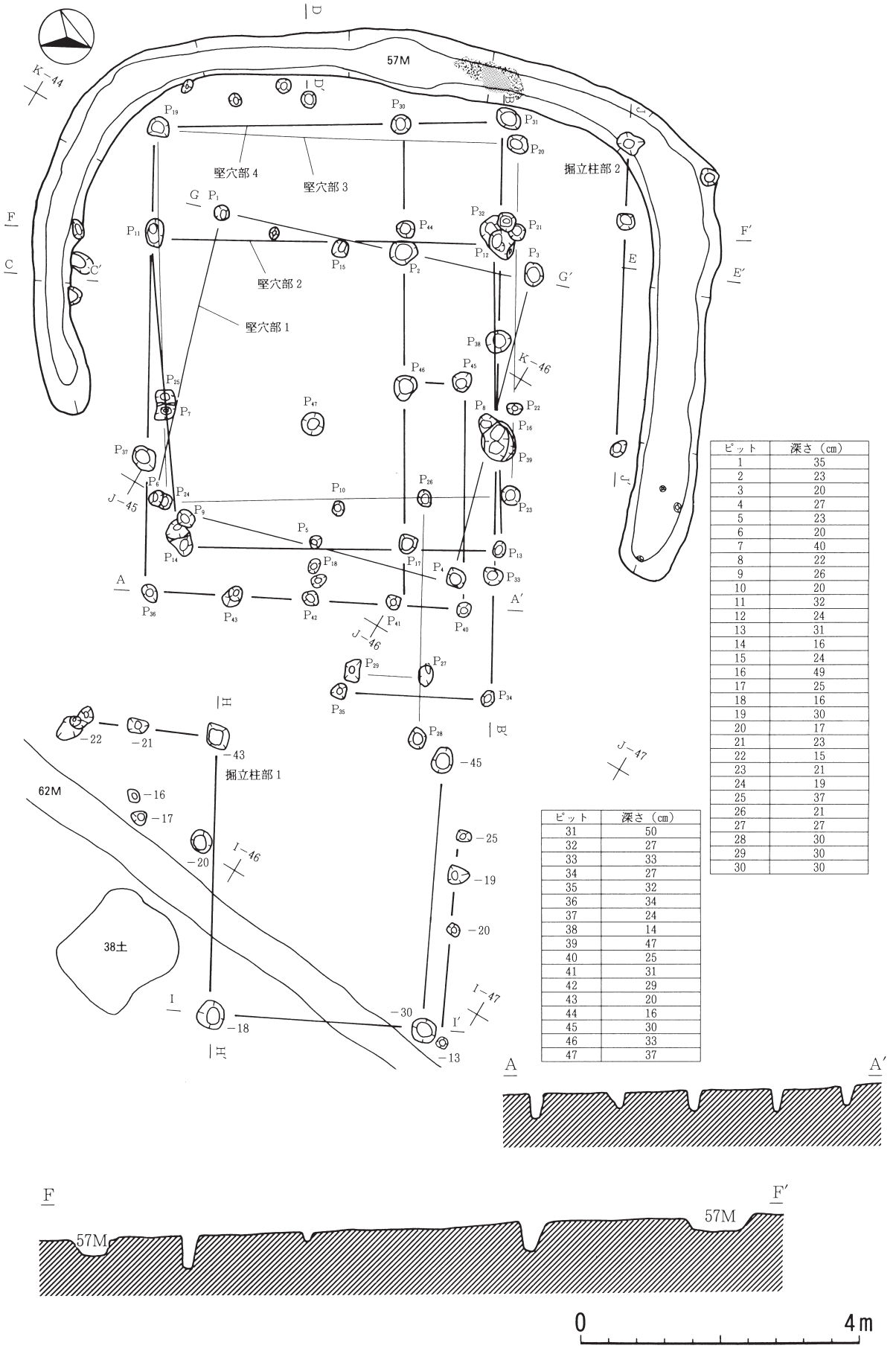
規模	桁行2間（総長3.84m－南）×梁行1間（総長2.96m－東）	
平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡に、支柱が附属すると思われる。	
柱穴	径	8㎝～36㎝の円形の掘り方である。
	深さ	11㎝～45㎝である。
柱間寸法	桁行　—　1.54m（5尺0寸）、2.30m（7尺6寸） 梁行　—　2.96m（9尺8寸）	
出土遺物	柱穴堆積土　—　土師器甕2	
小結	竪穴部1の面積（18.9m²）＋掘立柱部の面積（11.4m²）＝約30.32m²（約19畳） 竪穴部2の面積（19.3m²）＋掘立柱部の面積（11.4m²）＝約30.72m²（約19畳） 竪穴部3の面積（26.7m²）＋掘立柱部の面積（11.4m²）＝約38.12m²（約24畳） 竪穴部4の面積（32.7m²）＋掘立柱部の面積（11.4m²）＝約44.12m²（約27畳）	

掘立柱部2

規模	2間（総長4.30m）	
平面形式	直線を呈する東西棟建物跡である。	
柱穴	径	26㎝～42㎝の楕円形の掘り方である。
	深さ	10㎝～25㎝である。
柱間寸法	桁行　—　1.10m（3尺6寸）、3.20m（10尺6寸）	
出土遺物	なし	
小結	竪穴部の北側に位置する。	

外周溝・57M

規模	長さ	23.2m	幅	52～85㎝	断面形	箱形
	深さ	19～28㎝	幅	24～50㎝	傾斜	西→東
堆積土	7層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土を混入する。 人為堆積と思われる。					
出土遺物	堆積土　—　土師器坏2、甕16					
小結	削平されている。 タイプ－土坑が付随しない。北側はやや幅広い。					

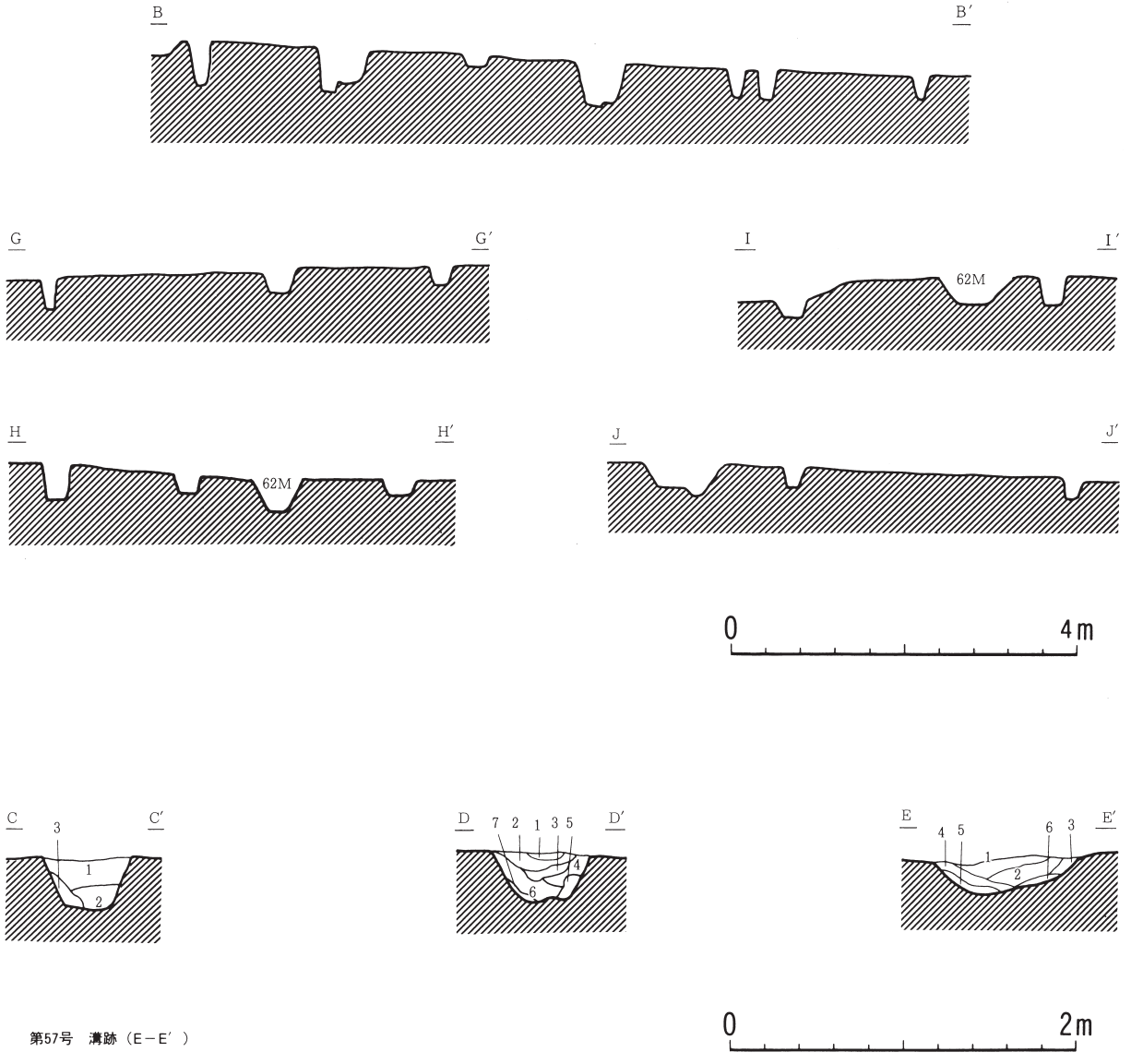


ピット	深さ（cm）
1	35
2	23
3	20
4	27
5	23
6	20
7	40
8	22
9	26
10	20
11	32
12	24
13	31
14	16
15	24
16	49
17	25
18	16
19	30
20	17
21	23
22	15
23	21
24	19
25	37
26	21
27	27
28	30
29	30
30	30

ピット	深さ（cm）
31	50
32	27
33	33
34	27
35	32
36	34
37	24
38	14
39	47
40	25
41	31
42	29
43	20
44	16
45	30
46	33
47	37

0　4m

第Ⅴ－１－45図　第14号建物跡（１）



第57号　溝跡（E－E′）

第１層　黒色土　10YR1.7/1　焼土粒、ローム粒少量。
第２層　黒色土　10YR2/1　ローム粒少量、焼土、炭化物微量。
第３層　黒色土　10YR2/1　焼土粒、炭化物、ローム粒微量。
第４層　黒色土　10YR2/1　ローム粒中量、L.B少量。
第５層　褐色土　10YR4/4　ローム粒多量、砂微量。
第６層　黒褐色土　10YR3/1　ローム粒多量。

第57号　溝跡（D－D′）

第１層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、焼土、炭化物微量。
第２層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、炭化物、ローム粒微量。
第３層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、焼土粒少量。
第４層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒少量、焼土粒微量。
第５層　黒褐色土　10YR2/2　ローム粒中量、焼土粒、炭化物微量。
第６層　黒褐色土　10YR2/2　焼土粒、炭化粒、ローム粒微量。
第７層　黒色土　10YR2/1　L.B、ローム粒中量、炭化物微量。

第57号　溝跡（C－C′）

第１層　黒色土　10YR2/1　ローム粒中量、焼土粒、炭化粒微量。
第２層　黒色土　10YR1.7/1　L.B(大)、ローム粒多量、粘土(大)少量、炭化物微量。
第３層　黒褐色土　10YR3/2　ローム粒中量、焼土、炭化物微量。

第Ｖ－１－46図　第14号建物跡（２）